

金星文字解読による反重力モーター開発特集

UFO

SINCE 1961
GAP-JAPAN NEWSLETTER



UFO/超能力/宇宙哲学
コンタクティ

contactee

AUTUMN
1993

122

金星文字 金星文字 を解読してUFOの推進原理 を解明!

星々への切符



〈反重力モーター開発のカギ〉

オメ教授が発見した金星(?)文字

不思議な体験連続の人生

私だけが見るUFO

万物は人間の想念に感応する

四感・生命の息・転生

〈巻頭言〉 UFOと太陽系	1
金星文字を解読してUFOの推進原理を解明!	2
ハシル・バン・テン・バーグ	
〈写真〉 奈良公園上空のUFO	7
松村芳之	
星々への切符	8
遠藤昭則	
〈写真〉 北部チャールストンの円盤	10
オメ教授が発見した金星?文字	18
久保田八郎	
GAP短信	21
科学—SCIENCE	22
不思議な体験連続の人生	24
千葉福造	
オーラで異星人を見分ける	27
紙屋光孝	
私だけが見るUFO(1)	28
須山有美子	
私だけが見るUFO(2)	29
宮本浩子	
万物は人間の想念に感応する	31
塩谷信男	
四感・生命の息・転生	34
G. アダムスキー	
〈投稿欄〉ユーコン広場	42
不思議な黄金色の影	44
加藤純一	
秋田支部UFO観測会・懇談会成功	45
大盛況の大阪支部大会	46
本誌バックナンバー掲載記事目録	48
〈予告〉1993年度日本GAP総会	49
〈広告〉新アダムスキー全集	50
編集後記	51
日本GAP全国月例セミナー案内	52



金星人からジョージ・アダムスキーに伝えられた金星のシンボルマーク。2個の図形の内、左側は宇宙の父性原理(陽)、右側は母性原理(陰)を意味する。円は宇宙をあらわしている。

GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基いて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コスミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界(惑星)から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題に関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米ソ等の大國政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト(接触)しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

〈表紙写真〉

1977年7月11日の昼頃、ドイツのヴルツブルク郊外に出現したUFOを、ディーター・クロール氏が連続6枚の素晴らしい写真を撮影した最後の1枚。凸レンズのようにふくらんだドーム付きの金属質の物体が接近したという。

四月二日付の新聞によると、我々の太陽系の最遠方の惑星である冥王星の外側を回っている小天体が発見されたという。これまで冥王星以遠には太陽系に属する天体は存在しないというのが天文学上の定説であったために、これは太陽系の構造を考え直させる画期的な発見だと国立天文台の学者が述べている。

(巻頭言) UFOと太陽系



発見したのはハワイ大学天文学研究所のデイヴィッド・ジュリーット教授とカリフォルニア大学バークレー校のジェイン・ルー博士で、ハワイのマウナケア山頂の二・二メートル望遠鏡で観測を続けた結果であるという。見つけたのは直径二〇〇ないし二五〇キロメートルの小さい天体で、短周期彗星の巣とみられるカイパーベルトと一致しているところから、彗星の発生地出身とみられているらしい。

アダムスキーによれば、我らの太陽系は九個の惑星から成っているのではなく、全部で一二個あり、その間にアステロイド帯が二カ所あり、最遠の一・二個目の惑星の外側に第三アステロイド帯があるという。第一アステロイド

帯は火星と木星の間にあり、第二アステロイド帯は海王星と冥王星の間にあるといっている。

これら三カ所のアステロイド帯は、テレビのブラウン管のアノードの役目をしている。つまりカソードから発射される電子ビームはそれぞれのアノードによって加速されながらスクリーンに到達するが、これと同様に、太陽から放射されるビームも三カ所のアステロイド帯によって加速されるので、距離の自乗に反比例して弱まることはなく、遠い一二番惑星までビームが到達して、そこでも地球と同じような温暖な気候が得られるというのである。

今回のハワイ大学の発見は、アダムスキーの太陽系理論の正しさを証明する糸口になるかもしれない。というのは、太陽系の各惑星に関しては天文学でもまだ謎が多く、不思議な現象が未解決のまま残されているために、太陽系の実態は不可解であったからだ。

アダムスキー問題が一般人の関心の的にならないのは、金星は灼熱地獄で、到底生物の住めるような環境ではないという金星探査機による「発見」を、絶対的に正しいと信じ込んでいる世界の科学者や一般人のナイーブさを大國政府が巧妙に利用しているからである。

先日、東京駅前で久しぶりにばったり出会った科学技術者のM氏によると、四年前アメリカが打ち上げた金星探査

機のマゼランによる観測結果が殆ど発表されていないので、何がどうなっているのかわからないという。

そういえば、初めに述べた冥王星の外側の小天体にしても、イギリスの権威ある某科学専門誌に掲載されている記事は、あれほどの大発見にしては、かなり簡単なもので、もどかしい思いをしていると編者が話したら、その専門誌に掲載される科学記事類は研究結果のほんの一部分なのだM氏がいう。政府の圧力、または学者自身の隠蔽によって、画期的な発見がガラス張りで一〇〇パーセント公開されることはあり得ないと語っていた。

アダムスキーを疑惑視する自由が人間にある一方、否定的な断言を疑惑視する自由があってもよい。実は大國政府の宇宙探査における諸発見事は、政治という厚いヴェールのもとに隠蔽されて極秘にされているケースが多いのであって、記者会見で政府のスポークスマンが発表する内容は、完全に歪められているか、または真相の一部分にすぎない、ということをもっと認識する必要がある。

日本の航空自衛隊はUFOの出現時に戦闘機がスクランブルをかけるが、その結果、空自はUFOの出現を知っているのにあれは鳥だったというような発表でごまかすのだという。

地球世界はまだ天動説の域を出ていないと言えるだろう。地球人にとって

は惑星地球だけが人間の住む唯一の世界であり、広大な宇宙の無数の天体はすべて地球人の目を楽しませるためにみに創造されて、夜ごと星空は地球を中心に旋回しているのだ。

「日本では現在も公衆浴場で男女が混浴を行なっていると全アメリカ人が信じている」。これはアメリカで元弁護士だった人が編者に語った言葉である。啞然とするのみ。

かつて日本GAPがヨーロッパからUFO研究家を招聘して講演会を開催したとき、この人は、日本にはチョンマゲを結って腰に刀をさしたサムライがまだ存在していると思ひ込んでいたので、想像を絶する近代的な巨大大都市東京に目を回していた。

四月に当方から贈った東京と日本の写真集を見たイギリスのある研究者は「トキーヨーでは自動車空中を走っている。日本人はなんと偉大な賢明な民族なのか！」と、腰を抜かさんばかりに驚いたと言ってきた。高架道路を写真で見ると仰天したらしい。

どだい地球人の知識階級さえも狭い地球上の他国の事を知らないのだから、まして大衆にとって別な惑星の文明などは想像外だろう。

だが失望は禁物だ。強烈な信念と希望と絶対に諦めない力、怒濤のパワーをもってアダムスキー支持活動を続行したい。理解ある多数の方々のご支援をお願いする次第である。(久)

金星文字を解読してUFOの推進原理を発見!

★バシル・バン・デン・デン・バーグ／久保田八郎訳

画期的なフリーエネルギー反重力モーターを開発した研究家の秘話

一九五二年一月二〇日、米カリフォルニア州デザートセンターで、ジョージ・アダムスキーが金星人と会見してから約一カ月後の二月一三日、今度はパロマー山のアダムスキーの居宅のあるパロマーガーデンズへ超低空で飛来したスカウトシップ（俗にいう円盤）が、アダムスキーの立っていた場所から三〇メートル以内と思われる位置まで来たとき、円盤の丸窓から手が出て、一枚のネガホルダーを地上へ落としした。

これは一カ月前にデザートセンターの砂漠でアダムスキーが撮影したフィルムの一枚をホルダーごと借りて行った金星人が返却に来たのである。現像したアダムスキーは、撮影したはずの円盤のかわりに不思議な文字のようなものと図形が出現しているのを見て驚いた（詳細は新アダムスキー全集第一巻『第二惑星からの地球訪問者』（中央

アート出版社刊）二五頁を参照。この奇妙な文字は金星文字といわれて研究家の調査対象になったが、容易に意味は判明しなかった。

後日、南アフリカ共和国ヨハネスバークのバシル・バン・デン・バーグがこれを解読して画期的な反重力モーターを開発し、世界のUFO研究界で大センセーションを巻き起こしたが、後に彼は何者かに拉致されて行方不明となった。

しかしこの件はこの頃はやりのフリーエネルギーによる原動機の先駆をなすものであり、しかもUFOといわれる別な惑星から来る宇宙船の推進原理を解明したものととして、重大きわまらない開発であったといわれている。少々古い事柄だが、ここにその記事を掲げて読者の参考に供したい。

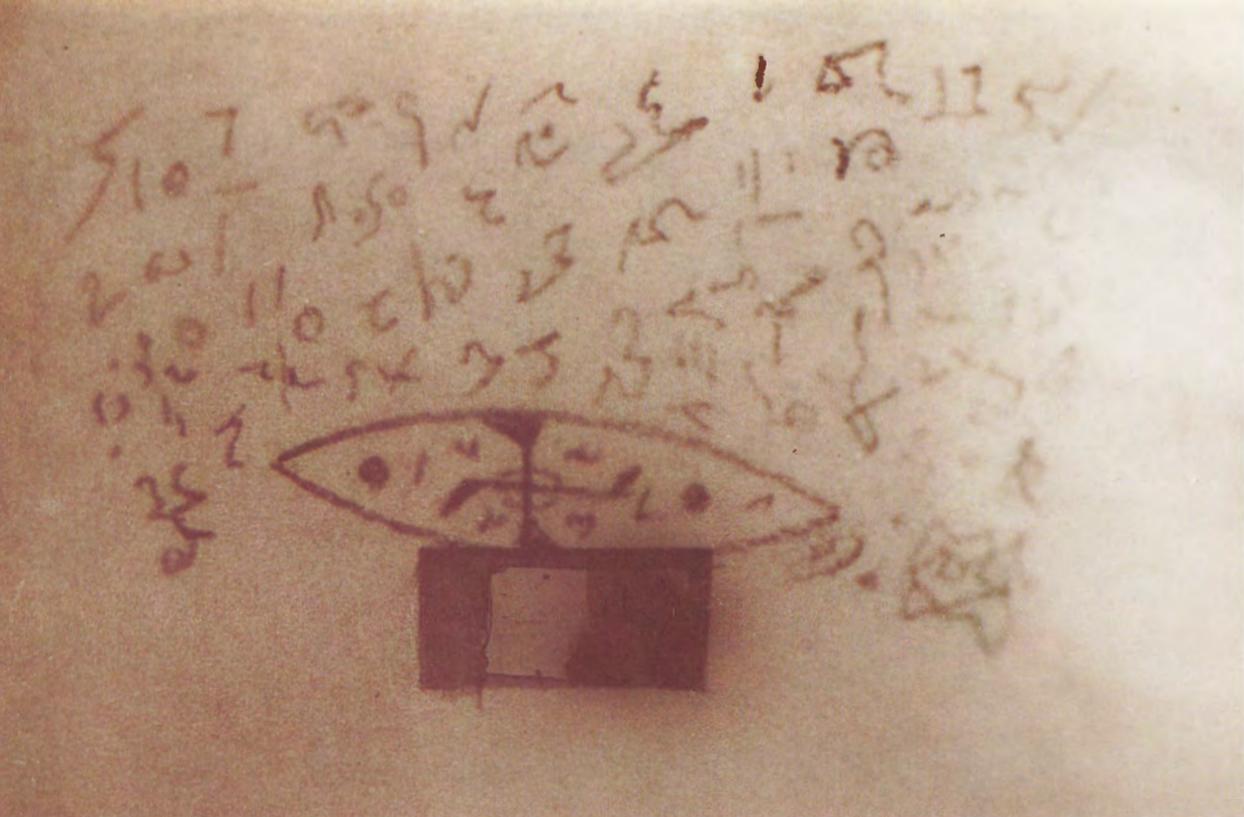
なお、この金星文字（実際は文字ではない）をさらに研究解読した日本GAP会員・遠藤昭則氏の「星々への切符」と題する記事もあわせて掲げた。氏は完全に解読して画期的なモーターの開発に成功したと伝えられている。遠藤氏は、かなり以前からこの解読研究に打ち込んでいたが、あるとき、氏が開発した小型のモーターを編者の眼前で実験して見せた。磁石を並べただけのモーターがゆっくりと回転するのを編者は確かに目撃した。

バーグによれば「あまりに簡単なもので「こんな物をどうして七歳の子供でも思いつかなかったのだろう」といった科学者は驚くだろう」という。

「とにかく簡単な事です。あまりむつかしく考えると、かえってわからなくなりますが」と遠藤氏も編者に語っていた。もちろん電磁気の知識が必要だが、シンプルなる事の中に真理があるのだ。地球人は簡単な物事をあまりにも複雑にしすぎるらしい。

世界のできるだけ多くの読者に対して、UFO問題で最も論議的となった書物が刊行された一九五三年に始めてから以来一〇年間を通じて私が（バン・デン・バーグ氏が）発見した物事の真相をここでお伝えしたい。その書物とはジョージ・アダムスキーとデズモンド・レスリー共著のFlying Saucers Have Landed（邦訳版「新アダムスキー全集第一巻『第二惑星からの地球訪問者』（中央アート出版社刊）である。

UFOに関して多数の書物が書かれているが、私自身の発見により心から断言できるのは、あらゆる書物のなかで最重要なのはジョージ・アダムスキー氏の著書だということである。私がかこう言うのは、彼は徹底した誠実と正直とによって、しかも偉大な勇気をもって、UFOに関する明白な事実を世界に伝えようと努力したからである。



1952年12月13日、パロマーガーデンズへ飛来した金星の円盤からアダムスキーに向かって落とされた金星文字。この写真はアダムスキーより、ネガから直接焼いた印画が編者（久保田八郎）に贈られたもの。

私はアダムスキー氏に関しては全く公然と「誠実・正直」という言葉をいうが、これは科学者と素人の両方に對して、ジョージ・アダムスキーの主張が非の打ち所のない真実なのであるという決定的な証拠を私が持っているからである。

重大な意味を含む金星文字

私は自分が読むあらゆる書物の内容について、注意深く賛否両論を考えることなしにウ呑みに信じてしまうような男ではない。両論を考えるときでも私の判断は別にしておく。正当化に必要な証拠なしに他人の言を判断することは賢明でないということを私は知ったので、初めて彼の書物を読んだとき、多くの人がやるように無造作にアダムスキーを非難することはしなかった。イカサマ師かホンモノかを示す証拠は何もなかったからだ。

彼の著書を読むに先立って私のUFOに對する関心はゼロだった。それ以前にUFOのことを聞いたり読んだりしたことはなかったからである。したがって賛否のいずれをとるかは何とも言えなかった。私の興味を呼び起こしたのはアダムスキーの著書に掲載された円盤の写真と、第二次大戦中三時間にわたって私の乗った爆撃機を追跡してきた奇妙な物体が驚くほどよく似ていることだった。その件については基

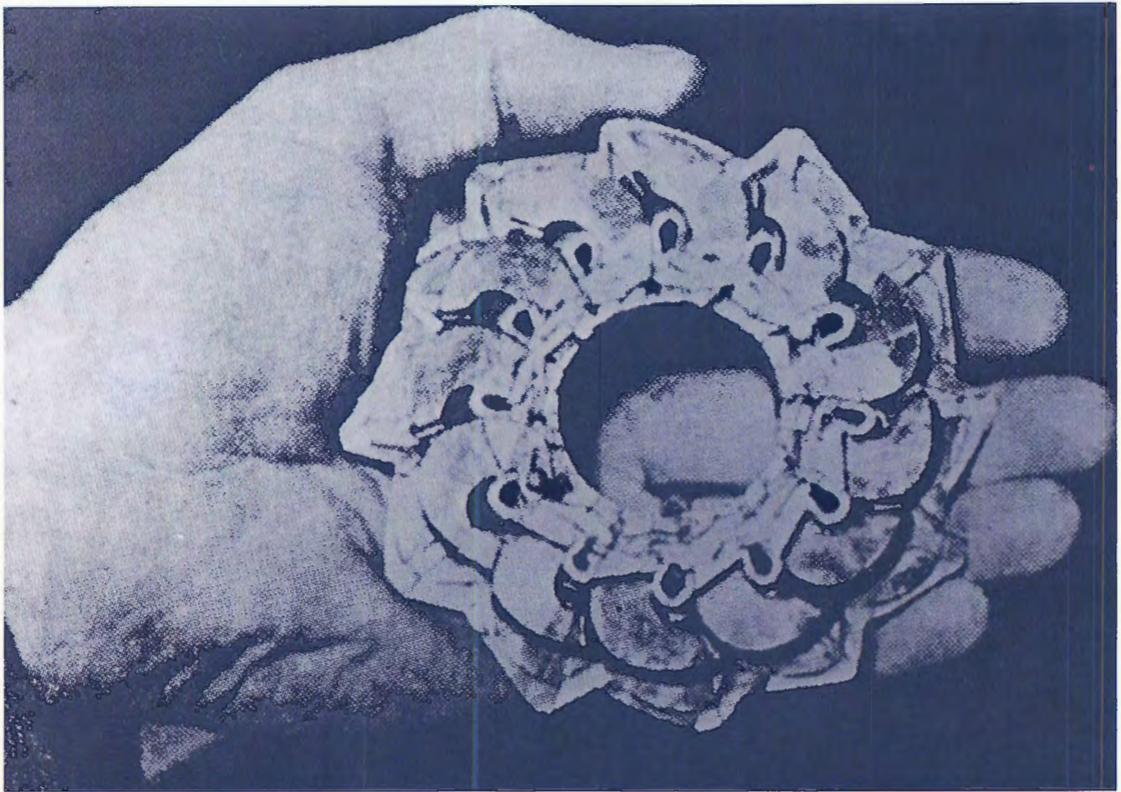
地に着陸してから情報部へ報告したが、その結果この種の不思議な現象の目撃はそれまでたびたび報告されたけれども正体は不明だということを知らされた。

アダムスキーの物語と私の戦争中の目撃とのあいだに何かの関連があるらしいという結論に達してから、私は金星人がそのような乗物からアダムスキーに投げ落とした象形文字のメッセージの写真にすごい興味をおぼえた。

私の意見は次のとおりであった。もし彼の著書に何か真実があり、私自身の目撃と関連があるならば、この象形文字が何かの解答を与えるかもしれない。

そのとき以来私は長く象形文字と取り組み、確実な意味をもつように各文字を組み合わせようと思ふ方法を試みた。そしてついに正確な「径路」を発見することに成功した。それを用いれば象形文字が解読できるのである。ここに至って、これはアダムスキー氏がやった賢明なはずらだったのか、それとも実際に別な惑星の人間によって彼に与えられた象形文字だったのかと私は大いに考えた。

このことは真実を発見するのにもっと多くの理由を与えた。なぜならこの象形文字は科学の最大の進歩のための基礎となるかもしれないし、さもなければ時間の浪費になるかもしれないと思つたからだ。そこでアダムスキー氏



▲バークが開発した画期的な反重力モーター。

に手紙を出して象形文字の鮮明な写真を送ってくれと頼んだ。著書に出ている写真は鮮明さを欠くからである。写真を受け取ってからあらん限りの力をしぼって各文字から意味をひろい集めるといふ至難の業にとりかかった。年月が経過するにつれて次第に意味がわかってきた。それは地球上のなにびとといえどもいたずらのタネとして用いることなど絶対にできないような情報である。その文字は円盤の真相を詳細に伝えたすばらしい知識を示しているからだ。それは母船と小型円盤の推進法、二個の強力な磁気モーター、船体の内外の詳細な設計などを伝えているのだ！

そのモーターだけはまだ地球で発明されていないし、しかも象形文字によって解明されたからには大きな疑問が起こってくる。「その象形文字メッセージはどこから来たのか？」

異星人に会っていたバーク氏

★英国「空王飛ぶ円盤評論」通信員
★フライリップ・J・ヒューマン

一九六二年四月二十九日の朝、別な惑星から来た人間とのコンタクト事件がアフリカの一流日曜紙「システム」の大見出しとなった。この事件におけるコンタクトイー（異星人に会った人）というのはヨハネスバーク（注）南アフリカ共和国トランスヴァール州の商業・金鉱の中心地で南アフリカ最大の都市）のバシル・パン・デン・バーク氏であった。私はいつもジョージ・アダムスキーを信ずる傾向にあり、このコンタクトも主として問題のアダムス

明らかにこの地球上の人間からではない。それは子供にでもわかる。科学者がどんなに権威を保とうとしてもこのことは否定できない。しかも科学者は大衆を迷わしているのである。

以上の発見はアダムスキー氏の真実性と別な惑星から来る宇宙の実際的な証拠を生み出したので、アダムスキー氏の線に沿って、まさしく大衆のものである事実を大衆に伝えたいというのが私の意図である。

政府にせよ何にせよ、いかなる干渉妨害を行なうのはもう遅すぎる。この種の妨害は数年前に予測されて、そのため過去に種々の計画が実行され、真実が人類にもたらされるのを妨げようとする運動に対立して世界中で極秘裏に実施されたからである。今や世界はこの証拠を有しているし、それは誤っているどころではないので、アダムスキー氏は文句なしに弁護されるだろう。

リカ共和国トランスヴァール州の商業・金鉱の中心地で南アフリカ最大の都市）のバシル・パン・デン・バーク氏であった。私はいつもジョージ・アダムスキーを信ずる傾向にあり、このコンタクトも主として問題のアダムス

キーの象形文字に基づくものなので、個人的にバン・デン・バーグ氏に会うことに熱中していた。

二人は文通を始めたが、私は彼の謙虚さ、誠実さ、率直さに感銘を受けた。ついに第一回の会見に相互の都合のよい日がとりきめられた。

一九六二年八月二日、木曜日の朝、会見のためにヨハネスバーグのエロフ街を歩いて行くときの私の感情と想念を説明するのは困難である。ある町角に接近したとき一人の背の高いすらりとした親切そうな目付きの男が、流れゆく買物客の列を見つめているのに気づいた。それがバシル・パン・デン・バーグだった。そのコンタクト実話が南アフリカで大センセーションを起こしたが、ついには星々への道を切り開くかもしれない魔法の公式を持つていと称するその男と私は握手した。

二人はすぐに好都合な喫茶店を見つけて静かな場所にすわった。私のカバンの中には一冊の『空飛ぶ円盤評論』誌が入っているが、それにはアダムスキーの象形文字と驚くほどよく似た象形文字の刻まれた玉石を北部ブラジルで発見したというマルセル・オメ教授の驚くべき記事が載っている。(注11 本号18頁の記事を参照)

私は相手がふくらんだ折込カバンと奇妙な肩かけカバンを持参しているのに気づいた。彼はそのふくらんだやつを調べてみると私に渡した。そ

れはアダムスキーの象形文字を解説して発見したモーターの一部分である。その物体は鋼製らしい。私はその重量と、生きているように見える、事実を

口に出すと彼は微笑して言った。「それが生きていることに気づいて下さってうれいす。ほら、ここに磁石(複数)があります!」

それから彼はきわめて詳細にその重要性を述べて、明らかにその製作に関係あるぼう大な量の仕事を示すファイルを開いた。そこには数百の三角形のような図面があった。私はいかにもわかったような顔をしてしばしば偉そうにうなずいたが、同時に相手をあわれんだ。科学的なわけのわからぬ言葉がこちらの無理解な耳に響いてくるからだ。私は思った。

バシル君、キミは救われないやつだなあ。そんなことあおれには何の意味もないよ!

彼はわかっていたにちがいない。突然次のように尋ねたからだ。

「それであなたがあれほど見せたいといっていた雑誌には何が載っているのですか?」

ブラジルの象形文字に関するオメ教授の写真を見せたとき相手の反応がどうなるだろうかと思つた。彼は瞬間呆然となつて叫んだ。

「こいつは驚いた! 全く奇怪なことだ! 図形がさかさまになっている。だがこれをごらんさい!」

彼はアダムスキーの金星文字の二枚のプリントを取り出した。それは、アダムスキーの書物に掲載されている写真とすばらしくきれいにしたものであることがわかつた。続いて彼はアダムスキー写真とオメ写真とを比較して、多くの類似点を興奮して指摘した。

二人のお茶はもう冷えていたが、それどころではない。

「この雑誌を私にゆずって下さい。拡大鏡でもっと調べたいんです」と彼は懇願した。

「喜んでゆずりますよ。だが時間がきた。STEM誌の人たちを待たせるわけにはゆかない。」

同誌も私がヨハネスバーグに来たことを知っており、我々二人とインタビュウしたがっていたのだ。

STEM誌の事務所へ急ぎながらバン・デン・バーグ氏はアダムスキー写真の立体的な内容と、拡大鏡で文字を調べるたびに新しい意味を発見した様子説明した。

「与えられた細目のすべては無限であるように思われます。アダムスキーの写真に彼らの意味を含ませることができるとはこの金星人たちはすばらしい

科学者であるにちがいない。私は符合を解説するのに昼夜努力しました。たびたびやめようかとも思いましたが、こつこつと続けてやつと難儀な仕事に成功したのです。

まもなくモーターを作りました。す

べての細目はそこにありました。最初のモーターが準備できた日を決して忘れません。完全に作動しました。その日は私の誕生日でした。それから「ブラザーズ(異星人)に出会ったのです」

二人はSTEM社に近づいたのでそれ以上に詳細を聞くことはしなかつた。地下から印刷機の音が聞こえてくる。

私は三〇年前に自分が印刷所で働いていた頃を思い出した。当時は罪なき空飛ぶ円盤など知られてはいなかつたのに

やがて二人は広々とした事務所へ案内された。型どおりの紹介の後、私は非常な不安をもつて席についたが、そうはいうものの円盤とそれを操縦する人たちを防御する立場に立つことを名譽に思つた。心配する必要はない。私はまじめな友人たちの集まりの中にいる。彼らも「信する人」なのだ。

それは面白い体験で、インタビュウは三時間近く続いた。またもオメ教授が議論的になり、私の貴重な専門誌がもう一度持主を変えることになった。翌日の日曜日に掲載される記事に写真をつける必要があるからだ。

このSTEM社の人たちが示したように、あらゆる新聞のあらゆる編集者が円盤、特にその専門誌に興味を示してくればよいと思う。

うれしかったのはインタビュウのあいだバン・デン・バーグ氏が私の意見や評言を支持してくれたことである。

また私はこのおだやかな気取らない「やり手」がSTEM編集陣から明らかに尊敬されているのに感動した。

数時間後私はバン・デン・バーグ氏をバスまで見送ったが、ついにコンタクトの件については語らなかつた。読者に想像してもらおうには彼の手紙を引用するより他に仕方がない。

「現段階ではつきりさせたい点は私とブラザーズとの会見に関して生じたSTEM誌編集者による誤解です。最初のコンタクトではブラザーズはただ象形文字の解説において私を正しい軌道にもどそうとしただけでした。五年たつてから私は動揺し混乱していたからです。その五年間にモーターはすでに完成していました。

二度目のコンタクトは短時間で行なわれ、第一回目のコンタクトを確証しただけです。うわさとは違って、ブラザーズは自身のスケッチを持参したのではなく、また象形文字の解説を全然助けてくれませんでした。くり返します。ブラザーズはただ従うべき正しい道を指摘しただけです。私は正道からはずれていて、自分の感情に頼ってブラザーズとのテレパシクな交信力を失っていたからです。それがブラザーズの来訪の唯一の目的でした。

それ以来私は多くの解決をなしとげ、自分自身の努力によってばく大な知識を獲得しました。ブラザーズは「感情による妨害」の愚かしさを教えてくれ、

以来私は感情に対しては警戒的となり、こうして互いのテレパシー交信径路を確立させたのです。

私の目的はアダムスキー氏の真実性と、あの象形文字はこの世界のものであることを万人に立証することにあります。私は象形文字のことを隠したまま「あの発明は自分一人で行ったのだ」とウソをつこうと思えば容易にできます。そうすれば地球上のだれ一人としてそのウソに気づかないでしょう。アダムスキーでさえも！」

私は常にジョージ・アダムスキーを信じていたが、同様にバシル・パン・デン・バーグをも信ずるものである。

編者注

バン・デン・バーグ氏が円盤のモーターと同様な重力を遮断する画期的な二個のモーターを発明したのは一九六二年頃のことです。それは金星文字を解読し、更に金星人とコンタクトしてアドヴァイスを受けたためであるといわれる。このモーターは磁石(複数)で作動するもので、外部からの電気エネルギーは必要としないという。

彼はこれを一九六三年に米國へ持って行き一八カ国の科学者団に公開する予定であったが、その前に謎の失踪をとげた。何者かに拉致されたという噂もあるが、詳細は不明である。発表するなというアダムスキーの警告を無視した結果ともいわれている。



▶ハロマーガーテンスの入り口。一九五二年二月二日に飛した円盤は、中央道路の曲がった部分の位置あたりにネガホルダーを落としたと編者は聞いている。そのあと円盤は超低空で写真中の彼方の家の上をかすめて、さらに後方の丘の上を越えて青空へ飛び去った。この家は近年建てられたもので、当時はそこに古い家があり、アダムスキーの助手のペーカー退役空軍軍曹が住んでいて、円盤が接近した時に撮影した。その写真は新アダムスキー全集第一巻「第二惑星からの地球訪問者」に掲載されている。

奈良公園上空のUFO

文と写真／松村芳之

平成5年5月3日大阪支部大会で久保田会長講演中、午後2:30頃、講演の写真撮影をしていた私は後方でのカットを撮り終えてポジションを前方へ移した。1回目のシャッターを押したところ、なんと連続3カットのシャッターがおりてしまった。ビックリである。2回目は正常に切れた。3回目はまたも今度は連続2カットである。シャッタースイッチは連続にも出来るが、1コマ巻き上げてセットしてあったので、1回目のシャッターで連続シャッターが切れるモードにするには、カメラ裏ボタンのデータバックの操作ボタンカバーを開けて更にいろいろとセットしてからでないと出来ない。当然この時はこの様なセットはしていなかった。

当惑してしまったが、もしや上空に円盤が来ているのではと思い、望遠ズームレンズをセットして急ぎ会場外の公園に出た。あたりを見回すが目指す円盤はいない。いつもの癖で写って欲しいと念じながら四方の空を次々と撮ることにする。1回目のシャッターを切ると、また例のごとく3カット連続、2回目も3カット連続。ほとんど困ってしまう。カメラ本体の電池とデータバックの電池をはずして入れ直し正常に戻った。

この写真は、2回目の2カット目に写っていた物体(上部中央)。1カット目には移っていないので、約3分の1秒の間に出現したことになる。ちなみに、方向の異なる1回目写真の1カット目にも同じ様な物体が写っている。2カット目と3カット目には写っていない。

【データ】ニコンF4／AF ED 80~200mm / 2.8D⇒200mm 相当オート／フジ・スーパーG (ASA400・ネガカラー)



From Adamski's Photographic Plate, I Have
Discovered the Secret of Saucers' Working
Method of Propulsion
by Akinori Endo (GAP-Japan)

星々への切符

★遠藤昭則

日本GAP東京本部役員

UF0の推進原理を発見したもう一人の男

去る五月九日の東京月例セミナーで、日本GAP東京本部役員の遠藤昭則氏が行なった講演の内容は、アダムスキの金星文字を解読して氏が発見した画期的な反重力エンジンの理論に言及したものであった。ここに内容を公開するけれども講演中の一部分は省略してあること、氏に対する質問、照会等は一切受け付けないことを了解されたい。

自分自身を変える

私がGAPに入会しましたのは確か一九歳の頃だったと思います。その頃はUF0という言葉は日本ではまだ新しく、空飛ぶ円盤と呼ばれていました。確かUF0という言葉が日本で多

く使われるようになったのは、久保田先生が出版されていた「コズモ」(後に「UF0と宇宙」と改題)が書店に出たからだろうと思います。

長い間久保田先生のお近くで日本GAPの役員(助手)をさせていただけに感じますことは、久保田先生は日本で最も正しいUF0研究方法を私たちにいつも示しておられる方ではないかということなのです。

もちろんアダムスキー氏の日本への最高の紹介者でもあります。UF0、スペースビープル(異星人)問題に関して、どのように進めばよいのかを私たちに常に示して下さっているようになりません。

『UF0コンタクティ』誌の中には、そのエッセンスが毎回散りばめら

れています。それは内容から、そしてその奥にある深いフィージングから感じられることです。ですから、私たちが役員が集まって全国向け発送のための「Uコン」の袋詰めをするときには、きまってスペースビープルのあの心地良く明るく心の広がるようなフィージングを上空から感じます。

久保田先生は五月三日の大阪支部大会のご講演の中で、

「自分自身を変えようとする人をスペースビープルは援助される」と言われました。

そして私は、一番その努力をされているのは先生ではないかなと思って聞いていました。それだからこそ私たちが、

「ああ、そうか、よし、私もやってみよう」

と思って実行しようとするのではないのでしょうか。

そしてそれが最も良い方法であるのです。

極端な感情の愚かさ

体験講演をするために、古い「UF0コンタクティ」、つまり昔の「ニューズレター」ですが、それを見ましたら、昭和五二年から役員をさせていただいていました。ちょうど一六年になります。私が中学校に勤めて一七年になりますから、まあ似たようなもので

すね。両方の世界で勉強させていただいていることになりました。

しかし現在までにはさまざまなことがありました。そしてそこから学んだことの中で最も大きなことは、感情のコントロールということでした。

これからお話ししていく中には、あの金星文字を解読して磁気モーターを作り上げたバン・デン・バーグ氏のことが出てきます。その彼も自分の感情によってスペースビープルからのテレパシクな交信力を失っていたことがあると述べています。そしてスペースビープルが感情についてのアドヴァイスをしたと、あるインタビュー記事の中で述べていました。

極端な感情は自律神経系を不調にさせます。いわゆる自律神経失調症というものです。そうならなくても私たちは日常抱く感情によって、内部の意識の囁きや、他の人や植物その他からのテレパシクな印象を聞きのがしてしまいます。

「人間とは活動する想念である」とアダムスキー氏は述べています。テレパシクな感受能力はけっして不可思議なことではなく、私たちが生活している日常に応用していることなのです。そしてそれがないと私たちの身体は不活発になるといえることが「新アダムスキー全集第二巻」にでてきます。それは私たちにとって重要なことであるようです。

そこでスペースビープルは、私たちの抱く感情というものが極端すぎないようにと示唆しているのではないのでしょうか。しかしこれは感情を殺せということではないということは、社会常識的にわかることです。

彼らスペースビープルは私たちの心によって起こされる極端な感情についての示唆を何らかの形で私たちに与えているようではありません。

感情には法則があるということを見つけた人が日本人にいます。森田正馬博士という方です。そのことが「自律神経失調症の正体と治し方」(白揚社)という本の中で真保弘博士が紹介しています。怒りの感情などが出たときには応用できるものですが、ここでは省略しましょう。

アダムスキー氏は、「UFOコンタクトイヤー」の二一〇号で、万華鏡の例を出していますが、もしも私がただの中学校に勤めているだけの教員であった



▲遠藤昭別氏

撮影/久保田八郎

なら、これまでのようなたくさんのレッスンを学べなかつたでしょう。そして多くの人に、多くの職業の人に出会うことはできなかったでしょう。

多くの人に出会うことによって、書物では及びもつかないほどに多くのレッスンを学ぶことができました。最近それをつくづく思います。毎月のGAP東京月例セミナー、総会、観測会などはその最高の場になっています。

想念で花を動かすには

その中で学んできたことは、私たちのいだけ「感情」と「内部のフィードバック」についてのことでしょうか。とにかく単なる理屈や言いわけ、こじつけ、その他では理解できない、全身で理解していくことを学ばせてもらっています。そして必要なことは忍耐力だということ。

「生命の科学」には自然界は言葉で

理解しようとするのではなく、内部のフィードバックによって理解するということが、そこには出てきます。

例えば、花に振り向いてもらいたいのなら、花にいくら理屈を言ってもだめなのです。ましてや強制してもだめです。さらに超能力の開発法とか何とかいって、手の先から気が出ていることを思い、それが花を包むように思ひましよう、などということも関係ありません。確かに効果はありますが、それだけです。

それよりもその花を好きになって、一緒に喜んだとき、花は動いてくれます。私たちが動かすのではなく、花自身が動いてくれます。これは私の体験です。

自然は意外と簡単です。一緒に喜べばいいのです。もちろん花に動いてほしいという「動機」は必要ですが、

そして、たとえ花が振り向いても、私たちは理屈づけしたがりません。「どうして君は動いてくれたのだろう」、

「君と僕の間には何のカルマがあるのだろう」とか言っているらと考えると出ます。

「花を愛しているから、そう動いたのではありませんか?」、

「あなたが花を思う気持ちが通じたのではないですか?」、

花が動いたとき、その花が感じたのと同じような内部のフィードバックをあ

なたも感じていたはずですが。お互いが磁気のように引き合ったわけです。

私も内部のフィードバックということについては考えながら行なっているのですが、中々うまくいくものではありません。

ところが最近になって、自分の中での変化を感じるようになってきました。花が動くということを先ほどお話ししましたが、テレパシーということについて、改めて、何だこんな簡単なことだったのかということが、ほんの少しわかるようになってきたのです。

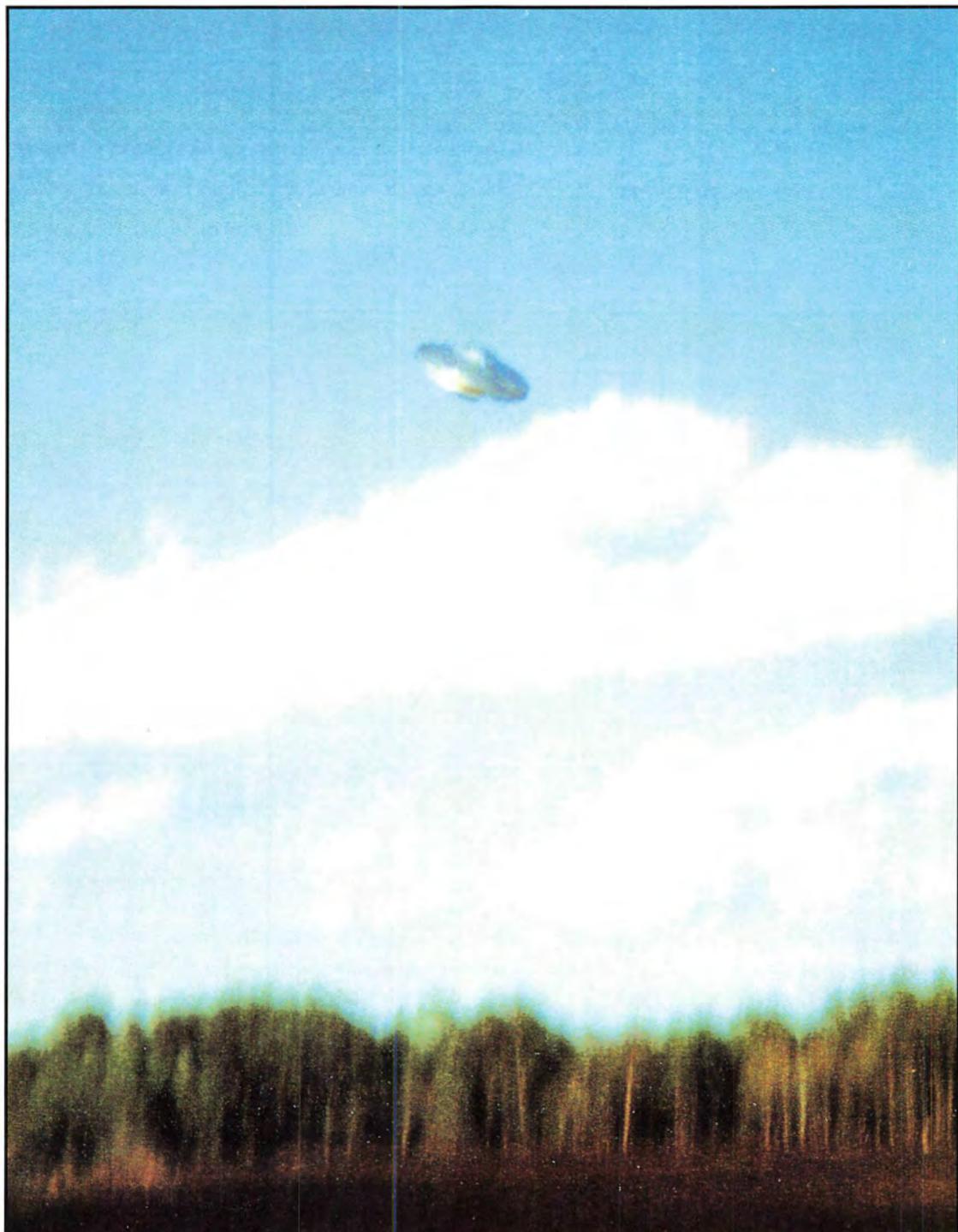
例えばテレパシーでは一体化ということができてきますが、

「今、息子はどうしているのだろう」と思ったとき、息子さんは心の中で「今、お母さんはどうしているのだろう」と思うわけです。

それは母親と息子の一体化です。母親の想念が、息子さんの心の中に響いて、息子さんは自分の気持として思っていたのです。極端に言うなら、息子さんは自分自身で、

「息子はどうしているのだろう」と思うでしょう。これが一体化です。母親と息子さんが一体化というよりも同じなのです。

それは相手を洋服と違って、それを着ようとするでもありません。私自身の内部にわき起こってくるようなのです。なぜなら、一体化していれば



●北部チャールストンの円盤

1980年4月4日、米サウスカロライナ州北部チャールストンで、午後5時30分から6時までの間に出現した円盤を、ウィリアム・ハーマン氏が連続撮影した写真の一枚。直径約12メートルの円盤は、空中に停止したまま縦軸に対してふらつくコマのような運動を続けるのをハーマン氏は息をのんで見つめていたという。氏はUFOに2度遭遇している。

相手の中に向いて行く必要はないからです。

しかし相手の内部とコンタクトをとりとうとする意欲は必要です。そして自分の中にそれはあるのです。

これは何のテクニクもありません。距離というものを考えなければなりません。

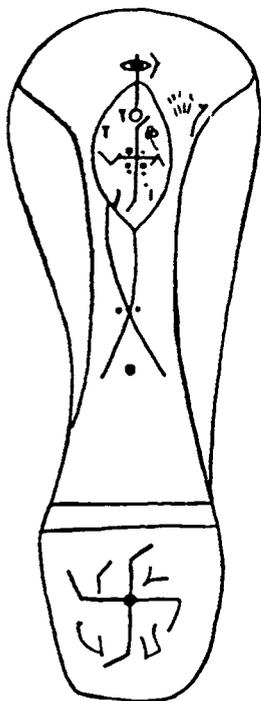
ことです。五月の東京月例セミナーのテレパシー練習では、ある方がそれを

一九五二年一月二〇日、米カリフォルニア州デザートセンターの砂漠地帯でアダムスキーと会見した金星人は、両足の靴の裏に刻まれていた左のような奇妙な図形を地面に残した。これは宇宙船の推進原理を意味する重要な暗号であるといわれていた。これまでに解説したのは南アフリカのバーグと日本人エンドローの二人だけであるとされる。

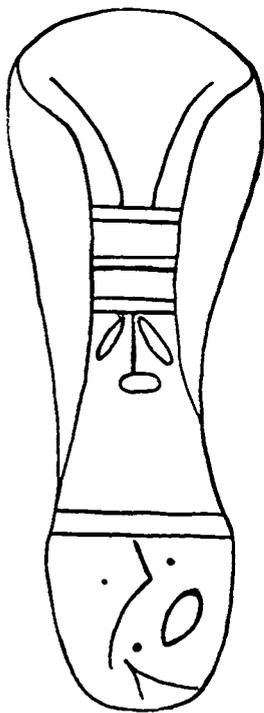
応用して高得点を上げました。このようにフィードバックの見つけ方について少し変えるようになってから、宇宙文字についてもますますわかるようになってきました。

宇宙文字についての考察

続けて自分のこのような内面のこと、



右足



左足

そして宇宙文字についてお話しをさせて下さい。

私のことですから、それほど研究はしていないのですが、何か皆様のヒントになればよいがと思っております。私の言っております宇宙文字とは、

一九五二年一月、アメリカ、カリフォルニア州、デザート・センターでアダムスキー氏が金星人と会見したときに、その金星人が残した足跡にあったものと、その後パロマー・ガードンズに飛来したスカウトシップから落とされたネガホルダーに入っていたフィルムに写っていた文字のようなものの二種類の事です。

その二種類にはスワステイカ(卍の記号)が描かれています。そして、世界中のさまざまな人がそれらの解説を試みたのですが、ほとんどが心靈的な解釈であったと「新アダムスキー全集第一巻」に出ています。当時はその文字一つ一つについて、自分なりの、自分だけの世界での解釈をしていった人、そういう人たちが多かったようです。

しかしその中で、純粹に科学的にさまざまな角度から取り組んで行って解説に成功した人が、南アフリカ、ヨハネスバークのバシル・バン・デン・バーグ氏です。解説に成功したのはこの方だけではないでしょうか。

彼はその後行方不明になってしまいました。その前に公表してくれた写真や図面が現在でも幾分か公表されて

いたので、私たちは彼がしてきた研究に少しでも近付くことができるのです。そしてそれについて真剣に考えようとしている多くの人がいるのは、この日本だけでしよう。それだけ日本人には何か不可思議な宇宙的なカルマがあると考えざるを得ません。

彼は新聞記者との対談の中で、ネガの文字から次のようなものを発見したと言っています。

- ①母船と小型円盤の推進方法
 - ②二個の強力な磁気モーター
 - ③船体の内外の詳細な設計図
- しかし「新アダムスキー全集第六巻」

の中では、ネガの文字から、

- ①円盤の設計図
- ②母船の設計図
- ③宇宙船で用いられる推進力と、パワールのコントロール方法

をバーグ氏は発見したと、アダムスキー氏は述べています。ここで問題となるのは象形文字ということ。それはネガの文字のことでしょうか。足跡の図形のことでしょうか。それについてはこれからお話ししていこうと思います。

宇宙文字の解説方法

では、これらの文字を解説していくにはどうしたらよいのでしょうか。

バーグ氏は、自分の中のフリーリングとその文字とを組み合わせながら読作業をしていったと述べています。もちろん先程の感情については十分に注意を払っていたのでしよう。そして内部のフリーリングというものがいかに大切なかということがここでわかります。

しかしそれだけではだめです。とにかく科学的に考えなければなりません。

円盤の設計図

まずバーグ氏は二つのことをしました。
①ネガの文字を移動して組み合わせるための経路を見つける。

②各文字の意味を理解する。

①については考えることができます。各文字の間には、ある長さを基準とした長さの倍数の距離があるからです。そこには正三角形と二等辺三角形の法則もあるようです。また各文字の傾きにも法則があるのですが、それについては「UFOコンタクトイヤー」八九号に詳説しましたので、省略させていただきます。また②のことですが、各文字を立体的に見なければなりません。そのことによって結局、「新アダムスキ全集第一巻」のようなスカウトシツプの「円盤の設計図」ができあがりま

かといった外観的なものです。その原理を述べているわけではありません。これでは円盤は動きません。では、その原理はどこにあるのでしょうか。

フリー・エネルギー装置

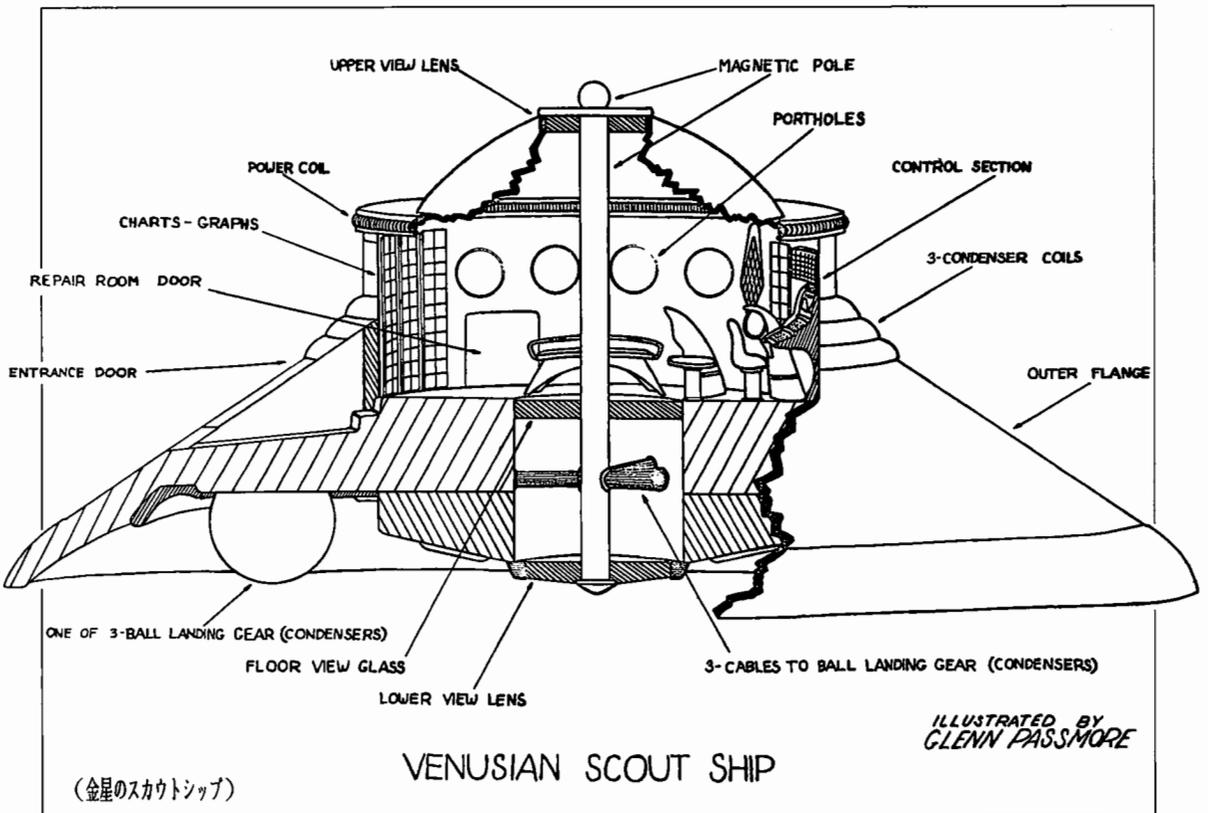
最近、Sという人に会いました。彼は電気関係の会社に勤めているのですが、フリー・エネルギー装置の研究者でもあります。

フリー・エネルギー装置とは、それが動いていくにつれて、電気や石油などの、現在地球で考えられているような外的な援助を必要とせず自力で作動し続ける装置をいいます。

しかしここにも落とし穴があります。何の外力も必要としないということは、この宇宙とその系とが切り離されていると考えるしまうことです。そのような系を考える人たちが現在でもいますが、それは永久機関といわれています。フリー・エネルギー装置もその中に入られることがありました。

ところが最近になってやっと、フリー・エネルギー装置には何らかの外力が働く必要があると考えられるようになってきました。その外力と、それを得る方法とは次のようなものです。

①静電気の放電によって空間にある何らかのエネルギー（外力）を得るもの。
②二つの静磁場の共鳴作用によって、空間にある何らかのエネルギーとの共



(金星のスカウトシツプ)

VENUSIAN SCOUT SHIP

鳴を起こしてエネルギーを得るもの。
 ③交流電磁場を静電場に作用させること
 によって空間のエネルギーを活用するもの。

空間には電氣的なものが充滿していると唱えたのはディラックや他の科学者ですが、それが地磁気や重力にも関係しているのではないかといわれるようにもなっています。

そのS氏ですが、彼は四月にアメリカのデンバーで開かれたフリー・エネルギー学会に出席してきたということで、そのお話を聞くことができました。

彼によりますと、昨年、一昨年までは一つの装置から、入力以上の電気出力を取り出すとする装置の研究成果が発表されていたのですが、今年になって、重力とフリー・エネルギー装置との関係についての発表が多く出るようになってきたということです。

重力は簡単な原理で克服できる

そして驚いたことに、何て簡単な、と思うような原理を応用していたという事です。

例えば、ここに一つの板磁石がある
 とします。そこには片方の極から片方の極へと磁力線が走っています。ちなみに、あのムー大陸の研究者であったジェームズ・チャーチワード氏は、「ムーの宇宙力」という本の中で、

「極性とは二種類の圧力によって生ず

るものである」

というようなことを述べています。

そこで同じ極を向かい合わせると引きあひ、他の極を向かい合わせると引き合います。大人になるとそれ以上考えようとしますが、子供でしたらまさかというようなことをいろいろと考えることでしょう。

S氏が言っていたのもそのまさかという事でした。

先の板磁石を四枚、同じ極が内側で向かい合うようにします。そしてその周囲にコイルを巻いて電気を流すという事です。それを二つ、つまり一組作

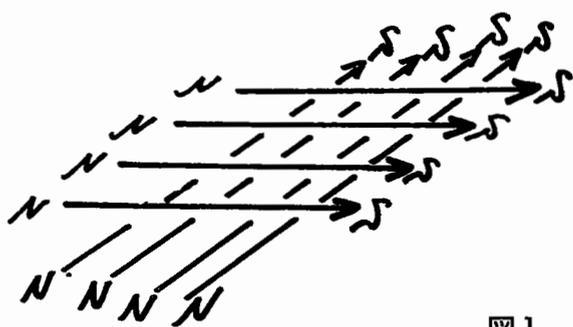


図1

り、ある距離にすると共鳴し合つて、重量が軽減するという発表だったという事です。

鉱石ラジオの同調コイルのように、コイルの中にフェライトを入れて利用することはありますが、磁石の周囲にコイルを巻いて電気を流すという事は、あまり、いえ、ほとんど使われる方法ではありません。

他の発表では、直角方向に交差することによってエネルギーを取り出す装置もあつたということです。

そしていろいろな発表を見るうちに、今年には磁気力線を直交させる(図1)装置が多くあり、それらがどうも重力に関係しているようだという感想を持ったということでした。

磁気力線は通常は直交することはありません。しかしある周波数を持たせれば、それが可能になるのではないかという事です。

磁気力線の直交については、フランク・スカリーの書物にも出てきます。

一九四〇年代にアメリカの砂漠に墜落した円盤を調べることによって、円盤群は地磁気を交差させることによって航行しているようだと言っているのです。そして船体には回転する輪がついており、それはその地磁気の交差から逃れようとするときに回転するとも言べられています。

S氏の出席した学会はもともとは原子力の研究が主流であつたそうですが、

それがフリー・エネルギーの研究へと段々と変わつてきたのだそうです。

なぜ原子力が消えて行つたのでしょうか。これからのエネルギー利用のものととしては、太陽電池、電気自動車、水素を使ったもの、核融合などがあります。中学や高校の教科書の副読本、また環境問題の書物にも多く出てきます。

それらの効率は果たして良いものなのでしょうか。本当に現在の電気が石油にとつて変わることが出来るものなのでしょうか。

私はそうは思いません。それらが日本全国の家庭や工場にエネルギーを供給することがはたしてできる日が来るかどうか疑問です。

なぜそれらの効率のよくないものを私たちは考えようとしているのでしょうか。

私たちは与えられたものに対して、それだけのことしか考えようとせずにそれを受け売りして他の人に伝えようとする傾向があります。ですからエネルギー問題にしても、それ以上考えられないようになっていくのです。

しかしこの自然界に行き詰まりはないはず。自然界の中にこそ、私たちが生活していくために必要な青写真が隠されているとアダムスキー氏は述べています。

花壇に出てみましょう。いろいろな形の花があります。それらの花はどう

して、上空に向かってあの様な美しい形をしているのでしょうか。どうして茎は重力に対抗して上へと伸びようとするのでしょうか。そして花はどのようにして茎の先端についているのでしょうか。花びらの形には、重力を克服するための秘密があるのでしょうか。そして上を向いている花びらは、上空からの光を受けて、それをどのように活用しているのでしょうか。そして花びらは大気中の静電気や地磁気とどのように関係しているのでしょうか。

バーグ氏の作り上げた磁気モーターの一部分の写真は美しい花の形をしています。

そういえば一九四〇年代に墜落した円盤群の中に磁気モーターがあったという話が少しあります。それはほとんど公表されていません。磁気モーターというものが、最高機密に属するものであると考えられます。

MJ・12 というものに関する噂が日本で流行ったとき、円盤の推進原理を異星人から教えてもらって研究していたという科学者がTVに出てきました。あたかもそれらしく説明をしていたのですが、どうも怪しいものでした。なぜなら、自然界では少ない放射性物質を使うよりも、自然界に豊富にある静電気や磁気を使った方がはるかに重力のコントロールには有利であるからです。

最近でも、他の遠い星系から来たという人に教えられたということで、円盤の推進原理を発表している写真が、ある日本の雑誌に出ていました。

それは何とS氏があるエネルギー学会で見た、ある研究者の発表したものでした。何ということはない、地球の研究者の発表を、あたかも異星人が教えてくれたと思わせたいただけだったのです。もちろんS氏に会っていないければ、それはわからなかったことです。このようにして推進原理は煙に巻かれてしまいます。

磁石の組み合わせ

宇宙文字に戻りましょう。

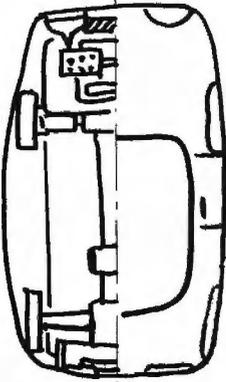
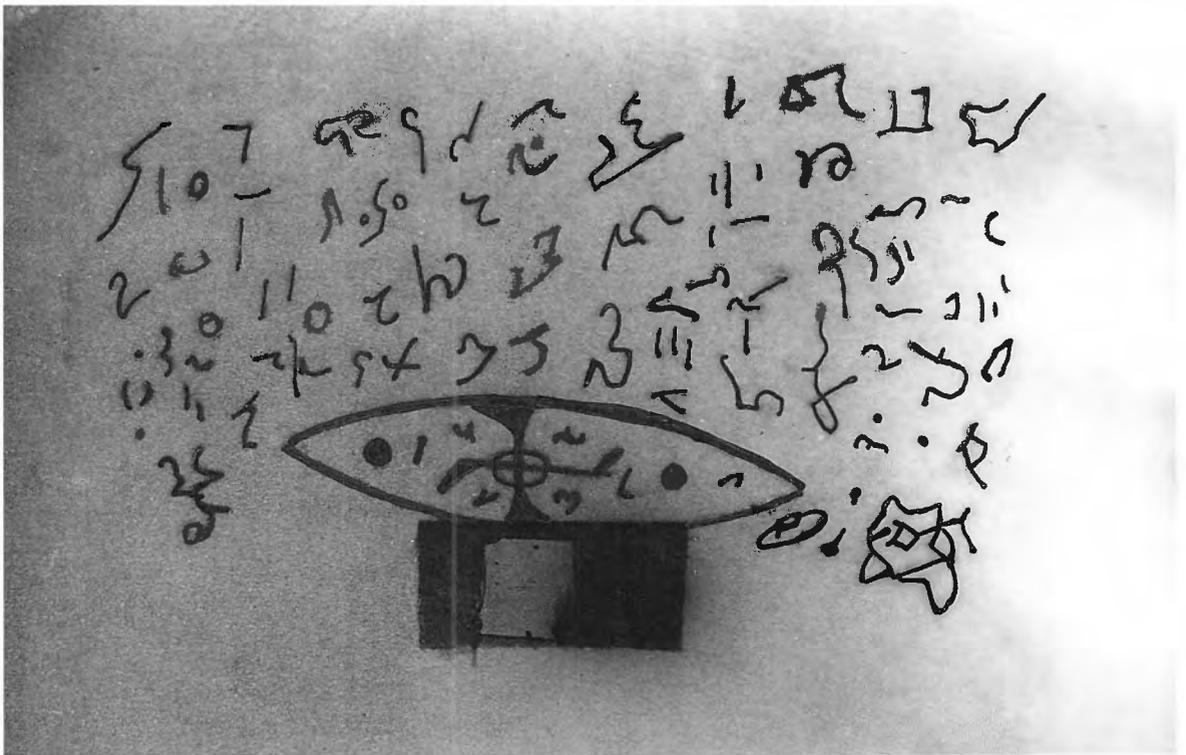


図 2



▲アダムスキーが受け取った金星文字と図形をわかりやすくするために遠藤氏が修正した写真。

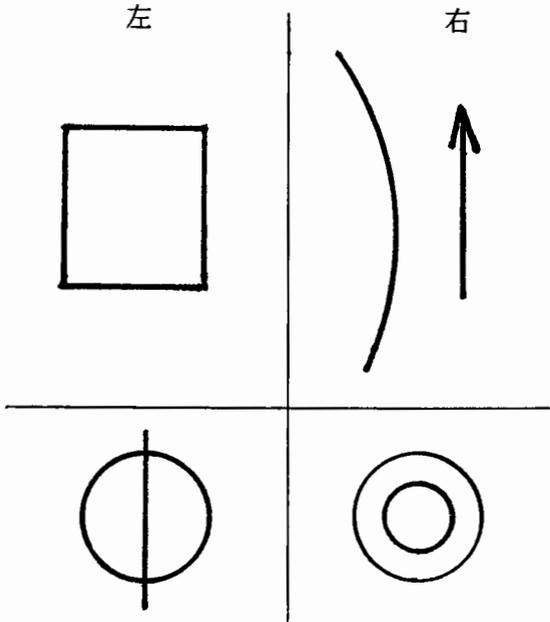


図 3

ネガの中には一つとして同じものはありません。地球上の文字であるなら、主語、述語があり、動詞、助動詞があるので、同じ文字が何度も出てくるものですが、写真ではそうではありません。ネガの中だけでも六〇近い文字があります。したがってこれは文章として解読するのではなく、パズルの一駒として使える可能性があります。

また、スペーススビールの描き方は地球のものとははるかに違うと思いつくと、落とし穴に入ってしまう。

設計図としての描き方には地球で使われているのと全く同じ方法があります。いえ、その方が自然であるといえ

るものがあるのです。

図2にはその方法が描いてあります。右半分は地球で使われている車の表面を描いた図、左半分はその内部を描いた図です。この方法を使うと、足跡の図形の意味がわかってきます。

また、磁力線の描き方も地球と同じです。

これらのことから、磁力線の組み合わせ方が見えてくるのです。実は金星人の靴の図形には、もうすでに磁気エンジンが描かれているのです。

最近ヴァーチユアル・リアリティーというところで、ある規則のもとにコンピュータで描いた図なのに、少し遠

くを見るように、ちよつと見方を変えると新しく立体映像が見えるものがあります。そのようなものです。

要するに見方を変えればよいのです。足跡の図形の場合は少し遠くを見るようにするのはなくて、人間の内部にある「宇宙の意識」を少し見るようにすればよいのです。

そうすると図3のように、右のカカトには上から見た図が、またその上には組み合わせ方の図が、そして左のカカトには一組の表面と内部の図が、さらにその上には横から見た図が出てくるのです。

しかしこれだけでは反重力エンジン は出来ません。そして、どのようにして動くのかということもわかりません。それがどこにあるのかはただ見ただけでは謎です。

バーグ氏の磁気モーターの写真(実はあれは磁気モーターの全体ではなくて、単に一部でしかないのです)があります。あの中心に棒磁石を通すの かどうか疑問です。

なぜなら、スカウトシップ(円盤)ではそのようなことも考えられるのですが、母船になると、磁気柱とモーターの中心線とが直交しているからです。ネガの文字を見てみましょう。そこにはまだ使われていない、あのスワステイカとそれを取り囲む紡錘状のものがあります。

これも同じ原理で解読することがで

きます。これは円盤の推進装置そのものではなくて、推進装置の原理を理解するための、教育用模型を作るための図と解釈した方がよいものです。そこで実際の円盤の磁気エンジンを作るのは、幾分か作り変える必要があるようです。ここに静電気が組み合わされさうですが、よくわかりません。

また、紡錘状のもの周囲にある図形は、その模型を実現するためのパーツの図になるものです。

しかしここに至ってもわからないのです。どのようにして磁気モーターとしての役目をもたせて、それを回転させるのかということがです。

一般に考えられている磁気モーターというのは、一組の磁石が他の組の磁石に反発か吸引作用を生ずることによって回転するもので、スピードは遅いが力はあるものだということです。それなのに宇宙文字を調べていくと、反発か吸引を引き起こすための磁石群が出てこないのです。

また、バーグ氏の説明では、二個の磁気モーターという言葉が出てきますが、それは同じ種類のモーターのようです。けつして、一つを重力の遮断に、もう一つを推進力に使うというものではないようです。

しかしここでははつきりといえることは、その「始動」のためには念力を使う必要がないということです。もつと工学的なものです。

静電気から推進力を考えるなら、カナダの研究者でハッチソンという人が、テスラ・コイルを使って物体の浮揚実験に成功したというニュースが以前ありました。彼の理論はS氏の話から推測するに、静電気の場を水面とすると、そこに二つのテスラ・コイルを置くと、その間にできる楕円磁場の共鳴線上に不可思議な働きが生ずるので、それを応用するようです。(図4)それを応用すると円盤は推進できるかも知れません。

地球は静電気の海です。それに何らかの働きが加わって、新たな力を生み出して行くのかも知れません。円盤の周囲に静電気の海を作り出し、それに何らかの高周波を加えれば、周囲の静電気の海と共鳴することも考えられます。

母船の設計図

これらのことから磁気エンジンの外観はわかってきます。そしてそれをもとにして母船の図面ができあがってきます。バーグ氏は、ネガの文字と足跡の図形からその設計図を作り上げたと言っています。

ネガの文字の中でまだ使われていなかったのは、紡錘状のものの中にある文字群と、右足跡の紡錘状のものの中にある図形群です。それらを組み合わせると母船の外観ができあがります。そこに使われている磁気エンジンは、両方の足跡の図形からわかってきます(図5)。

スカウトシップの設計図とともに、

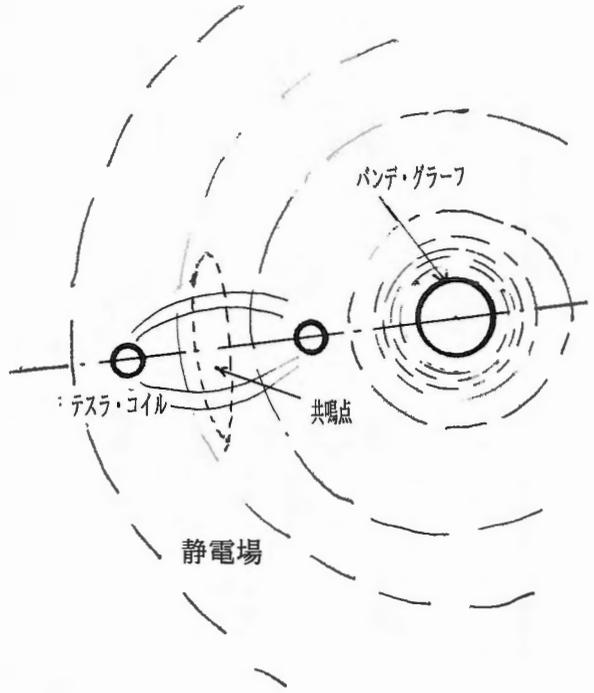


図4



▲メキシコ市在住の愛弟子であったマリア・クリスティーナ・テ・ルエダ夫人(右から2人目)の大邸宅を訪れたアダムスキー(中央)。左端は夫君のルエダ氏。不動産業を営むメキシコきっての大富豪であった。

母船の設計図も細かいところまでは出てきません。それらは「新アダムスキー全集第一巻」に出ている図面(確かグレン・バスマアという人が描いたのではなかったでしょうか)とほとんど同じです。もちろん違うところもありません。

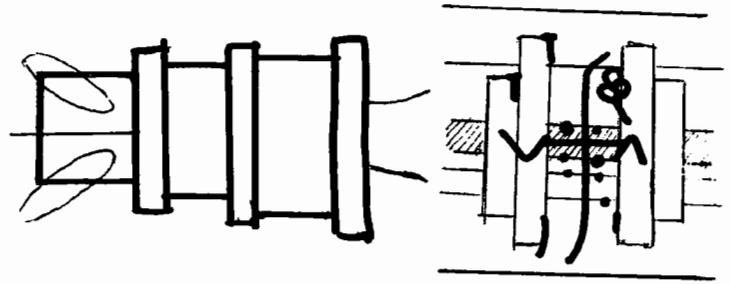


図5

スペーススปีプについて

ところでS氏と東京駅地下街のある喫茶店で話をしていたのですが、そのときに何か宇宙的なフイーリングがわき起こってきたことがあります。

常日頃から自分の心の中を注意してみていると、突然に今までの心の色とはちがう、明るく広がるような色がや

つてきたり、心地よさが広がることがあります。それは上空に円盤などが出現してくれるときにそうですし、また街を歩いているときにそう感じることもあります。

私は普段はオーラを見ようとはしていません。ですから、街を歩いていても、あつ、この人とはいうことはわからないのですが、その広がるようなフイーリングはやってきます。そしてそのときに初めてオーラを見るようにしています。

もちろん私の目でオーラを見ます。はつきりと。そのときには、自分の心の中を見て、変わり行く印象を見えますが、テレパシーでの送信は行ないません。まず感じるだけです。アダムスキー氏ほどのテレパシー能力を持つ人でさえもそれが正しいテレパシーであつたかどうかを、後で実際にスペーススปีプに会って口頭で確認したという事です。ですから、足元にも及ばない私などは謙虚に待つしかないのです。

そして地球でもにこやかに笑う人やこちらの想念によって何らかの反応を起こす人はいます。その人は無意識にこちらの思い、例えば手をあげて下さいということに応えるわけです。これは中学生が並んでいるときに後ろから目ぼしい一人を選び、想念を送るとそのように動くことがあることから、一般的であるのです。

ですから、いくらオーラが良くても

私は注意深くなることにしています。本当のスペーススปีプであるなら後で必ずサインを受け取ります。それが確認になるのです。

ただし、私に関係のある方だけです。それ以外の方は、ああ、あの人はそうだったのかな、そうでなかったのかなと思うだけです。いくらオーラで見えていても注意深くしています。

しかしこういったからといっても、考え違いをなされないで下さい。確かにスペーススปีプはたくさんこの日本でも活躍されているのです。

各人の中にあるもの

宇宙文字を解説することによってアダムスキー氏の真実性がますますクロイズアップされることになりました。

そして、内部の印象に気づきなさいというアダムスキー氏の言葉が大きく認められるようになってくるでしょう。いえ、それは現在では当たり前言葉になっていくのです。それは企業でも応用され始めているのですから。

このように内部の印象を使うようにしていくといろいろなことがわかってきます。そうしてそれらが生かされていけば、やがて私たちは「星々への切符」を手に入れることができることになりそうです。

そのためには宇宙哲学が基本になると思えます。そしてそれを応用するこ

とによって宇宙文字の解説ができてきます。ですから、その解説をしていても自然とのつながりをますます感じるようになるのです。

「星々への切符」というのは魅力的な言葉です。勤めの帰りにふと見上げる夜空に輝く星々は、いつでも手を広げて待っていてくれます。しかしこの地球では戦火が絶えません。この地球が平和になるのはいつのことでしょうか。

磁気モーターはまだ謎のままでしょう。それは久保田先生が言われるように、彼らスペーススปีプルの驚異的な社会を私たちが見られるようになって初めて地球の人々の目がさめるように、そのときになってわかってくることなのかも知れません。

これからの日本は高齢化社会になると言われています。そしてそのためには、年齢に関係なく、「意欲的」に物ごとを考えていく時代になっていくようです。

私たちは社会の変化を待つのではなく、ましてや救世主を待つのもなく、自分の個性に気づき、それを生かして人の役に立っていく必要があるのではないのでしょうか。

Professor Marcel Home's Great Discovery
by Hachiro Kubota

オメ教授が発見した金星文字

久保田 八郎

南米の秘境で発見された不思議な文字は、円盤から投下されてアダムスキーに与えられた金星文字と酷似していた。一万数千年昔に南米の奥地へ金星人が到来していたのか。アダムスキーの金星文字はすでに解読されたが、類似の文字を発見した事実は太古における異星人の壮大なプロジェクトの一端を示すものなのか。少し古いオメ教授の凄い体験実話を紹介。

マルセル・オメ教授

オメ教授の名がUFO研究界に急速に浮かび上がってきたのは、教授がUFOに関心を持つようになったからではなく、ブラジルの秘境を探検した際にアダムスキー問題と重大な関係のある不思議な古代の文字と図形を発見したからである。この事件はかつてイギリスの『空飛ぶ円盤評論』誌にも報道されたし、各国の研究界でも話題となり、論議的となったが、一万数千年をへだてて同じような図形が存在したという事実は、アダムスキーの体験の真实性を裏付ける有力な証拠となるように思われる。

オメ教授は一八九七年にフランスで生まれた。アルジェリア北部のアルジ

エ大学で考古学を学んだあと、母校でアラビア古典を教えていたが、その後ブラジルへ渡ってサンパウロに居住するかわら各種の科学団体のメンバーとなり、同市のアメリカ人博物館の館長となっている。その前にはアフリカ大陸で一五年間をすごして、地中海沿岸諸国の古代の遺跡を調査した。

また教授はピグミー族も研究し、サハラ砂漠の有名な岩石彫刻紋様等も研究した。一九四〇年にはアメリカ、ハイチ、ベネズエラ経由でブラジルへ行き、ついにそこへ落ち着いて、南米の考古学センターからアマゾン河流域の広大な地域を探検するように命ぜられた。そこで彼の輝かしい探検家としての一大業績が打ち立てられることになる。

実際彼はブラジルの大未開地の神秘

▶愛犬マルアイを抱くマルセル・オメ



的な古代の遺物を組織的に発見調査した最初の科学者であるが、彼自身はこのブラジル北部一帯を、一万数千年前に海中に没した失われた大陸「アトランティス」の一部であると確信していたのである！

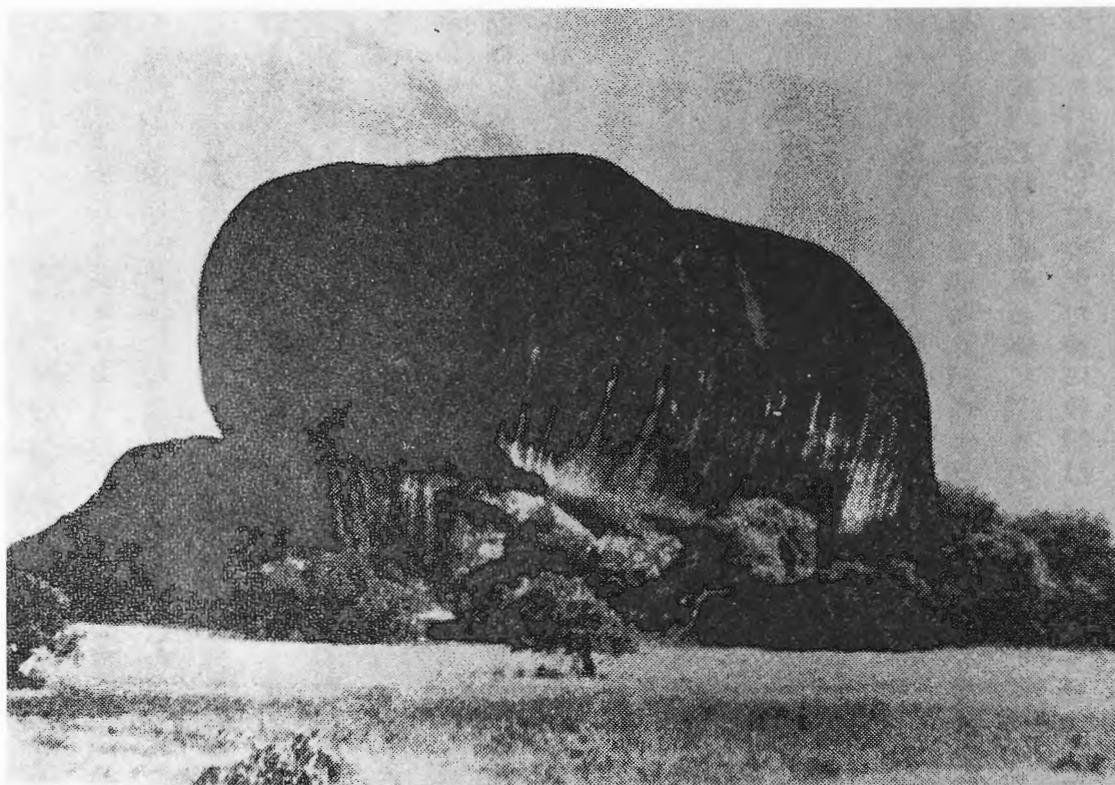
南米奥地の決死の探検

一九四九年の秋、オメ教授は夫人、愛犬の「マルアイ」、その他数名の従者とパーティールを組んでブラジル北地を目指して探検に出た。もちろんこれが最初ではなく、この他にもアマゾン河流域一帯を踏査しているが、これはそのなかの一部分である。場所はブラジルの最北端、ベネズエラと英領ギアナとの国境地帯で人跡未踏の秘境である。一口にブラジルといっても非常に広

大な国土であって、人跡未踏地は至る所に存在する。教授一行の前進路には多大の困難と危険が待ちかまえていたが、愛犬のマルアイが再三教授を危険から救出して事なきを得るということがあった。

目的地はブラジル北部の奥地というものの、直線距離といえば北方の英領ギアナの海岸町ジョージタウンから五〇〇キロばかりの、大アマゾンの支流であるランコ川の上流のゴチンゴ川流域地帯である。このあたりは平野であるが、北側にベネズエラからギアナにかけてパカライマ山岳地帯が巨大な壁をなしているの、北側からの侵入は容易ではない。

北端のゴチンゴ川流域にはセルラ・ド・ソル山（太陽の山の意）の高さが二五〇〇メートルもあり、その他一〇



▲巨大なペドラ・ピンターダの奇岩。

〇〇メートル級の山が沢山あるからギアナ側からは簡単に入れないだろう。

大奇岩ペドラ・ピンターダ

一行がタラメという所へ来たときその付近に「ペドラ・ピンターダ」という巨大な一つ岩があるのを発見した。ペドラ・ピンターダとはポルトガル語であって「色を塗った岩」の意味である。その名の示すとおり、この岩には赤く塗ったドルメンがあちこちに付属している。岩の高さは三〇メートル、長さ一〇〇メートル、奥行き八〇メートルの花崗岩で、太古の文明の印象的な遺跡として広漠たる平野の中にそびえ立っている。

岩の表面には六〇〇平方メートルにわたって奇妙な紋様や図形が刻まれているが、まだ解読されてはいない。岩全体が人間の頭がい骨のような形をした大タマゴ型である。オメ教授自身はこれを「アトランティス文明の石の書物」と呼んでいる。すなわちこれは失われた大陸アトランティスの巨石文化の遺跡の一部であって、現在の文明とは全く関係のない物であると教授は考えているのである。

このペドラ・ピンターダへ来たとき豪雨に見舞われて一行は岩の内部へ入り込んでここで一夜を明かすことにした。一同が通路を通っているうちに偶然発見したのが「埋葬の洞窟」と、骸

骨の洞窟」である。この後者においては多数の人骨が発見された。恐怖すべき一夜であったと教授は述べている。

岩の内部の探検は興味深く、あちこちに小洞穴群や赤い色を塗ったドルメン（二〜三個の石の脚の上に平たい石を載せたもの）があり、儀式に使用したと思われる演壇も数カ所あった。明らかに太古の文明の人間が聖なる場所とした形跡が残っている。

古代の金星文字か！

さて、マルセル・オメ教授のこの探検行における最重要な発見物はこのペドラ・ピンターダそのものではなく、ペドラのすぐ隣りにあった小さな奇妙な図形である。これはある石器に刻まれていたもので、多年風雨にさらされてかなり磨滅していたために教授はさほど気にとめなかったが、一応参考資料として写し取ったのである。

しかし後になってオメ教授みずからアダムスキーの最初の著書「空飛ぶ円盤は着陸した」を読んだとき、飛び上がらんばかりに驚いた。なんとそこには教授が持ち帰った紋様とほとんど同じ種類の紋様と図形が金星人から与えられたものとして掲げられていたからである。

この点については教授は「私はアダムスキーの書物を読むまでは、あの紋様についてほとんど関心はなかった」



▲オメ教授がペドラ・ピンターダで発見した不思議な文字と図形。
アダムスキーの金星文字と酷似している。

と述懐している。アダムスキーが『空飛ぶ円盤は着陸した』を出したのはオメ教授が著書『太陽の子ら』を出す前であったから、アダムスキーがオメ教授の発見を知っていたわけではない。第一、両者共互いに未知の人で、事前に連絡が行なわれた事実はないのである。これはアダムスキーの金星人メッセージが事実であったことを立証する重要な傍証であって、しかも「いざれ地球の土中からこれと同じような紋様の発見が報告されるだろう」と語った金星人の言葉を裏付けることにもなる。そして一万四千年の太古にも別な惑星の人間がこの地球に来ていた事実を証拠立てることになるのだ！

アダムスキーが金星人からネガフィルムに記されたメッセージを受け取った模様については新アダムスキー全集第一巻『第二惑星からの地球訪問者』に出ている。

オメ教授の紋様(上の図)とアダムスキーのそれとは象形文字が完全に同一ではないが、レンズ形の断面図状の図形とその中に描かれているスワステイカ(まんじ)は、フリーハンドで描かれているために多少のゆがみはあるにせよ、同一である。しかも両方共スワステイカの中心部に小円が画かれている。

前述のとおりこの事件はUFO研究界で大問題となった。そして疑う人のなかには、アダムスキーとオメ教授が

グルになって打った芝居であるといつて非難する人もいた。これに対してアダムスキーもオメ教授も全く相手にしていない。ただ教授の方が積極的にアダムスキーの体験の真实性を支持しているだけである。そのことは過去の『空飛ぶ円盤評論』誌に大きく掲載された。

オメ教授によると太古において空を飛ぶ機械を用いていた偉大な文明がこの地球上に存在したという。ジャイアント・バード(巨大な鳥)を持つ人々がこの地上に存在した時代があった。その巨大なシンボルは今なおペルーやアンデスの高地に刻まれていて、翼の両端間の距離が一五〇メートルに達するのがある。これは非常に高空からでないといえられない。平たい地面または岩に刻まれたこのシンボル類は、宇宙旅行や空中戦をやった人々のシンボルとみなしてよいだろう。

「私は大西洋沿岸の国々の口碑伝説や伝承詩などを研究したが、すべて巨鳥の伝説が確実に残っていて、それらは空中で火を噴いて大地を破壊しながら絶滅してしまった」と教授は述べている。

ともかく紋様の発見は高度な考古学者によるものであるから、アダムスキーもこれを重視して著者で述べているほどだ。異星人は途方もない年代差と地球の各地とを結ぶ範囲で深遠なプロジェクトを太古から樹立していたのではないかと思われるのである。

★大阪支部大会、大盛況

去る五月三日に奈良市の奈良県新公開堂で開催された今年度大阪支部大会は、出席者がちよど一〇〇名という空前の大盛況を呈した。久保田会長の講演に続いて質疑応答で終了したが、会場は終始熱気に満ちて素晴らしい雰囲気を感じ上げた。

翌日は快晴下を約六〇名がレンタルの自転車で行、奈良県高市郡明日香村の遺跡めぐりツアーを実施。名高い遺跡を次々と周遊。古代の板蓋宮遺跡の草原で昼食をとった頃、歓喜と愉悅感は最高に達し、午後五時に車で解散した。

なお来年度、大阪支部は大会開催を一休みし、かわって伊豆支部が五月連休に支部大会を開催する予定。

★伊豆支部、来年五月連休に大会開催

伊豆支部は一九九四年五月三、四、五日の三連休を利用して盛大な大会を開催する計画をたてている。支部代表高梨氏からの連絡によると、三日に大会を開催(会場未定)、四日と五日の二日間に渡って伊豆半島周遊の画期的な観光を実施するという。詳細については本誌一二四号(来年一月発行予定)に掲載する。関東方面から参加しやすいため盛況が期待される。

なお従来伊豆支部は横文字でI Z U支部と表記していたが、六月より漢字に改めることにした。

★日本GAP本年度海外研修旅行

既報のとおり本年度の海外研修旅行はアメリカのサンフランシスコ経由でメキシコ、グアテマラの古代マヤ遺跡視察の一〇日間の旅を実施する。出発は八月一三日。午後一時三〇分に成田空港第一ターミナルビル南ウイングのユナイテッド航空カウンター前に集合する。帰国は八月二二日午後四時二十五分成田着の予定。今回は一五、六名が参加する。サンフランシスコではダニエル・ロス夫妻が迎えに来て夕食を共にする予定。メキシコとグアテマラでは久保田と田中の旧知の間柄であるメキシコきつての名ガイド・日系二世のメキシコ人ヤマダ氏が案内する。楽しい旅が予想される。

★大阪支部、アマチュア無線局を開局

大阪支部は四月に五年間のアマチュア無線局の運用を電波管理局より許可された。局名は「大阪GAP無線クラブ」で、呼び出しコールサインは「JK3YNM」。この局の運用者はアマチュア無線従事者免許を取得した者で、大阪支部会員であり、平塚代表の許可者であることを条件とする。現在の運用者は平塚和義、井原嘉彦、宇野秀樹の三名。

この局の電波は短波帯で、世界中のアマチュア無線局との通信が可能という実力を持つ。当面の運用は大阪支部活動時の連絡用とするが、全国の宇宙哲学実践に励む会員相互のコミュニケーションにも活用する。

去る五月の支部大会ではこの無線連絡により絶大な効果をあげた。会場運営で持ち場を離れず代表の指示を伝えてスムーズに大会が開始できたし、翌日の観光ではサイクリングツアーの前後一キロにわたる列の移動に際しては、タクシーから発する平塚代表の指令を三台の無線機で受信して見事に統制し、無事故のツアーを達成した。今後大きい利用したいと同支部の責任者・井原嘉彦氏が言っている。

★原永庫氏のパソコン通信、発展

日本GAP会員で医師の原氏がパソコン通信のネットワークを拡大しつつある。氏は神経科医として病院に勤務するかたわら本格的なパソコンによるGAP活動の拡大化とUFO問題の啓蒙活動に努力する篤行の人。新潟県出身。高校を出てブラジルへ渡り、サンパウロ大学医学部をトップの成績で卒業し、将来教授になれる試験に合格しながらこれを放棄、帰国してGAP活動に参加した英才。現在も博士号取得をめざして慶大医学部大学院へ週二日研究に通うという超人的な努力を続けている。パソコン通信の詳細については本誌三三頁の広告を参照。

★「CADET」誌が本誌を紹介

講談社発行の若い人向き雑誌として名高い「CADET」(カデット)誌七月号(六月二〇日発売)に、ユニークな専門誌としてユーコン誌が紹介された。これにより読者から問い合わせが殺

到して、またも会員が増加の一途をたどっている。

★今年度日本GAP総会

恒例の秋の総会は本誌四九頁の予告どおり来たる一〇月一〇日(二連休の初日)に昨年と同じ機械振興会館(東京タワー前)の地下二階の大ホールで午後一時より五時まで盛大に開催される。今回は趣向を変えて多彩なプログラムを企画し、楽しい雰囲気の中に宇宙的な波動を盛り上げるように運営。夜の夕食会も今回は同会館内の六階大ホールを使用するので外部へ移動する必要がなくて便利である。しかも立食パーティーで行なうから自由に歩き回りながら相互の親睦を図るように設定。料理・飲み物は豊富。また連休なので翌日は都内観光も実施するが、バスでなしに電車を利用するのが特徴。交通渋滞がひどい都内ではこのほうが早く移動できる。四九頁の詳細予告を参照たい。

★英語講座を連載

本誌は次号より久保田会長による英語講座を連載する。多年英米人との交流や膨大な翻訳活動から身につけた会長独特のパワーにより本物の英語が誰にも楽しく身につくように画期的な講座を展開する。特にアダムスキーの原書その他UFO専門誌などの現代英文を教材として生きた文語・口語英語を平易に説明。期待される。

「夢の農業」人気上昇中

特定の害虫を防除でき、毒性がなく、しかも自然界でたやすく分解するフェロモン製剤の導入が本格化している。

フェロモンは動物が分泌する匂い物質であり、同じ種の仲間に限ってごく微量で性行動や逃避、集合などの信号になる。人工的に作られた異性を引き付ける性フェロモンを農地に漂わせ、交尾を邪魔したり、一網打尽にしたりする。害虫も益虫も皆殺しにする殺虫剤と異なり、どの生物にも毒性がなく、環境に残らない。フェロモンメーカーが米国で実験したところ、ある害虫を減らしたら関係ないはずの別の害虫もいなくなった。殺虫剤を使わないために害虫の天敵が元気になる、人間が壊した自然界のバランスが元に戻ったためであるという。(4・9朝)

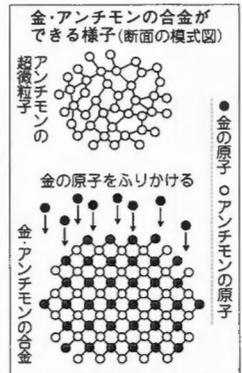
ピラミッドに謎の部屋

カイロ近郊ギザにあるクフ王のピラミッドで、これまで知られていなかった部屋がドイツ科学者チームのビデオカメラ付き小型ロボットによって発見された。この部屋は「王の玄室」の下の女王の部屋から斜め上方に延びた穴の行き止まりにあり、クフ王の財宝が入っている可能性がある。(4・17毎)

混ぜただけで合金

異なる金属原子が自然に混じり合う超ミクロの世界の不思議な現象を、大阪大超高压電子顕微鏡センターの森博太郎助教と工学部の保田英洋助手らが電子顕微鏡で撮影した。

アンチモン原子が数千個集まった直径約一〇ナノメートルの超微粒子を炭素薄膜の上におき、蒸発させた金の原子をふりかけると、金原子がアンチモン原子の



間に入り込み、両方の原子が規則的に結び付いた結晶ができる。

普通は金とアンチモンの合金をつくるにはアンチモンを高温に熱して金を溶かし込まなければならないが、超ミクロの世界では原子が自由に動き回れるために熱を加えずに合金ができる。(5・21朝)

MRSA、わずか五秒で殺菌

大阪大微生物病研究所の本田武司教授らが、食塩入り水道水の電気分解によって作られた低濃度次亜塩素酸が、MRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)に対して強い殺菌作用のあることを突き止めた。

本田教授らは、既存の消毒剤よりも殺菌効果が強くて低濃度の消毒水を必要とするだけ取り出せる装置を、医療器具メーカーの「デイ・アール・ピー」と協同開発した。

この仕組みは、水道水に食塩を混ぜて電気分解させ、ある一定の濃度になった次亜塩素酸含有水が蛇口から流れるものである。

作り置きの高濃度次亜塩素酸系消毒剤の五〇分の一から一〇〇分の一で済む五ppmの次亜塩素酸濃度で、わずか五秒間手を洗っただけでMRSAが完全に殺菌されていた。(4・13読)

冥王星の外側に小天体

太陽系の最も外側にある冥王星の更に外側を回っている小天体を米国の天文学者が初めて発見した。これにより太陽系は従来の一・一二倍の大きさに広がる。

ハワイ大学天文学研究所のデービッド・ジュエイト教授とカリフォルニア大学のジェーン・ルー博士が昨年八月に直径二〇〇―二五〇キロメートルの赤色の天体を発見した。「1992QB1」と名付けられた。太陽からの距離が冥王星の約一・一二倍の円形軌道を三〇〇年周期で回っている。この軌道は最近の学説で彗星の発生地と考えられている「カイパーベルト」と一致していた。(4・22毎)

電解活性水に殺菌効果

水道水から電気分解された強酸性の電解活性水が、HIVやMRSAなどの多くの殺菌やウイルスに対して強い殺菌効果のあることが、東北歯学部奥田礼一教授と清水義信助教授、日本インテックの共同研究で明らかになった。

電解装置に普通の水道水を入れて電流を流し、PHが二・七以下の強酸性電解活性水を精製した。一cc当たり一〇〇万個あったHIVやMRSAのウイルスは一分以内に完全に死滅した。

原料は水だけで副作用もなく、医療機器の洗浄などに活用が期待できるという。(4・23読)

四〇〇年前のアラカシ

佐賀県西有田町の坂の下遺跡(縄文中期)から昭和四二年に出土したアラカシ(右下の写真)が花をつけた。

第一次調査時に食料貯蔵穴の中から大量の実が見つかり、西有田町文化財専門委員の吉永直さんが保管していたもの(4・28読)



アルツハイマー病、高精度で診断

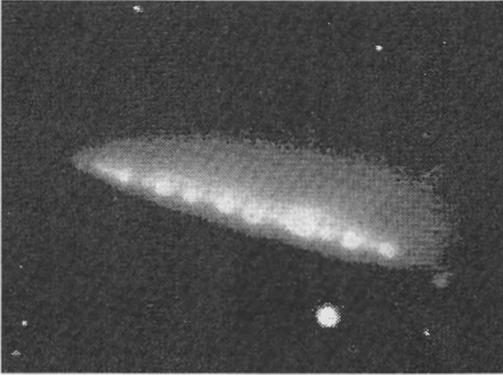
東北大学農学部の宮沢陽夫助教と同大医学部附属病院の佐々木英忠教授らの研究グループが、老人などに痴呆症状を引き起こすアルツハイマー病を、血液検査によって七割の精度で診断できる方法を開発した。患者の赤血球に特定の過酸化脂質が多く含まれることを利用したもので、発病予測も可能となる。

研究グループはアルツハイマー病患者六一人と健康者一四六人から採血し、「化学発光検出・高速液体クロマトグラフ法」で赤血球の過酸化リン脂質の分布量を比較した。

その結果、患者の赤血球からは健康者の三―一〇倍の過酸化リン脂質が検出された。診断の的中率は約七〇パーセントに達した。(5・2読)

すい臓組織再生に成功

遺伝子工学を使って合成した特殊な蛋白質を投与することによって、すい臓の組織を再生する動物実験に、東北大学部の岡本宏教授と金沢大医学部の米村豊講師らの研究グループが成功した。これが人間に応用できると全国で五〇〇万人の糖尿病患者の完治に道が開かれる。



糖尿病は、体内の糖代謝に必要なインスリンを分泌するβ細胞が破壊されて引き起こされる。研究グループはすい臓組織を再生するラットの遺伝子を利用して新たな蛋白質を合成することに成功した。すい臓の九〇パーセントを切除して糖尿病にしたラット二五匹にこの蛋白質を毎日投与した結果、β細胞が再生し始め、二カ月後には二匹が清浄な血糖値に戻った。(5・10毎)

宇宙の夜汽車?

米国の地質学者によって発見された「シューメーカー・レビー彗星」は、昨年木星近くを通った際に、木星の重力で砕けて二〇個以上に割れたものであることがわかった。

写真はハワイ大学のグループがマウナケア天文台から捕らえたもので、二〇万キロに渡って数珠つなぎになっている。(4・21朝)

流感ウイルスは渡り鳥が運んでいた

インフルエンザのウイルスが渡り鳥によって世界各地に運ばれ、人間や動物に感染症を起こしていることを、WHO(世界保健機関)の協同研究グループが遺伝子分析によって解明した。これを受けた環境庁は渡り鳥の移動ルートやその生態学的な研究に着手することとなった。

インフルエンザが鳥類に由来する病気であることは七〇年代から指摘されてきたが、今回WHOの共同研究グループが鳥類、哺乳類、ヒトなどが体内に持つ様々なインフルエンザウイルスの遺伝子配列を比較、分析したところ、もともと野鳥に分布するウイルスが突然変異によって哺乳類に対する感染力を持つウイルスに変容することがわかった。

例えば「A香港型」ウイルスの場合は、シベリアで繁殖するガンやカモが持つ「III型ウイルス」が、越冬地の中国南部で家畜のブタに感染する。次にこのウイルスがブタの体内で人間へ感染する「A香港型」に生まれ変わる。そしてこの新しいウイルスが人間に感染し、日本に持ち込まれる。

同研究グループの国立予防衛生研究所の根路銘室長は「地球上の生きものは、ウイルスから人間まで、皆お互いにプラスとマイナスの役割を抱えながら生きている。その仕組みを解説すれば、病気の予防や治療にもつながるだろう」と話している。(5・12読)

五〇万年前の日本に原人

宮城県栗原郡築館町の「高森遺跡」が北京原人と同年代の約五〇万年前までさかのぼる遺跡であることが、石器出土層などの科学的な年代測定で導き出され、

日本列島での原人存在が決定づけられた。

宮城県東北歴史資料館と県内の民間考古学研究グループが八八年から発掘調査を続けていたが、今回富山大学広岡公夫教授と奈良教育大学長友恒人教授が地層の年代測定値を出した。

広岡教授は地磁気の南北が何度も逆転したことを利用した古地磁気法で高森火山灰層の地磁気逆転を確認した。

長友教授は宇宙からの放射線が層内の石英粒子に当たってできる傷を利用した熱ルミネッセンス法で年代を確認した。

これらの測定値と遺跡地層の堆積順序とを併せた結果、資料館は「複数の測定値に矛盾がなく、地層の上下関係とも整合性があり、高森第一層より一〇—二〇センチ下部の遺跡は五〇万年前に近い」と判断し、原人遺跡との見解に達した。(5・13毎)

砂漠の地下に巨大な湖

タクラマカン砂漠の地下に、八兆トンの地下水が存在することが中国科学院の調査でわかった。

周囲の山脈から流れた雪解け水が地下に浸透したもので、同砂漠のタリム盆地では巨大な石油資源の埋蔵も確認されている。

この砂漠の地下には、地下水を含んだ厚さ二〇〇から三〇〇メートルの地層があり、大半の地域で一〇メートルも掘れば地下水に突き当たるといふ。(5・20読)

超新星が2度の輝き

北天のおおぐま座で発見された超新星が、いったん減光した後、再び明るさを増していることが世界中の天文台の観測で分かった。超新星は普通寿命の尽きた恒星が最後に輝く現象であるため、生き

返ったような二度の輝きは天文学史上でも初めての発見である。

この超新星はスペインのアマチュア天文家が発見した、地球から一四〇〇万光年離れた銀河M81の中にある「SN1993J」。三月三十一日の一〇・七等で最高に輝いた後急速に減光したが、四月二〇日に再び明るくなり、一〇・八等の輝きになった。(5・21読)

フロンガスを無害化する装置を開発

神奈川県工業試験所がプロパンガスの爆発に伴う熱衝撃波を利用して、環境問題を引き起こしているフロンガスを無害化する装置の開発に成功した。この装置は、内径三・五センチ、長さ一メートルのステンレス製のパイプに、空気と混合したプロパンガスとフロンを充填し、一〇秒ごとに点火プラグで爆発させる。この時に生じる温度三〇〇〇度、秒速二〇〇メートルの熱衝撃波によって、瞬時にフロンを分解する仕組みである。八時間の運転で、家庭用冷蔵庫の冷媒で二〇台分のフロンが処理でき、製作費は約三〇〇万円という。(5・31朝)

ビタミンは心臓病・癌などに効く

ハーバード大学の疫学者ウォルター・ウイレットらの研究チームが五月に発表した報告によると、二万人の男女を八年間追跡調査した結果、一日最低一〇〇IUのビタミンEを摂取している人は心臓病の発生率が通常より四〇パーセント近く低く、ビタミンDも癌細胞の増殖を予防する効果があり、その他各種ビタミンによる酸化防止剤は癌をはじめ六〇種もの成人病を防ぐ万能薬だといふ。

(ニューズウィーク誌6月24日号)

不思議な体験連続の人生

千葉 福造

私は昭和二三年二月四日に生まれました。その年はうるう年で二月四日が節分になります。それで私が生まれたときに「鬼は外、福は内」とやっていたらしく、それで私の名前に祖母が福造という名をつけてくれたのです。私は小さい頃からこの名前が大嫌いでした。

恥ずかしい話ですが、私は幼稚園の頃から人と話をする事ができない性格でした。それで授業中も私だけは外でブランコをしたり滑り台で滑ったりして遊んでいる暗い性格の子だったのです。今ならば自閉症というレッテルを貼られたと思います。

小学校に上がってからも同じ事をくり返していきまして、ある日、先生からこっぴどくお尻をたたかれました。それ以来、体は教室にいても心は常に野外にいるような性格でした。

中学、高校と進むにつれて、自分自身を変えたいという気持が起りまして、柔道をやったり空手をやったりしました。

一試合で一生涯を体験

大学（国士館大学体育学部）に進んでは学校近くの「松陰神社前」という駅がありまして、そこである日、ポスターを目にしたのです。そのポスターには「キックボクシング」と書いてありました。そして沢村忠選手とタイの選手が戦っている写真が載っていたのですが、私はそれを見たときに頭がガンと叩かれた思いがしたのです。つまり私の内部から、それを「やれ、やれ」という気持がわきおこってきまして、「今回をこれを見逃すと、年をとってから後悔するぞ」という気持をおこしまして、文京区にあります小石川のジムの門を叩きました。

そして試合に出るまでに約一年ばかり練習をしたのですが、デビュー戦のときに一ラウンド三分間で五ラウンド戦うんです。それはもう凄いもので、私は一つの試合に自分自身の人生といえますか、一生涯というものを感じた

のです。そしてやめるまでに一五戦の試合をしました。一五回の人生をくり返したといえますか、それを体験してからやっと人並みになったという気持ちになりました。

試合というものは不思議なもので、最初にゴングが鳴るまではよく覚えていますが、鳴つてからの記憶はないんです。断片的に記憶は出てくるのですが、知らないうちに控室に戻っているという体験をしました。

あとからテレビで放映されて自分の姿を見るとときがあるのですが、ちゃんと戦っているんです。自分自身ではない「違う自分」が戦っているような不思議な体験をしました。

精神薄弱児を差別するな

私は自宅ですばらく仕事をしていた時期がありました。自宅の近所にやはり自閉症の小学生がいました。男の子です。その子はいつも母親に手を引っ張られて無理やり学校へ連れて行かれたのです。

そのうち、その子が中学へ上がってから体がしだいに大きくなってきたのです。そのために母親の手に負えなくなりました。するとある日、そのお母さんが私の家に見えまして、「千葉さん、手伝ってくれませんか」と言われるものですから、そのとき私は彼と初めて会ったんです。

私はもともとそんな性格だったものですから、お互いに通じあうというか、すぐく相手が私に好意をもってくれまして、学校の授業が終わると私の家でアルバイトをしていました。今は社会人として立派に成長しています。精神薄弱児という言葉は本人を傷つけるだけですから、そんな言葉は使用しないようにするとういと思えますね。

最初のUFO目撃体験

私が幼稚園から小学校に上がる頃ですが、家の前に原っぱがありまして、そこに子供たちが沢山集まっていたんです。それで私なんの気なしに空を見上げていたら、西の方の空から楕円形の尾っぽを引いた光る物がフワフワと飛んで来たんです。

そこでいちばん大きな子供が「人魂だあ！」と大きな声で叫びました。私もわけがわからなかつたんですが、非常にびびりして、無我夢中で逃げました。ところが私だけは家とは逆方向に逃げちゃいまして、家へ帰るまでにすごく怖かったことを今でも覚えていました。あれが人間の魂なのかなと思っていました。

やはり小学生だった頃ですが、ネコの人魂というのを見たことがあるんです。私が捨てたネコを拾ってきまして、親に反対されたのですけれども、なんとか飼ってもらいまして、しだいに大

きくなってきました。非常に可愛いネコでした。

近所に私の親戚がありまして、ネズミが出るからぜひそのネコを貸してくれということです。それで弟が大きなネコを抱えて連れて行つたんです。そうしたら途中で車が来たときにネコが飛びだしちやいまして即死したんです。

私と祖父と二人でネコを拾いに行きまして、祖父がやさしくネコを毛布でくるんで、一緒に帰る途中のことです。私の家のありました葛飾区(東京)というのは、昔、まわりは田んぼばかりで、二人で並んで歩いていきますと、私のちょうど左手の二メートルぐらいの所に、まん丸い光る物が一緒について来るんです。

それを私はしばらく見ながら歩いておりましたが、それが私の前にふっと来た拍子に、それがパツと消えました。そこで、そのことを祖父に話しましたら、「お前が可愛がったネコだから、最後のお別れにお前に姿を見せたんだ」と祖父が言いました。それで私は、それがネコの魂なのかとへんに感心した記憶があります。

未来のGAP本部上空に大母船？

一九六〇年前後なのですが、子供たちが集まる場所がありまして、そこへたまたま私が行つたんです。

その日は寒くて風がすごく強かった

んです。誰もいないものですから、なんだかいつもと感じが違うんです。景色を見回しますと、いつも見慣れている景色の中に煙突が見えるんですが、その煙突の上にもう一つの煙突(のよ)に見える細長い物体)が四五度ぐらいの角度で傾いて浮かんでいるんです。すぐに目が釘付けになりました、それをしばらく見ておりました。

それで、寒くて帰りかけたんですが、もつたないという気持になりまして、一〇分か一五分くらいでしようか、かなり長い時間、見ておりました。そして帰りかけては、また引き返して見続けるということをくり返した記憶があります。

その煙突のある場所は直線距離にして五〇〇メートルほどですが、最近わかったことですけれども、地図を出して直線を引いてみたんです。それで私が思うのに、五〇〇メートルの距離の所の煙突の上に別な煙突があったのではなくて、もつと遠い所に物体があったのだと思います。

その直線距離を引いた煙突の所からさらに直線を引きますと、四・八キロ先に現在のGAP本部があるんです。私は(昔見たもう一つの煙突のように見えた物体は)母船だつたと思つているんですが、その母船が久保田先生に關係のある母船ではなかったかと思つています。

意識による旅行？

私が日本GAPに入会したきつかけですが、平成二年の夏休み前でした。非常に真実が知りたいといいますか、アダムスキーの本をすごく読みたくなつたんです。それまでアダムスキーについては興味がなかったんですが、私の家の近所といえば綾瀬とか亀有ですが、その辺の大きい本屋さんに行つて探しましたが、見つかりませんでした。

それで神田まで行きました。新アダムスキー全集を全巻そろえようと思いましたが、八巻までしかなくて、夏休みに女房の実家で読みふけりました。

それから日本GAPの存在を知つて、これはぜひ参加しなくてはいけないと思ひまして、始めはドキドキしたんですが、意を決して参加しました。それ以来やみつきになりまして、月例セミナーに参加しております。

『生命の科学』の中に「あたかも自分であるかのように——」という部分があります。私はそれを実践したことがあります。

(編注)新アダムスキー全集第3巻『生命の科学』六九頁に「彼らは観察される個体があたかも自分であるかのように、その個体について意識的になるのです」とある部分を意味する)

私は仕事柄、車に乗る機会が多くて、赤信号で止まっているときに街路樹を

見て、その街路樹が自分自身であるかのようなフィーリングを起こすと同時に、その街路樹が自分を見ていとうフィーリングを起こす練習をしておりました。これは非常に疲れるんですが、これを続けておりました。

ある日曜日の午後ですが、ごろ寝しながら本を読んでいたのです。そうしましたら、いつのまにか寝てしまっていて、目が覚めたときには体が硬直していたんです。女房がよく金縛りというのにあいまして、私も金縛りにあつたと思ひまして、すごく嬉しかったんです。そして手が動くかどうか試してみようと思つて、両手を力一杯顔の前にもつてきたんです。そして薄目をあけて見たんですが、自分の手が見えないんです。両足も自分の視界に入る範囲内に持ち上げてみましたが、両足も見えないんです。

そこで体を起こしてみようと思ひまして、近くの柱まで手を伸ばしました。寝ている状態では絶対に柱まで手が届く距離ではないんです。ところが、手が届いて柱の感触があるんです。自分で力一杯引つ張りまして、三分の一ぐらいは起き上がれるんですが、どうしてもそれ以上は起き上がれません。そのときはあきらめました。

それが終わったあとの脱力感といいますか、すごく気が良かったんです。頭の中で風が吹いているようで、頭がすごくすっきりしました。

それから何日かたつて夜中に目が覚めたのですが、その覚め方がちよつとおかしくて、夢でもない現実でもない非常に奇妙な感じで目覚めたのです。そして私は玄関の外にいました。私は二階で寝ているんですが、階段の方から表の玄関の方へ回つて出て行つたという記憶があります。

そして空を見ますと星が出ていました。そのときに幽体離脱という言葉が適当かどうかはわかりませんが、それだつたのだと私は思いました。

玄関の右側に小さい庭があるんです。その庭に犬を飼っているんです。私が犬を見ますと、犬がこちらを見て一生懸命に尻尾を振っています。それで、「ああ、わかるんだな」と思つて犬の方へ近づいて行きました。

そして両手で頭を撫でたのです。すると犬が急に怖がりだしまして、自分の後ろ脚の股のあいだに尻尾を丸めて頭を低くして、私から逃げようとするんです。

その瞬間、私はやっぱりそうなっているんだという実感がわいて、玄関の戸を通り抜けられるだろうと思つて、手で押してみたんです。そうしたら感触があつて、手が入つてゆかないんです。そんなわけはないと思つて何度かやってみましたが、だめです。

そこで今度は思いきり頭からぶち当たつていったんです。そうしましたら、急に布団の中で目が覚めたんですが、

覚めた瞬間も自分自身が表にいたという実感がありました。

次の朝はすごく気持が良かったんです。ところが足が地についていないというか、非常に歩きにくいんです。そしてお昼近くになつてきましたら、だんだん具合が悪くなつてきました。午後は立てられないぐらいになつたのです。

それで病院に行きましたら、お医者さんは風邪じゃないかと言われまして、風邪薬をもらつて帰つてきました。次の日はケロツとしてなんともないんです。

不思議な図形の連続出現

私はESPカードが大好きで毎日練習しています。これは家族みんなで楽しんでるんです。どちらかといひますと私が特に一生懸命になつていてという状態です。

毎日練習しているということで、自分自身の得意分野といつたものが引き出されてくるような感じを受けます。

ある日、布団に入りまして、目を閉じていましたら、目の前に急にスクリーンが出てきました。いろいろな図形が出てきたんです。その図形というのが、あらゆる形のものざつぱり詰まつていまして、それに色がついてるんです。その色というのがすごく強烈で鮮明なのです。パステルカラーとい

いますか、そういった色が目の前に出てきました。

それを見終わると、それがパタッと前に倒れるんです。すると次の絵が出てきます。

次には景色が出てきたんですが、それもすごく鮮明な色でした。それを見終わると、また次の景色が出てくるんですが、次第にその変化が早くなつて、まるで本の頁をめくるようにパタパタと変わつてゆきます。するとそのときに家がめまぐるしく頭の中で回転するんです。

ですから最近私は毎日のようにESPカードを練習することによって、自分の体の中にある原子そのものにスイッチが入るような気がします。

夜寝るために布団に入りまして、目をつむつて心を落ち着けてきますと、原子同士が連鎖反応を起こすんです。スイッチがパツパツと入るんです。そのときにさつきのような事が起こるんだと最近思っています。

ある夜、寝るときに上半身が熱かつたんです。熱いといつても熱があるというのではなくて、細胞が熱いというのでしょうか、そういう感じの熱さで布団に入りました。

そうしましたら、夜中に目が覚めたんです。電灯がこうこうとついているんですが、その電灯は頭の中についていたんです。頭の中がものすごく明るいものですから、そのとき、ああ、ま

たスイッチが入つたなという気がしました。その電灯が暗くなつたり明るくなつたりを何度かくり返すんです。

重要なESPカードの練習

私は毎日ESPカードを練習してまして、次に何が起こるかなというところがすごく楽しみなんです。ESPカードの結果というのは一進一退で、いいときもあれば悪いときもあつて、あまり効果は上がらないんですが、やつていれば必ず何か不思議な事が出てくるんです。

先日は司会者の篠さんから(四月の東京月例セミナーで講演依頼の)お電話を頂きました。その次の日ですが、やはりその日は寝るときに体の細胞がザワザワして騒いでいるような感じがするんです。これはフリーリングですから、うまく説明ができません。そして布団に入つて今度の月例のセミナーでは何を話そうかと考えておりました。そうしましたら、頭の後ろの奥の右の方に、色が三つ出てきたんです。そうしたら目の前にスクリーンがパツと出てきてまして、男の方の顔が出てきました。上半身です。それがものすごく鮮明なのです。あたかも本当にそこに人がいて、その人を私が見ているかのように鮮明でした。全然見たことのない人の顔で、誰かわかりませんでした。

Space People's Aura
by Mistutaka Kamiya

オーラを でる 星分け 異見

紙屋光孝



素晴らしいオーラを 放った女性

日本GAPの会員の方のなかには、他の惑星の人がこの地球に来て生活をなさっていることを、テレパシーやオーラ透視によって知った方が数名おられることを、東京月例セミナーのテープで聞きました。私自身も同様に、その人たちを色々な場所でも二人も見ました。

まず最初に見た人は次のとおりです。私が鹿児島市内に馬蹄形の磁石を探しに出かけて、天文館通りより山形屋方面へなんとなく足が向いて、商店街を通り抜け、道路にさしかかったとき、ちょうど信号機が赤であったために、信号に従って立ち止まり、なにげなく向こう側の歩道を歩く人たちを見ていたときに、アメリカ人風の女性の方が人込みに混じって前方を見ながら歩いています。

私はすぐさまその方向へ視線がゆき、頭上のオーラを見たら、黄色の薄い色

で、他の人たちよりも際立って目立ちました。

あとでわかったことなのですが、その人こそ他の惑星よりこの地球へ来られた方だと思いました。

なぜ強く感じたかと申しますと、私はその方を見たときは、まだオーラを見る力が弱かった状態でしたが、それにもかかわらず見えたのですから、その方が素晴らしく力強いオーラの持ち主であったと思われるのではないからです。

あのとき何かがありました。見たくてたまらなかつたのです。

その方は、私の方の方を見ていたのを感じていたと思われてなりません。それで私とすれちがったとき、顔をやや下向きにして私からの視線を避けるためにうつむく行動をとったと思われるのです。

書店で異星婦人を見かける

もう一つの出来事は、ある日曜日のことでした。都城市(宮崎県)にある本屋に行きたくなりまして、書店の中へ入って、UFO関係の本が置かれている所で立ち読みしていたときの話です。

入口よりちよつと入った所にNHK通信教育の本が並べてある所から、誰かが私の方を見ているような視線を感じたので、その方を見ると、我々と同

じような日本人タイプの女性が私の方を見ています。

そのとき視線が合うと同時に、すぐに相手のオーラが目にとまりました。

その方は普通の人よりもオーラが鮮明で輝いていて、範囲が広く、なんとなく妙な感じを受けて、何か変だと、その瞬間に思いました。

その方のオーラをよく見ましたら、薄い黄色で、他の色との混ざった部分がなく鮮明で、一般の人のオーラよりも頭上から高く光が出ていたことに気づいたときから、その方がこの地球の人ではなくて他の惑星から来られた人だと感じました。

それからまもなくUFOが

こういう体験があつてから数日後、帰宅中にUFOを見ました。

夕方の上空がなんとなく気にかかり、毎日の一番星である金星を気にかけて、車中より見ながら運転しておりましたら、金星よりも距離にして見かけ上二〇メートルぐらいの所に、金星と並行して金星よりやや大きい光の玉が私の車の方へ迫って来ました。

最初は飛行機じゃないかと一瞬感じましたが、その物体がさらに大きく輝いたとき、UFOだとはっきりわかりました。

大きく輝いたとき、私はなにげなく「有難う」という言葉をUFOに発し

ましたら、そのUFOはまたも輝きをまして遠ざかり、消え去りました。このUFOの出現と書店で見た他の惑星の人と何かの関連があると思われてなりません。

それ以来、UFOを見るはいませんが、何かあの事件が忘れられなくなりまして、私自身これからテレパシーの開発にもっと力をいれてゆかなければならないと考えています。GAPの皆様、これからも良きご指導と励ましの言葉と記事を伝えて下さるようお願い致します。

この文章に書かれてある内容は、今まで本誌に書かれてきた文章や話題に似通った点があろうかと思えます。私は作文を書くのは小学校時代から苦手で、こちらの思っていることが読む人に伝わっているだろうかと思えます。テレパシーがこの地球上で早く皆様に使いこなされるような時代になればよいかと考えます。明るい未来のことを考えて、自分自身に磨きをかけて頑張ってください。

私が住んでいる九州の田舎でも他の惑星の人たちが地球の事について情報を吸収に来ていらつしやるということを私自身実感したときには驚きました。それはオーラ透視によって感じたために確認できたと自分では自負しています。

(1) 一九九二年八月二八日夜一〇時一五分頃、洗濯物を一枚しまい忘れていたことを思い出して窓をあけた。すると近所のNさん宅の上空にキラキラと輝く物体が見える。

よく見ると、少しずつ動いている感じがする。望遠鏡をのぞいてみると、赤・青・緑などの美しい光を発しながらものすごい速さで回転しているように見えた。

三〇分後、それは遠ざかって消えてしまった。「何だろう?」と首をひねるばかりだった。

(2) 二九日夜九時頃、昨夜の妙な物体が出ていた位置よりやや右方から、オレンジ色の、星よりかなり大きな物体が出現した。強い光を放ちながら上へ上へと上昇して、こちらに近付いて来る。

そして空高く上がったと思うと急に光を消し、かわりにほんの小さな光を物体の前後にともらせて、北西へ行っってしまった。速さは飛行機より少し速いといったところだった。音はない。UFOかもしれないという思いが強くなる。

(3) 翌三〇日も夜空を見上げた。二日続けて不思議な物を目撃したのだからきつと今夜も——と、なんだかワクワクするような気分だった。

しかし、この日はなかなか現れなかった。何度も何度も窓をあけて夜空を眺めまわした。

一一時二〇分頃、これが最後と思つて窓をあけて、しばらく見ていると、最初の夜キラキラとした物体が出ていた位置で、ピカッピカッと光りながら動く物がある。

四〜五回その光は点滅しながら動いて消えた。まるでまちぼうけをくつていた私へのささやかなプレゼントのようで、なんだか嬉しかった。

(4) 三一日。この日見た光景は本当に凄かった。今でもこんなことが現実になり起こるのだろうかと思えるほどだ。

夜七時四五分頃外へ出た。この日は特に澄みきって、星もよく見える美しい夜空だった。それまでは家の中から観察していたのだが、今夜は外でもつとよく見たいと思つた。

家を出て数十歩歩いて振り返った時、西南の方からオレンジ色に光る物が飛んできた。

「あっ!」と思つて息をのんで見ていると、我が家の横にある低い山の上空で止まった。そこは、まわりは木々が茂っているのだが、ちょうど真ん中だけ木々が切られている部分の上空で、私の位置の正面である。

「もしかしたら私はUFOを見せられているのだろうか?」

そんな気がして仕方がない。ドキドキしながら見ていると、そのあたりをUFOは少しずつ上下左右に回るように動いている。

そしてさらに気づいたことには、そ

のオレンジ色のUFOの周囲を、やつと目に見えるほどの小さな物が、虫のように飛んでいたのだ。いつだったか、テレビで大きなUFOのそばを小さなUFOが飛んでいることもあると聞いたことがあるが、まさにこれだと思つた。

じつと見ている私の近くを、文化祭を間近に控えた高校生たちが自転車やザワザワと遅い下校をしていた。しかし一人もそのUFOに気付いたらしい高校生はいなかった。他の位置からは山が邪魔して見えないのだろうか。私が振り返った地点というのは、唯一UFOを拝めた場所だったのかもしれない。

二〇分ほどするとUFOたちは少しずつ移動して山の向こうへ行つて見えなくなつたので、家に入った。

そして興奮さめやらぬまま再び窓をあけた。すると、二九日にオレンジ色の光体が現れたのと同じ場所から、また全く同じ大きさと同じ色の物体が出現し、上空へと上がって行く。

そしてここから見て見かけ上一〇センチほど上がった所で突然消えた。その消え方が不思議だった。素早く去つて行ったとか、ぼんやりと消えたとかではなく、パツとかき消すようにいなくなつてしまった。そしてそのあとに黒い雲のような、煙のような物が浮かんだが、それもすぐに消えて、あとはいどこまでも澄み切った空が広がって

るばかりだった。

それにしても私はついこの間までは特別にUFOに関心を持っていたわけではないのに、それが毎晩こんな体験をさせられて、何がどうなっているのか、まるでわからない。しかもUFOを見るタイミングの良さはどうだろう。ほかにみきつと沢山の目撃者がいるにちがいない。そう思つて日本海新聞安来支局に問い合わせたが、全く目撃者はないと言われて、ますます謎に包まれた気がした。(筆者は島根県安来市)

(4) 九月五日のことである。九時三〇分頃、西の空の高い所から斜めにオレンジ色の物体が飛んできた。それほど速くはなく、フワフワとして、どこかホタルの飛び方に似ている。

スーツとこちらに近付いて来たので、急に恐怖感にとらわれた。前にテレビでUFOは怖いものだ、内部で人体実験も行なつたりするというようなものを見たことを思い出したのだ。

するとUFOはゆるやかにカーブを描いてフワフワした感じで西南の方へ向かい、小さくなって消えた。

以上が私のUFO目撃体験のすべてだが、実は初めてオレンジ色の物体を見たとき、「やはりオレンジ色だった」という思いが去来した。というのは、私の母は一七年前、UFOを目撃し、その話を何度も聞かされて、UFOはオレンジ色という固定概念のようなものがあつたからである。

今回、ユーコン誌を初めて読ませて頂いて、さまざまな実に興味深い内容にふれることができて満足しました。UFO観測会特集ということで、その様子が報告されていましたが、ぜひ私の体験もお話し致したく思い、ペンをとった次第です。

私がそれに気付いたのは昨年一〇月中旬頃です。夜ともなれば二階の部屋の窓のほぼ正面にあたる連なった山々の頂上あたりに光体が見れるのです。二つの山の頂上付近に、日によつては両方、または片方だけというように、現れ方も光の放ち方も光の数も異なりますが、毎日のように確認できます。

光は一定時間放たれていたり、あるいは短時間で消えたり、光量も肉眼でどうか認められる程度のものから、ナイター照明に近い強いものまで、さまざまです。色はオレンジ色から赤、または青白い色で、光量が増すとオレンジ色に銀色を加えたように見えます。最初の頃は何か人工の照明にちがいないと思っていました。

しかし不自然さが残りましたので、明るい時間に双眼鏡で見ましたが、それらしい物は探し出せませんでした。この頃は光体を見るのが楽しみにになり、会社から帰るとすぐにその部屋に行き、窓の前に立つて山々を見ている。山々はどれも一〇〇メートルにも満たない低いものばかりです。「そこにいますか？」と頭の中で呼び

かけると、時間の差はあれ、頂上のあたりが輝くことが多いのです。ときには反応がないこともありすが、ほとんど反応してくれませんが、ほとんども手を持っている双眼鏡をのぞきこむのですが、なにしろ、あたりは闇で、距離的なものもあるため、それが果たしてどのような物なのかは確認できません。

普通は定位置で点滅するか、または光をともしたまのことが多いのですが、ある日などはとても感動的に動いてくれました。言葉でどう描写したらよいか分かりませんが、ちょうど野球のピッチャーが投げたボールの連続の軌跡を一枚の写真であらわしたかのようには、はつきりとその移動の様子を見ることができました。もちろん淡い赤味を帯びた光をともしたままで消えて、また現れたりしてました。

光体は自在に動き、ときにはフツと消えて、また現れたりしてました。このような動きを双眼鏡を通して見て、これは間違いなくUFOだと確信しました。ときには山の中腹あたりでも点滅しながら動くことがあります。UFOは案外低空でも飛びまわっているのではないのでしょうか。

その部屋には別方向にもう一つの窓がありますが、そこからも赤味がかつたオレンジ色の光体移動して行くのを見ることができず。多くは右方向から現れ、ゆつくりと進みながら人家のかげへと隠れます。私の家は丘陵地

にあるのですが、二階のその部屋に立つて、ほぼ私の目の高さの位置を飛行して行きます。

一つの光体が人家のかげに姿を消すと、次の光体がいっつの間にか右方向の山々のあたりに現れていて、続いてそれが移動して行きます。初めのうちは淡い光もしくは一つか二つの光を放っていたのが、だいたい私の正面近くになると光の数が増えたり光量が増したりします。

おそらく偶然の一致だろうと思つていましたが、何度か私の正面に来るとナイター照明ほどのオレンジ色を含んだ銀色の光をカーッと放つたことがあります。そのようなことがあると、もしや私にその光を見せているのではないかと思つたりもするのですが、はつきりしたことはわかりません。しかしとても感動的でした。

でも、なぜ他の人たちは何も気付かないのだろうかと思議でなりません。たぶん夜空を見上げることが少ないからかもしれません。そして、おそらくその光体は飛行機にちがいないと思つてしまふのかもありません。というのは私の家から車で二〇分も行けば空港があり、飛行機が上空を飛ぶことが多からずです。

私の心の中にも、もしかしたら飛行機かもしれないという疑いが今もあります。そのため飛行機の光の放ち方や距離に対してどのくらいの大きさに見

えるか、またどのあたりに光をともしているのかを観察しては比較していません。

この光体の場合は、比較的近くを飛行しているにもかかわらず、飛行機特有のあの耳ざわりな騒音は聞かれません。あるときなどは飛び立つたばかりで高度をそれほど上げていない飛行機の下方を光体が飛んだり、ニアミスというのでしょうか、パイロットはきつと目撃しているだろうと思われるくらい接近していたこともありす。

大きさは光体の方が小さく見えますが、もし限られた所にしか光をともしていないとすれば、もつと大きいものかもしれません。一〇〇パーセント飛行機だと言いつてもいいのは、前記の光の放ち方、そしてその動きにあります。

物体は日に一度か多くて二度くらい見られるのですが、左方向から飛行してきて、ちょうど私の正面あたりで止まり、光を強く放つた後、再び左方向へ戻って行くのです。これなど飛行機の動きとは思えません。

また目撃報告によくあるように、光を放つていたかと思えばフツと消え、いつの間にか違う所に現れたりすることも見受けられます。

私は通勤にバスを利用しています。私の住む町(福岡県須恵町)が近くなると建物もそれほどたてこんでなくて、パッと視界が開ける所も多くなり、地上から空まで見渡せます。そのような

所では光体を見ることもあり、ときにはバスと並ぶようにして連なる山々の頂上あたりを飛ぶこともあります。

また飛行機然としてオレンジ色の光をともして光体が動いているところ、ゴーツと騒音をたてて飛行機がいきなり現れるところなど、見ていてなんともいえない奇妙な感じがします。とつさに双方を比べてみると、やはり飛行機のほうが派手に存在を示していますが、もう一方の光体は静かに光をともして飛んでいるという印象を受けます。

私が光体を見る時刻としては、バスに乗っている時間も含めると、早くて六時過ぎから床につくまで(一〇時過ぎ)ですが、日によって頻繁に見る日と、わずしか見られない日と、さまざまです。こちらの心が解放的になっている週末や祝日を迎える前の日や当日などはサービスがよいというか、よく見るように思われます。

町の上空を飛行するのは大体に午後九時頃まで、あとは山々の頂上付近や中腹あたりを飛んでいるようです。山々に関しては、あたりが暗くなると時間に関係なく光を示しています。光体の数はおよそ二〜四ぐらいでしょうか。

意図的に毎日光を示しているように思われる UFO ですから、それを動かしているであろう異星人とも、きつと意思を通わせられるのではないかと思、この頃は折につけて話しかけを始

目撃者によるイラスト

①

老体は右方向の山々のあたりにあらわれ、左方向の人家の影へと姿を消す。逆に左方向から来て、また戻すというケースもありました。

②

右側の山の頂上にあらわれることが多いようです。あと老体が見えるあたりを示してみました。

①の図で、老体は移動しながら老の数が増えたり老量を増したりしますが、いくつか描いてみました。

①

突起物のようはその。(中心部やや後方より) ・あたりは暗く果たは正確な形はどうかはわかりませんが、左図のように見えます。

銀色に点滅

右側の点滅に比べると弱く見える。

光源

その時々によって数は異なる

②

・老体強く①図のような突起物ばかりではなかったが、光源の形から少しは曲線を描いてはるかに思われました。

めしました。今のところ成果はありませんが、気長に続けみるつもりです。そして、もし接触という機会に恵まれば、おそらく私の人生観や物事に対する考え方も大きく変わることでしょう。

万物は人間の想念に感応する

医学博士 塩谷信男

筆者・塩谷先生は九一歳ながらかくしやくとして健康と若さを保つ秘訣の指導を続けておられる。今回も素晴らしい体験記を寄稿されたので、ここに公開した。人間の精神のあり方について重要な示唆に満ちた記事である。

ユーコン誌一二〇号を頂き、有難うございます。今号は実に素晴らしい内容に満ちております。色々感想を述べたいところですが、すべて割愛して一つだけ述べます。

手から出る放射線を測定

昭和二〇年一月（戦争中）渋谷の小生の診療所（戦争で焼かれる前）に未知の井上房太郎さんという人が見えて、次のように言われるのです。

「私は人間の手から出る放射線の研究をしている者ですが、そして手から放射線が出ると思われる人達を訪ね歩いて測定しているのですが、先生も手をあてて人の病気を治しておられるということを知りましたので、そのお手か

ら出る放射線を調べさせて下さいませんか」

差し出された名刺には「日本電気株式会社 大津製造所 井上房太郎」と記されておりました。

実は私も昭和六年から、手のひらから出る放射線を生命線と呼び、「生命線研究所」という言葉を内科医看板の中に書き込んで、私なりの研究をしているところなのでした。

それで大いに喜んで、上がつてもらい、色々話を聞き、また私の掌てのひらから出る放射線を調べてもらいました。それは簡単な機械でした。ただマイクロアンペアメーターを併用していました。

私の掌のあちこちに針をあてて測っていました。

「駄目です。全部スケールアウトして測れません。驚きました。今までだいくんなことには初めてです」

とのことでした。いろいろ話はずみ、とうとう「今夜うちに泊まって頂いて話しましょう」ということになり、その夜は世田

谷の自宅に泊ってもらいました。

樹木も感情を持つ

ところがその夜、面白い話になったのでした。

「実は先生、私には解釈のつかないことが起こっているんです。植物（このときは木）の樹液の流れによって電位差が起こるのではないかと思ひ、この機械を木にとりつけて測定してみました。が、何の変化も起こりませんでした。

ちょっと失望して、ナインダ、何の変化も起こらないのかといって、木をちよつとぶつたのです。そうしたら、メーターが動いたのです。

こりやおかしい、振動で動くはずはないから、原因はほかにあるだろうと思つて、今度は木に針を立てて刺激してみました。そうしたら大きく動くんです。

これは面白いと思つていろいろやってみたんです。木をイジメルと針が動くことが分かったので、とうとう、こりや、ひよつとすると木にも感情があるのではないかと思うようになりました。先生のお考えはどうですか」

この質問に私はびっくりしました。いや、喜びました。かねがね私は草木にも感情があることを知っていました。が、証明する方法を知らなかったのです。

「そりや、あなた、素晴らしいことを発見なさいましたネ。植物に感情があ

るのは事実なんですよ。感情というよりも知性があるんですよ。そして大昔の日本人は皆知つていたんですよ。神主が御神前であげる大祓祝詞にもあるでしょう。「言問いし岩根、木根、立草も言やめて」と。

つまり大昔は岩も木も草もみな人間と意思の交換をしているんですよ。話し合つているんですよ。

それが人間がだんだん心が悪くなつたために、草木のほうに相手になくなり、人間もその能力がなくなつてしまつたんですよ。ただし今でも心の優しい人が花や野菜を育てると良く育つというでしょう」

そんな話からフェアリーやニンフの話やら色々ときぬ話で夜がふけるのも忘れたことでした。

万物は一体

翌朝、早速庭にあつた青桐に機械をつけて実験してみたところ、針が活発に動くことを知つて嬉しくなりました。別れしなに機械を一つ頂戴することになり、大変恐縮したことでした。ただしマイクロアンペアメーターは頂けませんでしたので、東大工学部から借りてきて実験を重ねました。

しかし長くも借りておけないので返却しましたら、まもなく五月の空襲で診療所が消失し、機械も同時に燃やしてしまいました。ただし借りた物を返したあとだったのでホツとしました。



講師塩谷信男

▲今年3月31日、東京銀座のライフケア生活館において講演中の91歳・塩谷信男医博。講演テーマは(1)長く若さを保つ秘訣。(2)絶対にボケない方法。(3)苦しまないで楽に往生できる方法、となっている。

想念で樹木が曲がる

小生は七年ほど前に現在のマンションに入ったのですが、当時、東側の窓の下に常緑樹が一本植えて（いや、自然木らしい）ありましたが、二年ほどしてそれが大きく育って、窓からの眺めを妨げるようになりました。

そこで木に相談をもちかけたのです。「君達にそのまま大きくなられると、空が見えなくなるんでオレは困るんだよ。頼むから海の方へ斜めに伸びていってほしいか。海風に逆らうようになつて困るかもしれないが、頼むよ」

そうしたら、なんとその後二本とも海に向かって斜めに伸びだしました。常緑樹のほうは太い（比較的）ところから曲りはじめ、おかげで空が見えています。木に対してはまことに済まない気持ちで一杯なのですが、勘弁してもらっています。

立派な二人の青年

もちろん、こんなことを人に言つたつてホンキにはしませんし、実際を見せたつて、こりゃひとりりで曲がつたんだよと言われるにきまつていますから、先日の例外を除いては誰にも話したことも見せたこともありません。

その例外というのは、四月はじめ、二人の青年（一九歳と二一歳）が連れ立って話を聞きにきましたとき、あまりにも熱心に聞いてくれたので、こち

らも感心して、これを見せたのが、ただ一つの例外なのです。

その青年というのは、去る三月三十一日に銀座のライフケア生活館で私が講演をしたとき、その聴衆の一人から内容の一端を聞いて、ぜひもっと詳しく聴きたいといつて連れ立って訪ねて来たのでした。

話がちよつとそれますが、銀座での話は健康法の話と、心の力の無限性について話したのですが、その心の動きの不思議さについてもっと聴きたくて訪ねて来たのでした。年の若いによくもと、こちらが感心したので、ついでに話はずんでしまつたのでした。

シクラメンの実験

植物との交流は今までは（六〇年にも及びましょうか、始めたのは昭和六年です）生きている植物（種子も含めて）あるいはバイ菌に対してですが、枝から切り離れた葉についての実験もあります。

シクラメンの葉——同じ条件にあり、形も大きさも似たような葉を四枚とり、プラスチックの底の広い容器に並べました。

(1)(2)(3)(4)と番号をつけ、(1)と(4)を両端におき、(2)を見つめたまま(3)には三（四センチの高さに掌をかざし、(2)にだけ心の中で話しかけました。

「お前はエライな。お前は強いんだぞ。しつりしろ。枯れないぞ」

後日になります、バックスターの実験記録を読み、焼かないうちにもつと実験しておくことが沢山あったなあと思いましたが、橋本健君（超科学学会会長・橋本健理学博士）がバックスターの記事を読んで早速機械をこしらえ、一段と工夫をこらして、針が動くだけでなく、音も出るようにしたのを作りましたので、これの一つ求めて色々実験をしましたが、なかなか面白い結果ができました。

橋本君は東大工学部在学中に井上さんの記事を読み、自分でこしらえて実

験したことがあります、うまくゆかなかつたと言っていました。

なお、私は石コロや無機物にも心のあることを知っておりましたが、それらについて実験をしないうちに機械をなくしてしまいました。

最後に一つ。天体現象も自然界の現象もみな人間の心に感応してくれるというのを数々の体験から私は知っております。つまり万物はみな一体という事です。小さな私も広い私です。もちろん私だけでなく、どなたもです。

追記

その間、同じ時間だけ(3)に手をかざして見ます。これは見えないようにします。見ただけで目からの力が行きますから――。

朝、以上のことをやって、翌朝(二四時間後)に見ますと、(1)と(4)は平べったくなって、桜の葉のようになっていきます。(2)と(3)は元のままです。シクラメンの葉はデコボコしていますが、そのデコボコも元のままです。

ここでまた(2)と(3)に同じことをしました。翌朝、(1)と(4)は萎えはじめましたが、(2)と(3)は変わりません。一週間ぐらい繰り返したとき、(1)と(4)は黄色い斑点が中央にでき始め、葉もすっかりおれてしまいました。が、(2)と(3)は変わりません。ただし勢いは減ってきました。

二週間後には(1)と(4)は全くの黄色い枯れ葉になりました。(2)と(3)も次第に勢いがなくなり、黄斑がはじめて、四週間(正確ではありません)後ぐらいに(2)がまず枯れ、次いで(3)が枯れました。

この順序は私の予想とは反対でした。(1)と(4)の差はありませんでした。

偉大な信念の力

なお、こういう実験もしました。シクラメンの葉を四枚とって、以下の形に容器の底に並べて、トランクルームに入れておきました。そこは小生の部屋から直線距離で五〇メートル離れた

七階にあります。小生の部屋は五階です。

そして部屋から(1)にだけ元気づけの想念を送ったのです。このとき(1)は萎み方がだいぶ遅れましたが、しかし机の上の葉よりは早く枯れました。このときは五〇メートルでしたが、この距離はどんなに離れていても変わりはないはずで。

(3)と(4)をつけて並べておいたのは、もしかしたら(3)と(4)はお互いに励ましあって枯れるのが(2)よりも遅れるかもしれないと思っただけですが、全部とも(2)(3)(4) 同じでした。

なお、この切り取った葉に対する実験は、あなたが推薦された『植物の神秘生活』にも出ていますし、同一婦人の例かもしれませんが、ほかの刊行物でも見たことがあります。

なお、机の上においた葉の実験で、(3)と(2)の枯れる順序が予想に反したと書きましたが、念力のほうが掌から出る力よりも強いと思っただけからです。私の場合は逆でした。ほかの人が実験されれば、また違った結果が生まれるかもしれません。

実は小生、信念の力の偉大さを知ることあるごとに人に説いているのです。自分自身で前人未踏の体験を持っていくから、したがって、このときも心の力を優先させた次第でした。

書き出すと色々書きたい事が出てきますが、ここらでペンをおきます。

21世紀への情報発信基地

FASA-NET ➤ ログイン!

★ Fujioka Archives of Space Age-NET は開局以来 UFO・超能力問題を多面的に取り上げ、真剣なアダムスキー支持者の方々の活躍の場となっています。

★ 海外情報通信網を駆使した宇宙画像ライブラリも大好評。新設の "UFO 画像ライブラリ" には "UFO contactee" 誌掲載の珍しい UFO 写真を満載、貴方のパソコンで簡単にご覧になれます。

パソコン通信初心者大歓迎! 初めての方にも親切丁寧に指導いたします。

アクセス電話番号 _____ 0274-22-6857
 Tri-P ニーモニック _____ CXFASA
 通信速度 _____ 24時間 (メンテナンス随時)
 通信プロトコル _____ N81 XN. XMODEM. ZMODEM 対応
 ゲスト ID _____ GUEST でログイン後、オンラインサインアップ可能

連絡先 = 〒375 群馬県藤岡市藤岡1462-5 原 永庫 (はら ながくら) 日本GAP会員

NIFTY SERVE ID: GBG00771

CompuServe ID : 101016.771

E-MAIL : hara@dmb.med.kelo.ac.jp

The Four Senses, Breath of Life, Reincarnation
by George Adamski / Translated by Hachiro Kubota
© From Alice Pomeroy's "For an Example"

四感・生命の息・転生

ジョージ・アダムスキー／久保田八郎訳 △アダムスキー講演集 連載3▽

四つの感覚器官を 調和させること

今日私たちが知っている人間は、四つの要素によって作られています。人間が所持していると主張し、賛美している「心」は、その四つの要素によって支配されているもので、決して尊敬に値するものではありません。

人間の「心」は、四つの異なった人格群から成っているとも言えます。それは言うなれば、四人の異なった人々のようなものです。それらには、それぞれ、視覚、聴覚、嗅覚、味覚という名が与えられていて、人間はそれらを用いて日常の生活を営んでいます。そしてそれら四つの人格は、それぞれが強い自己主張をつづけています。

もしそれらの四つを所持していなかったならば、人間が頭を持つ必要などありませんでした。もし頭を持っていなかったならば、彼らは人間ではなく別の何らかの名前で呼ばれていたは

ずです。そうでしょうか？ しかし、それらの人格群はこれまで決して正しく養われてはきませんでした。正しく生きるための教育を受けてこなかったのです。それがいわゆる「心」であり、エゴであり、私たちが今日知っている人間なのです。

例えば、一〇〇〇人の人々をとて敏感な床の上に座らせたとき、一匹のハエが落下しただけで雷のような音が轟くほどに敏感な床の上になります。

そして、その通路に、ある「目に見えるもの」を送り込みます。それにそこを歩かせるのです。人々の「目」はすぐにそれを捕らえます。しかし、そこで、それが歩きながらも、全く音を立てないとしたらどうなるでしょう？ 彼らの「耳」は「目」が見えると主張したものの存在を即座に否定して、「いい加減なことを言うなよ、お前は

何も見ていないはずだ。お前はただ想像しているだけさ。もし何かがこの床の上を歩いたならば、音が聞こえないはずはないじゃないか」などと主張するでしょう。

次に、それと全く逆の実験を行なうたらどうなるでしょう？ 今度は、通路を何か歩く足音のみを作り出します。するとまず人々の耳がそれを敏感に捕らえ、その事実を主張するでしょう。しかし、彼らの「目」はそれを強硬に否定することになります。この種のトラブルは、嗅覚と味覚間でも、同じように発生します。

結局、人間を作り上げているものは、それらの四つの感覚器官なのです。なぜならば、人間はその四つに対して、それらの存在を可能としている「フイリング」に対してよりも、はるかに多くの注意を払っているためです。

ところで、弦の調律がちゃんとなさされていないヴァイオリンから、私たちはどんな音楽を作り出すことができるでしょう？ 私たちは、それを用いて音を出すことはできます。しかしそれは、とてつもなくひどい音です。その四本の弦が、互いに尊重し合い、敬意を示し合う完璧な関係となるように調弦されないかぎり、私たちは、そこから音楽と呼べるようなものは決して作り出すことはできません。

それらの弦が、同等の立場に立った相互尊重のもとで一つになったときに初めて——それらが完璧な調和を手にしたときに初めて、私たちはそれを用いて美しいメロディーを奏でることができるようになります。そうではありませんか？ 人間もまた、自分自身を同じように調弦しなくてはなりません。その観点から自分自身を知り、自分の四つの装置を正しく調和させ得たとき、彼は、自分が本当に生きていることを実感します。生命に対する、これまでとは違った、全く新しい認識を手にするようになるのです。なぜならば、そのとき彼は、自分自身はいったい何者なのだろう、などと悩んだりすることをやめ、「全体」の中に吸収されることになるのです。

そのとき人間は、調和した四つの弦が織りなす宇宙のメロディーを優れたヴァイオリニストに、奏でさせることができるでしょう。それは、これまでのように

人間の「四感」を通じて流れ出る音ではなく、彼の本質を通じて流れ出る美しいメロディーです。

創造主の生命の息

聖書の『創世期』を思い出して下さい。神はまず最初に特定のアイデア、つまり想念を手になくしてはなりませんでした。そしてその想念は、あらゆる想念同様、形を持ちませんでした。つづいて行なわれた彼の創造のため二番目の作業は、塵に——地の塵に形を成すよう命ずることでした。それはちょうど彫刻家が粘土の固まりから特定の像を作り出すのと同じような作業でした。

出席者「粘土細工をするみたいにですか？」

ええ、そうです。ただし、私は今、人の創造について話しています。神は彫刻家が粘土の固まりから人物像などを作り出すのと全く同じようにして、人を作りしました。しかし、粘土の像は動くことができません。それは何もすることができません。それは単に特定のアイデアを現しているだけに過ぎないのです。分かりますか？

整理してみましょう。それは最初、神の想念でした。そしてそれが形あるものに変えられ、神はその形が気に入りました。なぜならば、それは、彼が前もって心の中に描きあげたものと、ほとんど同じ姿だったからです。

そこで彼は、次にその像の中に「生命の息」を吹き込んだのです。その結果それは今日人間として知られている「生きる魂」となりました。「生命の息」によって、それまでは動くことのなかったものが、動くものへと変化したというわけです。

いかなる信仰の持主であろうと、いかなる肌の色を持つ人であろうと、いかなる人種に属する人であろうと、男性であろうと女性であろうと、あるいは、いかなる惑星や木々であろうと、とにかく、その「息」が存在しないところで生きられるものがあつたならば、ぜひ教えて下さい。生命を持つあらゆるものが、その「息」を必要としています。私たちが今このようにして生きていられるのは、その「息」を吸い込んでいるからなのです。生命を持つ他のすべての創造物にとつても全く同じことです。

ということ、神は今なお、自身の口から、あらゆる生きる創造物の鼻の穴の中に、その「息」を吹き込んでいるということなのでしょう。そう。もちろんその通りです！ その「神の生氣」があつて初めて、私たちの毎日の活動が可能となっているのです。

しかしながら、先程私が述べた四つの人格たちは、「目」は「耳」に敬意を払わず、「耳」もまた「目」に敬意を払わず、といった具合に、常に仲違いを

つづけています。彼らはいわば道に迷った人々です。彼らは、自分たちに、自分たちが持つてはならない権威を与えています。彼らは自分に権威を与える前に、彼らがまだ気づいていない「生命の息」の存在を学ぶ必要があります。

私たちの「目」は、それ自身の存在はよく認識しているのに「生命の息」の存在はほとんど認識していません。耳しかり、口しかり、鼻しかりです。私たちは、それらが常に取り入れている「生命の息」に全くと言っていいほど思いをめぐらしません。それが極めて自動的な行程だからです。しかしながら、それらは間違いなくその「息」を吸い込んでいます。肉体にフィリングを、そして「意識」をもたらず、その「息」をです。その「息」から遠ざかったとたん、肉体は「意識」を失うこととなります（訳注Ⅱの場合の「息」は空気ではなくて、もつと根源的なものを意味する）。

それなのに私たちはその「源」に（みなもと）いかなる思いもめぐらさないのです。私たちは、「目」が見たもの、「耳」が聞いたもの、「鼻」が嗅いだもの、「舌」が味わったもののみを気にとられ、これらの源として存在するものには、全く気づかないでいるのです。それこそが最も重要なものであるというのに——それは私たちにふんだんに与えられています。そしてそれこそが、あらゆるものの主人なのです。それは万



▲ジョージ・アダムスキー（1960年前後の撮影）

物の中を流れる「神の生氣」です。それが万物の中を流れているということは、とりもなおさず私たちは常に神の中を生きているということになります。私たちは目覚めて、この事実をしつかりと悟らなくてはなりません。その悟りでもって今の自分を変えることができなにかぎり、私たちがこの場所を離れて他のどこかに行きたいと考え、そこに行けたとしても、その「どこか」は、私たちにいかなる快適さも提供してくれないでしょう。

人間の本质に目覚めること

私たちは、私たちという存在の本质に気づかねばなりません。私たちの肉体をこのような状態に保っている源を悟らなくてはなりません。それなくして私たちはこのような形で存在し得ないので。そのことに気づかないかぎり、いくら瞑想してもいくら本を読んでも、さほどの効果は期待できません。私たちが何よりもしなくてはならないことは、自分が何者であるのか、何であるのかに気づくことです。

まず肉体的側面を無視することです。これは肉体を虐待せよという意味ではありません。肉体の権威を無視するのです。そして、肉体を存在させているものの中に権威を見るのです。それによって初めて物事の正しい理解が可能となるのです！

イエスが、ある素晴らしいコメントを発しています。今日でも十分に通用するものです。それはカトリック教会が支持しているコメントでありながら、多くの人々によって無視されているコメントでもあります。正しく伝えられていないからです。

イエスが長い一人旅から帰ったときのことです。そのとき彼は皆さんや私と同じようなことを言いました。家をしばらく離れていて帰ったとき、あなたがたはおそらく、「私がない間にどんなことがあった？」とか「誰がどんなことを言った？」と家族にたずねるでしょう。イエスも弟子たちに同じような質問をしています。

「人々はわしを何者と言うとるか？」
それに答えて弟子たちは、自分たちが知っていることをあれこれと語りました。

それを聞いて、人々がまだ真理を理解していないことに気づいたイエスは、次のように考えたのです。

「この連中は私と長く一緒に生活している。私の話も充分に聞き、私が人々を激励する様子も目撃してきた。」

だから連中は他の人々よりも当然多くの事を理解しているはずだ」

そこで彼は弟子たちにこう質問しています。

「それならおまえらはわしを何者じゃちゅうのか？」

それに対して弟子の一人、ペテロが

答えました。

「先生はキリスト（救世主）じゃあな。『生ける神』の子じゃけえのう」

これを聞いてイエスはペテロを賞賛しました。人々は、イエスの「血と肉」、すなわち肉体のみを見て彼を評価していましたが、ペテロは彼を別の側面から見ていたのです。ペテロの答を聞いて賞賛したあとで、イエスはこう言っています。

「それをおまえに悟らせたのは、血と肉ではなく、天におられるわしの父なんじゃ」

つまり、ペテロは「形あるもの」の内側の、その存在を可能としている源を見ることができたわけです。そしてイエスはそれを賞賛しました。

その「源」こそまさに「永遠なるもの」なのです。一方、肉体はそれを宿す寺院です。ペテロはそれを理解していました。

そこでイエスは、こうつぶづけています。

「この岩の上に。わしは自分の教会を建てるんじや。そうすれば黄泉の力といえども、それを打ち破ることは到底かなわんじやろう」

この場合、岩は「真理」を意味するのです。したがってイエスは、

「わしはこの『真理』の上にこの肉体を築くつもりじや。そうすれば、それは、いかなるものによっても永遠に破壊されることはないんじや。それちゅうののは、それが完璧な『真理』の上に築かれるからなんじや」

と語ったのです。

イエスは、自分の肉体を、教会、幕屋、寺院、神の家などと呼んでいます。皆さんの肉体も全く同じです。聖書の中で、あなたがたの肉体は七つの呼び名で呼ばれています。そしてイエスは、「たとえこの寺院が破壊されたとしても、わしはそれを三日で再建するでえ」と語っています。

つまり彼は、自分の肉体について語ったのです。自分の肉体を「真理」の上に築くつもりだと宣言したのです。私たちがまた同じようにしなくてはなりません。

これに関しては、これまで誤った解釈がなされてきました。人々はこれまでに「教会の真の岩」を理解することなく、ただ岩でできた（石造の）教会を作ってきたのです。

〈訳注〉

(1) イエスとその弟子たちは古代ユダヤ人の常用語であった標準アラム語でなく、当時のシリアの影響をもつ方言の西方アラム語を用いていたので、臨場感と人間味を出すために、ここでは訳者の出身地である西部石見地方の方言に訳した。

(2) アダムスキーは、「岩の上に教会を建てる」という言葉の真の意味を、過去二〇〇〇年間、誰も理解しなかったのだと示唆している。つまり「岩」とは



◀この記事の原編者アリス・ポマロイ女史。本年三月撮影。左の建物は女史の家。今冬メイン州は記録的な豪雪に見舞われたという。

永遠不変の「真理」であって、「教会」はそれに支えられている肉体を意味するということである。この「真理」は万物を生かす「宇宙の意識」でもある。

出席者「ペテロは真の教会への鍵を手にしたということなのですか？」

彼は、天の王国（天国）への鍵を手にしました。天の王国は「原因」としての王国です。一方、地の王国は「結果」（現象界）としての王国です。

たとえば、今私は、ある「結果」を見ています。目の前にいるこのご婦人をただ漠然と見ているわけです。その

「結果」を突き抜けて、その存在を可能としているものに目を向けられないかぎり、私は「結果」のみを見ていることになりま

でもそれを突き抜けて、その存在を可能としているものに目をやったとき、私は「原因」を見ることになりま

そして「原因」を見ているとき、私は、天の王国を見ているのです。

さあ、皆さん。何か話して下さい。遠慮する必要はありません。

出席者「潜在意識の問題に戻りたいんですが」

いいでしょう。その前に、もし私が「あなたはどこにいるんですか？」とたずねたとしたら、あなたはどうか答えますか？

出席者「私の肉体はここにいますが――」

でも、私は今、あなた自身についてたずねているんです。

出席者「うーん、よくわかりません。知りたいたとは思いますが――」

せっかくならうつつ一緒にいるんですから、お互いに質問し合いましょよ。なかなか良い質問ではありません

か？ では、あなたは今、ご自分が何者であるかを知っていますか？

出席者「今回の転生に関して言えば、自分がどんな人間になるべきかということを知っています。いや、うまく答えられません」

転生について

それでは、まず、その「転生」というものをはっきりさせましょ。転生は「復活」でもあります。この二つは

そもそも全く同じものなのです。ただ人々は少し混乱しています。神智学では転生という言葉が用いられ、キリスト教では復活という言葉が用いられているからです。しかし、この二つは全く同じ意味を持つ言葉なのです。

さらに、転生には別の側面もあります。「具現化」という側面です。私たちは今それを常に行なっています。私たちは何らかの知識を身につけたとき、たとえそれがいかなる種類のものでもあれ、それを自分自身の中に具現化させたということになります。

そしてもう一つ、「移住」あるいは「移転」という側面があります。それは、ここから乗り物に乗って他の惑星に行くことを意味することもあるれば、他の惑星に生まれ変わることの意味することもあります。とにかく、どこかに行つてここには戻つて来ないことを意味します。

転生にはこの三つの側面があるわけですが、あなたが今おっしゃったそれはどんな形の転生なのでしょう？

説明していただけますか？

出席者「いや、そう言われても私にはむづかしくありません。私がなぜこの話を打ち出したのかを聞いてください。

先日私は、ジェネラル・エレクトリック社の二人の技術者と興味ある会話をしました。一人は研究所勤務の技術者として、私がこの問題を話題に持ち出すと、その技術者は、彼らが最近行なったある実験の結果を話してくれました。

それは、彼らの秘書の一人を被験者として、その彼女を何度か催眠状態に導いて前生の記憶を語らせるという実験でした。その実験中に彼女は彼らの質問に答えて、まず前生の自分の名前を語りました。顔も見えたそうなんですが、それに関してはあまり明確には答えられなかったそうです。でも彼女は名前の他にも生年月日、さらには生まれた場所までもはつきりと語ったのです。

彼女が生まれたところは、ノースカロライナ州のある小さな町でした。

次に、彼女から可能な限りの情報を引き出したあとで、彼らは彼女をつれてその町に連れて行きました。そしてそこで、彼女がもたらした情報の追跡調査を行なったのですが、その結果、まず前生の幼い彼女を知る二人の年

いた元教師を探し出すことに成功しま

した。その二人の名前を含む何人もの知人たちの名前を彼女は催眠状態の中で語っていたのです。他の人々のほんどはすでに他界していました。

さらに彼らは、ある古い家庭用聖書に書き記された彼女の誕生記録も発見しています。その記録は郡の公式資料の中からも発見されました。

もちろん潜在意識の能力に関してはさまざまな議論があるでしょう。しかし何はともあれ、それがある肉体から別の肉体へのある種の知性の移行に関係していることだけは確かなことだと思ふのです」

率直に言います。あなたは他のすべての人間同様に肉体を持っています。そしてそれはこの地球が形成されて以来存在しつづけてきました。だからそれはあらゆる記録を内蔵しています。あなたの肉体も他のすべての人々の肉体もです。それはこの地球の誕生以来、そこで発生したあらゆることの記録を保持しているのです。

それだけではありません。それは、さらに昔の記録をも収めています。果てしない過去の記録です。この地球を構成している元素群は——あなたの肉体は地球の構成元素群からできています——かつては宇宙空間に存在していましたが、気体状であったり微粒子であったりしたのです。それらは、そういった時代の記録をもしつかりと残しているのです。

それで催眠状態にあるとき、人間は自分の肉体の構成元素群が過去に体験したあらゆることを思い出し得るのであります。なぜかと言うと、催眠状態に陥ることによって、例の「四感」すなわち、四つの物質的、肉体的感覚である視覚、聴覚、嗅覚、味覚が機能を停止するからです。そしてその一方でわたしの言う「フイーリング」つまり「生命の息」が自身の知っていることを自由に表現し始めるのです。それが知らないことは一つもありません。それはあなたに、いかなる種類のいかなる情報をも提供できます。その結果、あなたの肉体を作り上げている特定の物質がかつてどこにあって、どんな役割を遂行していたか、といったことまであなたは知り得るのです。

例えば聖書の中でイエスは、「肉体を殺す者に気をつけなさい。しかし、魂を殺すものにはより一層気をつけなさい」と語っています。でも、形而上学者たちその他の人々は、魂が殺され得るということを認めたがりません。そうやって彼らは永遠の生命を説きつづけています。確かに物質の本質、あるいは物質の形成に先行する知性は破壊され得ません。しかし、あなたや私はそのことに関してどれほどの知識を持っているのでしょうか？

すべてを知らないものは破壊されます。例えば人間を人間たらしめている目、鼻、口、耳は、肉体とともに誕生

します。その肉体人間が「全体」の中に埋没する、あるいは、それと一体化したとしましょう。すると、それまでのいくつもの体験の段階を経て、彼はそのときから一人の分離した人間としての機能を停止することになります。しかしその後も彼は全体の一員として存在をつづけます。それまでの彼は全体の一員としての自分を知りませんでした。全体から分離した自分のみしか知らなかったのです。それまでの彼は四つの感覚器官を通じてのみ自分自身を認識していたからです。

次のように言うかわかりやすいかも知れません。雨の雫を考えてみてください。それは永遠なる存在です。液体になったり気体になったりしますが、とにかくその存在は永遠です。

雨の雫の例え

そこで、ある雨の雫が地面に落ちて転がりつづけたとしましょう。それは転がりながら土や塵などを次々と吸収します。悪臭を放つ物質なども含めて、とにかく接触するあらゆるものを吸収していきます。そして間もなくその水の玉は消滅することになります。泥の固まりに含まれた「湿気」へと姿を変え、その湿気がないかぎり泥のボールはその形を保てません。

さて、泥のボールはさらに転がりつづけます。そしてやがて何かにぶつか

って止まります。これはいわば泥のボールの誕生から死に到る物語です。まもなく内部の湿気は蒸発し、元の場所へ、永遠の原則へと戻ってゆきます。同時に「物質」もまた元の塵や埃へと戻ることになります。

この体験、すなわちボールを形成し、限られた距離を転がり、干上がり、分解するというこの体験はわかりますね？ 肉体的、物質的な人間も、これと全く同じことを体験するわけです。

次に、別の雨の雫が同じように地面に落ちて転がったとしましょう。しかしそれは、大量の水を湛えたそれ自身の親である海に辿り着くまで転がりつづけます。延々と転がりつづけて、身にとまった塵や埃、つまり俗念とともに、ついには海へと達するわけです。

その俗念が、あるいはそのボールが、それ自身をそんなに遠くまで転がって行かせたのです。自分自身をそのまま転がらせようとする「力」に自分自身を完全に委ねたからです。それは、それ自身の意思ではありませんでした。そこにはすでにある意思が存在していました。「自然の力」の意思です。それがそのボールを転がしたのである。

そうやってそれは大量の水の中に入ります。と同時にそのボールを支えていた水、つまり「湿気」は分離して、パワフルな海の水に飲み込まれます。つまり、それ自身の親と一体化するの

です。生命の一瞬がその全体と融合するときのようにです。

また、雑物から成る泥の固まり、すなわち物質的な俗念もまた海に浸つたとたんに、その姿は消滅します。身につけていた悪臭も跡形もなく消え去ることになります。それもまた海に入つたとたん、その姿を消滅させて水の一部となるのです。

分離した状態でいるかぎり、それはおそらく過去の体験を思い出せません。しかし全体の一員となつたとき、それはボールの形成開始から海の中で自身を消滅させるまでのあらゆる体験を、いつでも自由に思い出すことができず。なぜならばその記録は、その広大な海の中に収められているのです。分かりますか？

今お話したのは、こういうことです。一つの魂は海に到りましたが、もう一つの魂は海に到ることがなかったために破壊されました。死にました。それは自分の体験を忘れ、いつかまた最初から始めなくてはなりません。それが、人の魂あるいは物質的魂です。それは宇宙の魂を認知し、それと一体化しなくてはなりません。さもなければいつになつても分離したままで、分離した状態にあるかぎり、それは混乱に満ちた変化の数々を常に体験しつつ、進まねばならないのです。そういうことなのです。分かりますか？

催眠状態にあるとき、人間は過去の

記憶を取り戻します。なぜならば、そのとき彼は「物質」ではなく「原因」とかかわっているからです。「すべてを知るもの」とです。

さて、先ほど私はあなたに「ご自分を何者だと考えるか」とたずねましたが、実は、今ここにいるすべての人間が、肉体を持つてここにいる皆さんのすべてが、すでに、あらゆるところにいるのです。ですから、あらためて行くべきところなど本当はどこにもないのです。肉体はそれに気づかねばなりません。そして、あらゆるところにいるもの、それがあなたがたの真の自己なのです。あらゆるところにいるものは次々と進歩し得るということを忘れないことです。

個体は変化して奉仕する

例えば私がある木を切り倒したとしましょう。私はその形を変えました。次に私がそれから家を作ったとします。さてその時点で私は木を進歩させました。それをただ木のままでいるよりも優れた奉仕のできるものに進歩させたのです。

またもし私がその木からヴァイオリンを作ったとしたら、その時点で私はその木をさらに大きく進歩させたことになり得ます。ただしその後で私は大きな忍耐を強いられます。私はヴァイオリンを形成している木の分子群を素晴

らしい状態に配列して、そのヴァイオリンが天国のメロディーを奏でられるようにしなくてはなりません。それが人々により大きな喜びを与え得るようになります。

さて、私は木を進歩させました。確かに私は一つの物質を破壊しましたが、その物から私はより優れた別の物を作ったのです。その結果、木は、人類に対して木のままでいたときよりもはるかに大きな奉仕ができるようになりました。ただし木のままでいたときにも、それはとても素晴らしい奉仕していました。その点は誤解のないようにお願いします。

いづれにせよ、それが物質の変化のすべてです。常に進歩をつづける。常により優れた奉仕を目指す。それが変化の目的です。

あなたがたが心にいだく想念、あなたがたの肉体をつらぬいて流れる宇宙的想念が、ヴァイオリニストが行なうのと同じ仕事を遂行しています。彼はヴァイオリンを日々念入りに手入れし、演奏技術を磨き、良い音楽を奏でつづけることにより、ヴァイオリンの分子群をより素晴らしい状態に配列しなくてはなりません。それによつてそのヴァイオリンは、より素晴らしい表現が可能となります。生命のメロディーをより生き生きと奏で得る、より進歩したヴァイオリンとなるのです。

これが変化のすべてです。この事実

を理解したとき、変化は決して恐れるべきものではなくなります。それはまた、必死になつて乞い求めるものでもなければ、過度に賞賛されるべきものでもありません。それはあなたがたの成長のための一過程に過ぎないのです。イエスが忍耐を持つように説いたのもそのためです。忍耐には素晴らしい報酬が与えられます。しかし今の私たちは忍耐にいちじるしく欠けています。私たちはあまりにも急ぎすぎます。そしてそれゆえに激しく混乱しているのです。

結局これまでに起こつたあらゆることについて聖書が語っています。

「隠されているもので洩らされないものは一つもない」

またそれは、「いつの日か記憶の書がすべての者に対して開かれるであろう」とも語っています。

この人生において自分がしてきたことを、あなたがたは確実に覚えておらずです。中には思い出すことが困難な思い出もあるでしょうが、じっくりと振り返つてみれば、それも必ず思い出せるはずで、誰かに手伝つてもらふことも可能です。

だとすれば、私たちがこの肉体を持つ前に体験したこの記録も間違いなく存在するはずで、果てしなく遠い過去の記録もです。そしていつの日か、この肉体、つまり「心」も——「心」は肉体の一部です——「物質」が、あ

るいはそれ自身が体験した過去のあらゆる出来事を思い出し得るほどの敏感さを持つ、充分に高いレベルへと進歩するでしょう。

宇宙にはあらゆる物事の記録が残されているはずで、未来同様、過去も永遠なのです。そして永遠であるということは始まりも終わりもないことだというのを忘れないで下さい。したがって私たちは未来と同じだけの過去を持つとも言えます。どちらも永遠なのです。結局、人間の真の自己には始まりもなければ終わりもないのです。

しかし形を持つ肉体には始まりと終わりがあります。それはヴァイオリンのようなものです。

私たちはまず最初に一つのヴァイオリンを作ります。他のあらゆるヴァイオリンと同じ材料を用いてです。それはあまり出来がよくないかもしれせん。しかし次はもっと良いヴァイオリンを作ります。さらにその後ももっと良いヴァイオリン、もっと良いヴァイオリンといった具合に、次々と新しいヴァイオリンを作っていきます。そのようにして、いかなる音楽をも完璧に演奏することの可能な最高のヴァイオリン作りを目指すのです。

私たちはそれを行なっているのです。しかし私たちは形あるものを、肉体をあまりにも重要視しています。肉体こそが自分自身だと公言しているのです。

そのために肉体が失われることを極度に恐れています。

でも、もし私のヴァイオリンが焼けてしまったならば、あるいは踏みつぶされてしまったらならば、私は別なヴァイオリンを手にかざすことができるのです。おそらくもっと美しいメロディーを奏でられる、もっと優れたものをです。肉体に同じく同様です。なぜならば肉体は知性ではなく、知性による支配下にあるものだからです。

例えば、肉体を管理している小さな作業員たちがいるとします。彼らは私たちの「心」よりもはるかに多くを知る者たちです。昨日ここで私はこの件である人物と議論を交わしました。彼はクリスチャン・サイエンスの信奉者のようにでしたが、私は誰をも敵視しません。そのとき私はただ精神的側面、意識的側面、肉体的側面からポイントを明確にしたかっただけです。「心」は決して高い評価を受けるには値しないのです。しかし、この世界においてはこれまで常に高い評価を得てきました。でも「心」はいかなる高い評価にも値しません。それは混乱をもたらすこと以外には何もできないのです。それが「心」の行なうすべてなのです。混乱をもたらすことのみです。もっと詳しく説明しましょう。

肉体内部の超高度な活動

少し前に、ここにいる私たちの全員が食事をしました。ところで私たちはなぜ食べたのでしょうか？ なぜ？ それが習慣だからです。これまで、いつもそうしてきたからです。私たちは、肉体が食べ物欲しがるときに、いつでも食事をとることが出来ます。しかし私たちはそれを朝と昼と夜にとるという習慣を確立しました。他の時間帯にはほとんど食べません。

いづれにせよ私たちは先程食事をしました。でも例えば一ポンドのリングゴを食べたとして、私たちの肉体内で有効利用される、あるいはそこに保持される、そのリングゴの栄養素の量を正確に特定できる人間が、この中に、あるいは世界中に、いったい存在するのでしょうか？ 私たちの誰一人として知りません。この世界の最高の科学者たちでさえです。もちろん彼らは徐々に学びつつあります。しかしただけっしてすべてを知っているわけではありませぬ。

でも私たちはとにかくリングゴを食べます。そして満腹感を感じます。するとある小さな作業員たち——小さな化学者たちと言っていましょう——は、すみやかに作業を開始します。まず栄養素を抽出して、それを体内の必要箇所に運搬する作業員がいます。それが必要量以上よりも多かつたならば、彼らはそれを将来の利用のために、しかるべき場所に貯蔵します。

別の作業員もいます。ガス処理のための作業員です。彼は酸酵過程で発生するガスを集めて、それを皮膚の小さな穴や口や鼻などを通じてじょうずに体外に排出します。さもなければそのガスが心臓を詰まらせたり息を詰まらせたりすることによって私たちを殺してしまうこととなります。そこで彼はその排出を行なうのです。彼はどのようにしてそれを行なうかをよく知っています。でも私たちは知りません。そうです。つまり私たちの「心」は知らないのです。

さらに別の作業員もいます。もう一人の清掃人です。彼の仕事は排泄の過程を通じて不必要な物質を廃棄することです。

また、こんな作業員もいます。例えば、あなたがどこから落ちて気をつたとしてしましよう。頭を岩に打ち当ててしまったのです。頭がざっくりと割れています。その瞬間、あなたの足の親指のあたりにいた外科医タイプの細胞が、あなたの頭に向けて旅を開始します。それは人間の世界横断の旅に匹敵するほどの実に長い距離を行く旅です。でもその細胞は、その距離をあっというまに旅し、すみやかに怪我の修復にとりかかります。

世の医者たちが「私が治してあげる」と絶対に言わない理由がそこにあります。最近彼らは自然がその過程を司っていると言います。しかも患者の頭を

開いたあとにです！（一同爆笑）

さて、以上のような小さな作業員たちが、必要な作業をいつもつづけているわけです。彼らは自分たちが何をすべきかをよく知っています。そして、互いの完璧な調和のもとで働いています。彼らは自然の諸法則に従って活動しているのです。そして私たちはその種の九〇億もの作業員たち（細胞）の助けを得て、人間としての機能を遂行しているのです。

彼らはさまざまな目的を持ったさまざまなグループに別れています。九〇億の人々が一つの国家を形成するように私たちの肉体を作り上げている、という言い方もできます。そして彼らの一人ひとりが自分自身で考えています。もちろん完璧な秩序と調和を基盤としているのです。彼らは私たちの肉体の福祉のために、私たちの肉体を維持するために、常に完璧な調和を保ちながら働いているのです。

「心」は小悪魔

そして実を言うと私たちの「心」は彼らのその調和を壊そうとする、いわば「小悪魔」です。例えばテーブル上に食べ物セットされているとしましょう。人間が手にし得る最高の食べ物と並んでいます。悪いことなど起きようはずがありません。その食べ物を食べたなら誰もが幸せな気持ちになれる

はずでです。しかし食事をしようとしてそのテーブルにつき直前に、もし私たちがイライラしたり悩んだり怒ったりしたならばどうでしょう？ 食後まもなく胸焼けを起こし、たまたら胃薬に手をのばすといったことになるでしょう。

なぜならば私たちは自分の全システム機能を阻害したのです。調和という自然の法則を乱したのです。例の作業員たちは、もはやあなたを助けてはくれません。彼らはあなたが苦しむのを放置しておきます。彼らは調和のもとでしか働かないからです。歪んだ混乱した状況下では働かないのです。それはいわば彼らのストライキです。そして私たちは消化不良に苦しみます。

一方、私たちが愛と優しさに満ちた幸せな状態にあつたならば、たとえ食物をとめる紙などを食べたとしても何の問題も起こらないでしょう。例の作業員たちがその消化を強力に援助してくれるからです。

彼らは自然の法則に従ってのみ仕事をします。自然の法則に逆らっては絶対に働かないのです。しかし私たちの「心」は自然に逆らいます。そのとき彼らは急速にストライキに入ります。彼らは決してそれを支持しません。言いかえるなら、「彼らは悪魔とは絶対にゲームをしない」ということです。彼らがともにゲームをするのは神のみなのです。

さて、皆さんの肉体の中で素晴らしい知性が機能しつづけているというところが、よくわかりただけなことと思います。それが今のあなたがたの間としての存在を可能としているのです。それは「心」とは全く異なつたものです。しかし私たちが「心」に与えている賞賛の大きさを見て下さい。そうする一方で私たちは例の作業員たちを延々と無視しつづけているのです。

異星人の 高周波万病治療器

出席者「昨日、確かあなたは波動つまり高周波を用いた実験の話をされたね？」

はい。私は（異星人から）ある高周波治療器を見せられました。そして彼らが現在手にしているその高周波治療器を用いたならば、メスを用いないで手術を行なえるということを聞かされました。例えばこの腕の骨に異常があつたならば、ここにその高周波を当てるといふことになりまして、その高周波を当てると急速にその部分の肉が分離するんです。そして、骨に異常があつたならば直接その治療が可能になるというわけなんです。

次に、治療が終了すると、その高周波は患部から離れます。その間、一滴の血も流れなければ痛みも全く感じません。その高周波が患部から離れる

とすぐに、分離していた肉は急速に元の状態にくっつきます。傷跡を全く残しません。

それで治療は完全に終了します。私たちがその原理を完全に理解したならば、治療そのものさえも不必要なものとなるでしょう。

そうですね。例えば靴のヒモを考えてみて下さい。左右の穴に交互にそのヒモを通していくことで、靴の分離している二つの部分がくっつくわけですから、片側の一連の穴をプラスの分子群あるいは細胞群と考えてみてください。そしてもう一方の一連の穴はマイナスの分子群です。私たちの肉体はそのようにできているのです。わかりますね？

彼らは、肉体の特定の場所に高周波を当てることで、そのプラスとマイナスの分子群を遊離させることができるのです。分子群を分離すればそこは空っぽになります。そこに空間ができるわけです。分子群は互いに結び合つて初めて個体を形成します。彼らはこの原理を応用しているのです。

この原理が一般に用いられるようになったら、私たちが手術を行なう必要は全くなくなると彼らは言っています。そして先程のような治療を一日数分間、三日も行なえばいかなる病気も完治するということです。それによつてあなたがたは完璧に健康な人間になれるのです。（以下次号）



素晴らしい大阪支部大会

兵庫県 宇野秀樹

先日は大阪支部大会でたいへんお世話になりました。ありがとうございました。益々洗練された力強いご講演をありがとうございました。素晴らしい内容でした。

深遠なお話は、私たちが宇宙的に生き、また生きる目的を自分なりに自覚し、望ましい人生を歩むために大きな道標となりますので、喜びを感じてやみません。今大会は一〇〇名の参加者があり、国際級の会議場で開催できましたことは、先生をはじめ、平塚代表、支部のメンバーの実践と努力、そして上空の方々の温かいご援助の賜物であったと心から感じ、今後地球上でのこの活動がいかに重要であるかを実感させられました。

真摯な質疑応答、和やかで楽しい夕食会、翌日の観光では天候にも恵まれ、のどかな明日香路をサイクリングと、最高の二日間でした。出席された東京本部役員の皆様、先生の助手の加藤さん、その他、遠路よりご参加頂いた方々に深く感謝致したいと思えます。

今後に至りましては、今大会の成功とその意義を理解し、着実な努力と実行を重ねながら歩んでゆきたいと思っています。先生の今後のご指導とご教示を期待し、またご活躍

投稿歓迎 字数を問わず。匿名発表可能な住所氏名明記のこと。

を心から願っております。また一〇月の東京総会でお会いできることを楽しみにしております。たいへんありがとうございました。

パワー伝わる大会だった

大阪市 田辺健司

支部大会での素晴らしい御講演、本当にありがとうございました。私の中でも体験が重要というお話にたいく感動いたしました。実生活の中で体験が本当に大切なのだと再認識させられた次第です。

今回の御講演は、先生のパワーが直接にこちらに伝わってくるのを実感させていただきました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。では毎日大変お忙しいことと存じますが、お体に気をつけて下さい。

待たざるアダムスキーの映画

兵庫県 西村悠子

新緑に萌える樹々に囲まれた奈良新公会堂での御講演、誠にありがとうございました。月例会のビデオの先生にも増して生の御声に感動致しました。

人間は本を読んだり聞いたりすることよりも自分で体験する事によって成長し進歩すると言われましたこと

とを改めて自覚し、自分の心に言い聞かせております。知識は実践や体験を通してこそ智慧に変わるという言葉を思い出しました。

ユーコン誌一二〇号で拝見しましたアダムスキーの伝記映画製作の計画が進行しているとうかがい、何ともいえない明るいフイーリングに包まれました。秘蔵されています他の天体等の情報が公表されます前に映画が上映されますことになれば、隠された事実を地球人は冷静に聞くことができてよろし、その時こそ謙虚な心ですべてを反省しなければならぬと思います。

この映画は地球の興亡と未来につながりますことは確実で、出来ればオーソン氏やヒーススピールの方は異星人が出演して下さればいいなと勝手な空想をしております。

今地球は大変な転換期にきております。これからの社会が原因と結果の法則どおり、白人上位の社会が終わり、有色人種に光が当たりはじめて、全人類は皮膚の色がなくなり、すべてが平等であることがわかって、その時こそ高度な文明を持った他の惑星の仲間入りが出来るようになると思います。その時を心に描いて進んで行くかと思いましたが、目の前がパッと明るくなったように思えました。本当にありがとうございました。

壮大きわまりないアダムスキー哲学

神戸市 朴 順衣

私がアダムスキー哲学に触れることが出来ました時は、もう本当に嬉しくて嬉しくてという状況でもあり

りました。ともかく久保田先生の翻訳されました壮大この上ない内容には、あらゆる問題が含まれており、それができ上がったことは、本当にありがたい感謝を申し上げたく思います。

さらに情報としましても、自分自身やまわりの人間関係(身内や仕事関係すべて)を、これほど深く問題提起させてくれるものが他では探すことが困難のように思います。哲学ではあるでしょうけど、高度な教育を受ける機会のない者にとりましては、どうしようもないことのように思えます。ですが、それを可能にしてくれる素晴らしい内容に、人生は今こそ始まる！という感じが致しました。

私自身も謎といわれるものや不思議な事が大好きでたまらない性分をかかえております。今まで、いろいろな書物に触れさせて頂き、またいろいろな出会いがあり、世の中の単に精神世界から意識や波動というものに関心が移行していきつつある状況のように思いますが、それと全て相呼応するかのよう、私自身の意識(心)も少しずつ広がりを持ちつつあるような、そのようなフイーリングに満たした生活を送っております。久保田先生のご講演を聞かせて頂くのは今回で二回目です(昨年と今回大阪支部大会)二回とも姉妹と共に参加させて頂けること自体、私にとりましては本当に感謝すべきことでありました。

今後ともアダムスキー哲学の研究と実践に専念して、悔いのない人生を邁進したいと思っております。

素敵な大阪支部大会と観光

岡山市 山崎真由美

先日はお忙しいところ大阪支部大会にお越しいただき、ありがとうございました。心配された天気も先生のおかげ(晴れ男と聞いていますが――?)で良くなりました。サイクリングの日などは暑くもなく寒くもなく、これ以上はない天気でした。私は岡山にこれよりものですから手伝いができませんでしたが、支部の人はそうとう準備が大変だったと聞いていますので、本当にホッとしました。最近、仕事や何かでなまけておりましたので、先生の講演を聞かせていただき、これは身をいれてがんばらなければと、新たに心に決めた大会でした。

でも本当に楽しい大会でした。あつ、二次会へたな歌をうたつてご迷惑をおかけしました。でも先生がうたつて下さると思ってもみなかったので、トクしちやつたという感じ。先生はむかしそうとうにうたわれていたのでしょうか、すごくお上手なので、こりやちよつとカラオケにでも行って練習せねばと思っております。ほんとうに、ありがとうございました。

有意義な大阪支部大会

広島県 森田雅則

先日、大阪支部大会に参加させて頂きまして、久しぶりに先生の御講演を拝聴することが出来て、大変有意義な一日でした。昨年の総会以来二度目の参加を夢見ておりましたら

念願がなつて参加することが出来、大変喜んでおります。

この日の御講演の演題は「アダムスキー問題と不思議な出来事」改め「マインド世界から意識世界へ」となり、テレパシクな直感力と宇宙の意識との一体化の重要性を説かれ、そのためにはテレパシー練習と宇宙瞑想を実践しなければならぬと力説されておられました。この講演の内容は私自身のテレパシー練習の大きな確信（絶対に能力が出てくるという確信）につながり、また継続するためのエネルギー再充電が出来ました。引き続きテレパシー練習を行ないます。

GAPに参加しますと、いつも会員の皆さんの「アダムスキー問題」や「宇宙哲学」への高い関心がダイレクトに伝わってきまして励まされるときにも、久保田先生の力強い激励を含んだ御講演により勇気がわいてきます。地方に住んでいる私たちにとつては、このような大会への参加は大切な栄養素の摂取と同じことだと思ひ、最近特に参加の重要性を感じております。次回の総会にもぜひとも参加したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

力強い講演に感銘

横浜市 山本益巳

大阪支部大会では先生の力強いご講演と支部の皆様の温かいおもてなしに感銘致しました。毎年、大阪支部大会を楽しみにしておりますが、今年は大盛況でした。当日の先生の講演で私の心に残った事を列挙してみます。

①マインド世界から意識世界へ。
②健康を保つて長生きをして人生体験を積む。
③植物などにも想念を発して呼びかける。
④物を大切にして壊さないようにする。
⑤意識体で生きる→四つの感覚器官に振り回されない。
⑥マスターの言葉から「人間は想念によって健康を維持できる」
⑦意識体として生きようとしている自分を、もう一人の自分が見ているようにイメージすることによって気楽にできる。

⑧瞑想タイプの人間になる。
①マインド世界から意識世界へという事柄と、⑧瞑想タイプ（テレパシクな）人間になるという二点に講演内容が集約されている感じがいたしました。②健康を保つて長生きして人生体験を積む、ということに対しては、コリント書の中の「身体は神の宮である」という言葉を思い出してしまいました。この「神の宮」を大切にすること。ふだんの生活態度の重要性を感じます。

③植物への呼びかけ。これは本当に素晴らしい事だと思ひます。そしてGAP会員ほどの感性の持ち主ならば、ごく当たり前に実践できて、当たり前の事とも言えます。マスターも母船の中でア師に対して「分離はない。全ては一つである」と語っておりますことからわかりますように、私たちは他の動物や植物に語りかけて行くべきであると感じます。大阪に出発する日にアパートを出て港南台の駅に行く道すがら、ツツジがその花を誇らしげに咲かせてい

ました。私はその花を見ながら「きれいだよ。もつともつと咲いておくれ」と呼びかけました。こうした事はもうクセとして身につけてしまふよよいと思ひます。

日常の場で生かそう

広島県 佐々木朋子

先日の大阪支部大会では久しぶりに先生のナマのご講演を聞くことができて、とても嬉しかったです。本当に奈良まで行って良かったという気持ちです。

自分で本を読んで宇宙哲学を学ぶだけでしか得られないものが、たくさんの実践をしておられる方々とお会いしたり、久保田先生のお話を聞くことで得られるのだなという感じが強くしました。

大会当日、そして翌日の飛鳥めぐりは共にとても良い雰囲気、暖かな楽しい気持ちで過ごさせて頂きました。二日間で得たものを、日常の生活の場で生かしていきたいと思ひます。これからもよろしくご指導のほどをお願い致します。

偶然と思えない出来事

神奈川県 M・S

先日とても嬉しいことがありました。それは主人が偶然手にいれた本に船井幸雄先生の「直感力の研究」というのがありまして、その中に久保田先生のお名前やGAPの専門誌「UFO コンタクト」のことが載っていたからです。

主人はUFOにはあまり関心を示

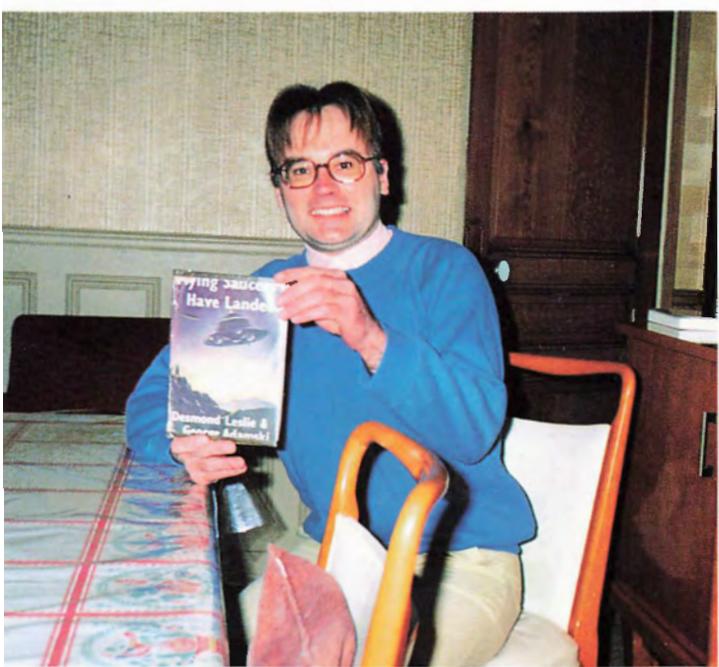
していなかったのですが、自分が尊敬する船井先生の本に久保田先生の御名前があったので、なるほど、私がやっていることもあながちウソの物ではないと認めてくれました。そして、この偶然に本を手にいれたというのが電車の中でありまして、停車した電車からは誰も降りてこなかったのに、座席についてみますと、まるで読んで下さいといわんばかりにこの本が置いてあったのだそうです。かねてから船井先生の本を愛読していました主人は、そのまま頂いてきたのです。

なんだか、アダムスキー哲学や宇宙エネルギーに興味を示してくれな

い主人に、スペースイーブルさんがプレゼントして下さいましたので、とてもハッピーな気分なのです。それからこの本には深野一幸先生のごも紹介されています。久保田先生をはじめ、いろいろな方が人々を宇宙的に覚醒させるために、日々御尽力されていると思ひますと、頭の下がる思いです。

私も毎日「生命の科学」を読んでおりますが、マイナスのことばかり考えるのはよそうと思うようになりました。まだまだ修行が足りず超能力を持つことはできませんが、なるべく物事をプラスに考えて人生を良い方に向けてゆきたいと思ひます。

◀フランスのアダムスキー研究家であるミシエル・ジルガー氏。アダムスキーの著書を手に入れている。



不思議な黄金色の影

加藤純一

私は今年度の秋田支部のイベントであるUFO観測会と懇談会に参加させて頂きました。今回のイベントでは上空からの援助があったことを確信しています。そしてそれらは私が発したその時からすではじまっていたようです。

五月二十七日(金)午前で仕事を終えて羽田から二時一〇分発の秋田行きの日空便で飛び立つてから三〇分ほどたった頃、快晴の中で大変良いあのフィリリングを受けた私は、山々の波動との違いを見出しながら宇宙船(UFO)がいないかと周りを見渡しました。飛んでいる物体は見えません。

しかしいつものように自分の中の声は「見続けなさい」というので機体の下を流れてゆく黒い影を落とす雲や、雲にのって緑から黒に染められる東北の山々を眺めていました。するとその山々に移っている雲の真つ黒い影とは別に真円に近い丸い影が私の窓から地面に見えることに気づきました。なぜあえて影だと表現したかと言うと、それは山々の起伏に依りて、形が雲の影のように変化するためです。しかし不思議なのは、その影はこの飛行機の見える横の視界上で等速でついてくると、その影(?)は黄金色に見えることの二点でした。また、大きさ

は道路との比較により約二五メートルから三五メートルは充分あったと思われました。ただ周りを見ても本体は確認出来ませんでした。

この時パーサーの方に現在の高度を聞いたところ、約六四〇〇メートル上空を飛行中とのことでした。私が確信したのは秋田空港に着く直前にアナウンスが入り、機体が旋回しはじめた時機体の進行方向とは別に、少しだけ右にそれてそのまま見えなくなりました。やはりあのフィリリングは正しかったのでしょうか? さてこんな風にして観測の前日から上空の方々の援助を感じながら久々の秋田での夜を迎えて深い眠りについたのでした。

翌日も晴れ。市内は少しばかり雲がかかっていますが伊藤代表にお会いしてからは元気が出てきて「晴れるぞ!」というイメージを頭に焼きつけました。

昼前には現地へ到着。今回の我々の宿である創業明治二年という由緒ある千葉旅館にて今回のこの企画の尽力者である佐藤忠義夫妻と再会。代表の話では地元新聞社への呼びかけや、ポスターなどによる懇談会への参加募集などで佐藤氏がかかり足を運び地元の方々への気配りをされたとのこと。実際、翌日の懇談会では約三〇名もの参

加者があり、地元の鹿角市内の非会員の方は七名もいらつしやいました。さて午後八時。いよいよ観測開始。

しかし視界が良くない為、万座と呼ばれるストーンサークルのさらに奥の方へ移動して改めて開始。今回は途中で大宇宙瞑想を導入して頂きましたが、これにより上空で活動されている方も我々に気づいて下さるのではないかと天空を見つめていましたが、そうは簡単には出現してくれません。ただこの大宇宙瞑想は本当に心を鎮めてくれる最良の方法だと改めて思いました。またこれを行えば体の調子が良くなったり、心がスツキリしたりすることを知っていましたのでそれを行なったわけです。

さて今回は全員で大きな円を作り、それぞれ外側の空を見上げるという方法で行なつて頂きました。この方法を客観的に観察すると、時間がたつにつれて皆、自分のフィリリングに合わせ移動し、やがてはほぼ全員が一定方向に目を向けているという状態に変化します。この時もやはり出現した方向をほとんどの人が見えていました。おもしろいですね。やはり皆さん何かを感じ取っていたのですね!

私が確認した以外にもたっくさんの光体が目撃されていたことが後になつたわかりましたが、中でも印象深かったのは九時一〇分頃に出現した東の方向から南の方へ移動してゆくUFOでし

た。一回目出現の時のUFOの図は、東京から参加された佐々木八郎氏からも提供して頂きましたが、私も同様の光体を目撃したので参考までに図として残していたものをそのまま書きました。私と伊藤代表は出現する瞬間から見えていたが、かなり強く光りながら出現したので直感的にUFOだと思つたわけです。そして呼びかけに応じて光の強弱をくり返していましたが、飛行機じゃないのかという大きな声があがると同時くらいに突然点滅信号に変化しました。しかし私の「意識の声」はやはり反応しています。双眼鏡で見ると四角な2つの光が見えました。飛行機などのピーコンライトとは全く違いました。

すると突然その光が全く見えなくなりました。何人かは自分も見えなくなりました。何人かと言ふ人も少なからずいましたのできつとまた出現されるだろうと思つていましたら案の定、約一〇分後に今度は消えたところからフラッシュ光を出しながら出現しました。今度はほとんど移動せずにこちらの想念の状態に応じて(?)光を出しているようでした。

今回の観測会は色々な意味でのレッスンだったと思います。いずれにせよ大成功でした。以上を報告させて頂きます。このような企画を推進された秋田支部の方々に厚く感謝して、これからも私は頑張ります。

秋田支部UFO観測会・懇談会成功

秋田支部 佐藤忠義

五月二十九日と三〇日に秋田県鹿角市で開催したUFO観測会と懇談会はきわめて有意義なものとなった。観測会はこれまでも何度か行なったが、懇談会は今回が最初である。

これを開催した目的は、GAP活動の一端として、UFO目撃や関心のある人が情報交換を行ったり、UFOや異星人問題に関する理解を浸透させようというわけである。

開催地を鹿角市にしたのは、大湯のストーンサークルと、その近くに日本のピラミッドといわれているクロマンタ山があり、UFOの目撃事件が多発する地域なので、現地の人々のUFOに関する関心も高いものと考えたからである。

観測会当日、午後から数名で観測地の調査をかねてクロマンタ山に登った



◀上から大湯における観測会、同、懇談会での伊藤正治秋田支部代表による挨拶、加藤純一氏の講演、懇談会会場。

が、きわめて良好なフィーリングを体験し、帰る頃にはパワーが充電したかのごとく生気を取り戻した。このクロマンタ山は、四月に実施された第二次学術調査の地中レーダーによる探査結果によると、約四〜五千年昔（縄文時代）に建設されたものであり、高さ八〇メートルのこの山は石が敷かれた七段の段丘で構築されている。

さらにその頂上からは古代人が祭事に使用したストーンサークルの一部が発見されているという。頂上に位置する神社の中に入ってみると、それらしき石が置かれていた。

さて、夜八時から始まった観測会には二五名の参加者があり、いくつかの光体が出現し、多数の人が目撃した。人の話を紹介すると、九時すぎに北東の方向（仰角五〇度）の星空に赤く二度光ったものがあり、確認の意味で心

の中で「円盤ですか」と問いかけると、それに答えて同じところでまた光った。双眼鏡で見ると、ちょうど正三角形の白い図形が空に残っていたという。それはドーナツをきっちり正三角形にしたようになっており、中は抜けている状態で、それがみるみるうちに霧みたいにフワッと消えていったということだった。この他にも多数の人が飛行する物体と一緒に目撃している。

観測会は九時四〇分頃終了し、旅館に引き揚げて皆で楽しいひとときを過ごした。

翌三〇日のUFO懇談会は参加者が三〇名あり、そのうち鹿角市から七名、県外からGAP会員九名の参加者があった。会は支部代表の伊藤正治氏の司会により進められて、全員自己紹介のあと、秋田支部の渡辺朗男氏と東京本部の加藤純一氏の講演が行なわれた。

渡辺氏はUFOの目撃談や宇宙哲学の重要性を、加藤氏はアダムスキー氏の体験やGAPについて、また自分の体験談等について講演し、参加者に感銘を与えた。その後、鹿角市から参加された方々の目撃報告があり、最後に質疑応答を経て終了した。

この懇談会の最中にも細い雲が大きな円形を作っているのを二名の会員が見ているし、また黒っぽいUFOも目撃されている。

鹿角市は秋田市から車で二時間半かかる所だが、いずれまたこのような機会を持ちたいと考えている。

今回の企画にご協力頂いた方々や県外からの参加者の皆様に深く感謝致します。

大盛況の大阪支部大会

●五月三日 奈良市・奈良県新公会堂
●出席者 一〇〇名

支部代表 平塚和義

新緑に映える若草山のふもとの会場は日本調の建物で、周囲の景色と調和して素晴らしい雰囲気を感じさせる。

大会は宇野秀樹の司会で始まり、続いて日本GAP会長・久保田八郎先生の大講演となった。今回は「マインド世界から意識世界」と題するもので、要旨は次のとおりであった。

人間の進歩とは書物を読むことではなくて人生体験を通じて悟ることである。我々には無限の選択肢が与えられているが、どれを選ぶかは自分の内部に宿る宇宙の意識に従うこと。四つの感覚器官に頼ってはいけない。

これを実践する方法として、リアル自分（本当の自分）と、シャドウ自分（もう一人の自分）がいて、シャドウ自分がリアル自分を観客視する方法がよい。また豊かな生活をするためにはイメージ法と反復思念を絶えず実践して、これに慣れること。草花を見ても視覚で表面だけを見るのではなく、生き物とみてテレパシーで呼びかけて、花の反応を待つようにする。その他、アダムスキー問題に関連して先生の身辺に発生した不思議な出来事を数件話

された。今回の先生のご講演はイメージが大きく変わって、非常に密度の濃い内容であった。

会場内も熱気に満ちながら静粛そのもので、先生のご講演内容を全身で吸収しようという熱意が皆さんに満ち溢れていた。

夜の夕食会も総勢八〇名の大盛況。その後の二次会では名幹事・井原嘉彦が大活躍。ここではカラオケで終始して実に愉快だった。久保田先生の歌もたいしたものだった。

翌日の観光は飛鳥サイクリングツアー。レンゲの花が美しい田園風景の中を総勢六〇名が自転車で行く。吉川真帆が特別に作った色鮮やかなシンボルマーク旗を掲げて先頭を切る飛鳥路はさわめて楽しかった。

今大会は大阪支部が入魂の企画として全力を傾注した結果、空前の大成功をおさめた。特筆したいのは、半年前より準備した段階からスペースビープルのご援助と思われる不思議な出来事の連続で、その都度上空からサインを頂いたことである。これで全員が勇気づけられて今後の支部活動に大いなる夢と希望を与えられた。お世話になった久保田先生、参加者の皆様方、スペースビープルに心から感謝致す次第です。

日本GAP会長 久保田八郎

今回の大阪支部大会は地方支部の大会としては空前の大盛況であった。平塚代表を中心とする大阪支部の強固な団結力が存分に発揮された結果であろう。また代表の手柄も大きくものをつけているようだ。団体活動にとって中心人物の統率力と人格が最強の武器になることを痛感した次第。

私の講演の本当の題目は「マインド世界から意識世界へ」とする予定だったが、これでは難解そうな印象を与えるので、表面的には「アダムスキー問題と不思議な出来事」とした。これは実際には副題であった。過去に私や他の人達が体験した不思議な事件を織り混ぜながらアダムスキー哲学の真髄を平易に解説したつもりである。

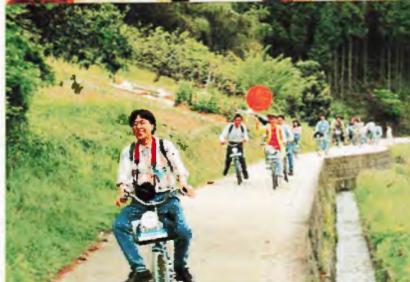
講演中に東京本部役員の松村芳之君のカメラが異常をきたしたので「すわ、UFOか!」と同君が外に飛び出て撮影したら、やはりUFOが写っていた。他の人たちにも奇妙な事がいろいろと起こったらしい。

翌日は快晴で絶好の行楽日和。エジプトの「王家の谷」に匹敵する古墳と遺跡だらけの飛鳥(正式には明日香村)を一周する。ただし私はタクシーで案内された。古代の遺跡に多大な関心を持つ私にとって、このツアーはたまらない魅力に満ちている。名高い高松塚古墳の壁画は閉ざされ

ており、そばの壁画館で模写が公開されている。大きな絵かと思っていたが意外に小さい。人物の身長は約四〇センチ。女性の異様に長いスカートが印象的だ。現代にも通用しそうな堂々たるスタイルは唐の影響を受けているようだ。

驚いたのは明日香村島にある「石舞台古墳」。これは古墳を覆う土を除いて女室(埋葬された遺体を納めた部屋)をむき出しにしたもので、一個一〇〇トン近い巨石群を積み上げた光景に啞然とするのみ。如何なる方法で運搬して吊り上げたのか想像もできない。七世紀始めに聖徳太子と同盟し、太子の死後絶大な権力をふるった蘇我馬子の墓といわれる。

謎の石として有名な「酒船石」は小高い丘の上にある。奇妙なすじが彫刻されたこの大きな石は古代に酒の醸造に使用されたという説がある。しかし私が受けた印象では酒とは関係なく、むしろ不気味な波動を感じた。後日、遠藤昭則君も同様のことを言っていた。明日香村の岡に残る「板蓋宮」遺跡の草原地帯で一同昼食をとる。横暴を極めた蘇我人鹿が中大兄皇子に暗殺されて大化改新の舞台になった所だが、遠い過去の陰惨なイメージは蒼穹に消え去って、美しい新緑と微風に包まれながら美味しいお弁当を賞味する。素晴らしい支部大会だった。大阪支部会員諸氏に深甚の謝意を表したい。



◀左上より

- ①平塚大阪支部代表の挨拶。
- ②久保田会長の講演。
- ③熱気に満ちた会場。
- ④夕食会。

右上より

- ①夕食会の一隅
- ②サイクリングツアー
- ③明日香村の石舞台。
- ④板蓋宮遺跡で楽しい昼食。



本誌バックナンバー掲載記事目録

★下記の他に100号よりあります(102、103号なし)。ハガキでご注文下さい(代金後払い)。バックナンバーに限り送料不要。

No.121 平成5年1月25日発行 ¥900

パロマー山にUFO出現——久保田八郎
宇宙ポタルはUFO
アダムスキー型円盤、超低空で東京をかすめる！——
江戸川堤防の怪光体——鈴木 武
不思議な筒状の雲——沼倉孝彦
人間・イメージ・波動——佐々木八郎
驚異の超小型円盤と宇宙の永遠の活動——G・アダムスキー

No.120 平成5年1月25日発行 ¥900

宇宙的な信念と勇気を起こす方法——久保田八郎
二人の異星人からの忠告——辻 俊昭
テレパシーで植物を動かす方法——遠藤昭則
人間は生来テレパシー能力を持つ——堀江健一
夜空の不思議な「映像」——田辺優子
重力と宇宙の自然のパワー——G・アダムスキー
モアイとUFOの島へ——伊東芳和

No.119 平成4年10月25日発行 ¥900

夜空に不思議な「U」の文字が出現——久保田八郎
私の超能力開発体験と異星人女性との出会い——佐々木八郎
瀕死の妻が宇宙哲学で奇跡的に全快——口ノ町一男
ミコミラクルワールドとイメージ法で腰痛が急速に治る——穴原美智子
神室山上空のUFO——沼倉 孝彦
UFO・異星人・地球人——G・アダムスキー

No.118 平成4年7月25日発行 ¥900

イエスの実像と転生の法則——久保田八郎
計り知れぬ影響力をもつアダムスキー——中村省三
宇宙の意識とともに願望を実現させる方法——高梨十光
私のUFO目撃と不思議な体験——川野晶子
音楽は生命エネルギーを運ぶ——鷲見 弘
UFO・異星人・地球人(1)——G・アダムスキー
天地万物との一体化で長寿——塩屋信男

No.117 平成4年4月25日発行 ¥900

巨大宇宙船、デザートセンター上空に出現！
地球救済活動を続ける異星人(2)——秋山真人
飛行機を助けた謎のUFO
奇跡を起こす反復思念とイメージ法——久保田八郎
善だけを探し求めてテレパシーが発現——小川隆志
ひとりで物品が動く現象——大嶋順子
思いどおりに出現するUFO——中島直仁
ジョージ・アダムスキーと異星人(完)——アリス・ポマロイ

No.116 平成4年1月25日発行 ¥900

地球救済活動を続ける異星人——秋山真人
南フランスの不思議なコンタクト事件——中村省三
奇跡的に願望を実現させる方法——テッド・オーウェン
病氣治療の宇宙哲学的応用——高梨十光
ミラクル・ワードとミラクル・イメージ——久保田八郎
江東区上空のUFO——森田久恵
南九州支部からの声——曾我部勇人
ブラザーズに助けられた？——藤沢清則
ジョージ・アダムスキーと異星人——アリス・ポマロイ

No.115 平成3年10月25日発行 ¥900

アダムスキーとUFO問題の真相——ハンス・ピーターセン
金星表面に超長大な水路を発見！
28年ぶり宇宙からの帰還！？
突然消滅した10人の少年少女！
暗闇から現れた不思議な人々
円筒型の奇妙な物体を見る——服部哲雄
謎の飛行物体、米子に出現
UFOの色彩についての一考察——齋藤俊徳
UFOと古代マヤの謎——久保田八郎

No.114 平成3年7月25日発行 ¥900

日本GAP全国ネットワークテレパシーコールUFO観測会、大成功
北海道上空の物凄い光景——松村芳之
尽きぬ宇宙へのロマン——高木 澤
奇跡を起こす想念の力——遠藤昭則
私は巨大な円盤を見た！——松浦義教
夕バノイの謎の大爆発——ジャン・パジャク博士

No.113 平成3年4月25日発行 ¥900

ファティマの大円盤出現事件——久保田八郎
奇跡のペンダントと転生の法則——ハンス・ピーターセン
ティモシー・グッドのアダムスキー体験——中村省三
オーラ透視力開発法——遠藤昭則
壁画の奇跡——永山稔恭
江戸川区上空の巨大UFO——北館博子
クリスマス前のUFO出現——伊藤芳和
私のUFO目撃体験——平井沙織
UFO-宇宙からの完全な証拠(完)——ダニエル・ロス

No.112 平成3年1月25日発行 ¥900

アダムスキー問題と日本GAP——久保田八郎
宇宙人の遺体はロボットだった！——ハンス・ピーターセン
高度に進化した金星人の実態(完)——G・アダムスキー
<写真>金星の不思議なスジ模様
青森県に頻発するUFO出現事件
UFO-宇宙からの完全な証拠④——ダニエル・ロス

No.111 平成2年10月25日発行 ¥900

高度に進化した金星人の実態——G・アダムスキー
金星から転生してきたイエスの大地へ——久保田八郎
長野県に出現した巨大母船型UFO——村田正道
美しいUFOが赤城山付近を飛び——番場博次
松本市にもフットボール型UFO——茶谷健一
北海道に現れたアダムスキー型円盤——堀江健一
私のテレパシクな不思議な人生——郡司典子
UFO-宇宙からの完全な証拠③——ダニエル・ロス

No.110 平成2年7月25日発行 ¥900

UFOの正体と観測の仕方——本誌編集部
UFO・異星人との遭遇体験記——藤本定雄
宇宙哲学で奇跡を起こして安全に生きる方法——久保田八郎
西郷隆盛の最期を透視——遠藤昭則
アダムスキー秘書との対話——向井 裕
アメリカGAP発足！(完)——ダニエル・ロス
UFO-宇宙からの完全な証拠②——ダニエル・ロス

No.109 平成2年4月25日発行 ¥900

豊かで素晴らしい他の惑星と生命の連続——G・アダムスキー
UFO、朝霧高原に出現！
デザートセンター円盤着陸事件(2)——久保田八郎
強烈に輝くUFOを見た私たち——川野綾子
オーラ、宝石、超魔術、チャネラー——遠藤昭則/秋山真人
「アメリカGAP」発足！——ダニエル・ロス
UFO-宇宙からの完全な証拠①——ダニエル・ロス

※ハガキでご注文の場合は、号数、冊数、住所、氏名、電話番号を明記して下さい。



1993 GAP-JAPAN GENERAL ASSEMBLY 1993年度 日本GAP総会 〈開催予告〉

信念と希望と絶対に諦めない力を起こさせるセミナー

今年も日本GAPは下記の要領で盛大に総会を開催します。信念の固まりとして怒濤のパワーを発揮しながら超人的な活動を続けている久保田会長が、絶大な信念の力と勇気を起こさせる大講演を行ない、あらゆる人間に内在する偉大なパワーを引き出させます（会長のパワーを皆さん方に分け与えるではありません。皆さん方の内部に眠っているパワーを自分で引き出す方法を伝えるという意味です。これが真の人間発達です）。また役員が想念によって花を動かす実演、伊豆支部代表・高梨十光氏の有益な講話、大宇宙瞑想の実習、参加者全員によるテレビシー練習、質疑応答等、多彩なプログラムにより有意義な半日を過ごし、夜は大夕食会で歓談の花を咲かせて楽しい一夜を過ごします。年一度の大集会に多数ご参加下さい。役員一同あたたかくお迎えいたします。

日本GAP本部役員代表 篠 芳史

日本GAP総会 (予約不要)

- 日 時=10月10日(2日連休の初日) 開場12:00/1:00開会
 - 会 場=機械振興会館 地下2階大ホール
東京都港区芝公園・東京タワー前 ☎03-3434-8216
 - 交 通=都内 JR山の手線電車で浜松町駅下車(東京駅より三つ目)。降りたホームを有楽町方向の端まで歩き、階段を降りると同駅の北口へ出ます(この駅から羽田空港へ行く大勢の人が同じホームの別な階段を登りますが、それを無視してホームの端まで行って下さい)。改札を出て駅隣の超高層貿易センタービルの正面前まで約50メートル行くと、東京タワー行きバス停留所があります。タワーまで約8分。料金180円。貿易センタービルの手前横にはタクシー乗り場もあります。タワーまで約5分。料金600円。タワー前の道路をへだてた所に機械振興会館があります。休日は会館正面の玄関は閉じられているので、右へ回って右側面の入口から入り、エレベーターで地下2階へ降りてすぐです。
 - 会 費=¥3,800 中高生¥2,000 小学生以下は無料。受付で納入。
 - プログラム=1:00 司会者挨拶————篠 芳史
1:05 講演「信念と希望と絶対に諦めない力を引き出す方法と成功の秘訣」
(スライド映写付き)————久保田八郎
2:45 休憩
3:00 想念による花の応答実演————篠 芳史
出席者全員によるテレビシー練習(最高得点者1名に賞品贈呈)
3:30 休憩
3:40 私のGAP活動————高梨十光
4:00 質疑応答
5:00 閉会
- ※ご注意=総会中のカメラ(ストロボ付き)やビデオによる撮影、テープレコーダーによる録音等は自由ですが、会長の講演その他の発言内容の著作権は日本GAPに帰属しますので、日本GAP主宰者以外の個人または団体が無断で印刷物に使用することはできません。

大夕食会 (要予約)

- 日 時=総会終了後6:00~8:00(時間厳守)
- 会 場=機械振興会館 6階65号室+66号室
(2部屋の壁を除去した大ホール)
- 会 費=¥7500 会場受付で納入。(中高生割引なし。小学生以下は保護者同伴で無料) 料理豊富。ビール、酒、ウイスキー、ソフトドリンク等は飲み放題。
- プログラム=6:00 司会者、会長挨拶。乾杯音頭=大阪支部代表 平塚和義氏。食事と歓談。
※ご注意=大夕食会は立食形式で行ないますから自由に移動可能です。おおいに歓談し、旧交をあたためて下さい。余興は一切行ないません。飛び入り演奏禁止。この夕食会への出席は、ある程度きちんとした服装をお願いします。ラフな格好はご遠慮下さい。
- ※二次会=9:00~11:00 大夕食会終了後、銀座8丁目の「橋茶屋(やぐらぢや)」で二次会を開催します。参加希望者はタワー前からタクシーで「銀座8丁目の三井アーバンホテル斜め前」と告げて直行する方が便利です。会費¥3,000程度まで。

宿 舎 (要予約)

- ホテル=銀座キャピタルホテル(昨年と同じホテル)
- 場 所=〒104 東京都中央区築地(つぎじ) 3-1-5
☎03-3543-8211
- 料 金=シングル ¥10,300
(朝食付、サービス料込み、税別。50室確保済み) ツイン ¥17,510
(5室確保済み)
- ※ご注意=このホテルは団体予約ですから、必ずワールドセブントラベル社へ予約して下さい。

都内観光 (要予約)

- 日 時=10月11日(連休2日目) 雨天決行
 - 方 法=参加者全員を5~6名ずつの小班に分けて、本部役員2名が各班について誘導しながら全員一緒に行動。貸切バスを使用せず車で移動します。
 - コース=9:00ホテル出発→東京駅(ここに不要荷物を預ける)→皇居前広場・二重橋→有楽町・銀座(しばらく自由行動)→浅草・仲見世(ここで昼食)→新宿(超高層ビル街の都庁展望台に登る)→東京駅(解散)。
- 事情によってコースを変えることもあります。この観光は参加者と本部役員との懇親の機会でもありますから、語り合いながら楽しい一日をすごして下さい。

予約申込

(1)大夕食会=「ハガキに「総会後の大夕食会に出席予約」と書いて、住所・氏名・電話番号を明記の上、9月30日までに(必着)日本GAP宛お送り下さい。

(2)宿 舎=「ホテル予約」と書いて、氏名・住所・電話番号・宿泊日・シングル/ツインの別を明記の上、宿泊料を現金書留で下記へ9月20日までに(必着)ご送金下さい。
〒150 東京都渋谷区東3-24-9、サンイースビル2F ワールドセブントラベル社 田中正(宛)
(送金後にキャンセルした場合、宿泊日の15日前までのキャンセルなら全額返金しますが、14日前から7日前までの間なら20%、6日前から前前日までの間なら50%の取消料を差し引いて返金します。前日と当日のキャンセルの場合は全額返金不可能です。)

(3)観 光=「ハガキに「観光参加希望」と書いて、住所・氏名・電話番号を明記の上、9月30日までに(必着)日本GAP宛お送り下さい。

絶賛発売中

※新アダムスキー全集全巻をまとめてご注文頂きますと定価の10%引き+送料がサービスとなります。

新アダムスキー全集

全面改訂・改訳 全10巻

久保田八郎・訳／各四六判



中央アート出版社・発行 ①104 東京都中央区京橋3-7-13 三成ビル5F ☎03(3561)7017 ●郵便振替 東京8-66324

超絶した大文明を持つ、太陽系の他の惑星群の人々と CONTACT したアダムスキーを米政府機関は密かにマークしていた / UFO や惑星群の驚異の実態と深遠な宇宙思想を伝える本全集は、地球人類に宇宙的覚醒の必要性和真の生き方を示す永遠の古典。UFO と宇宙哲学の研究者にとって必読の名著。旧全集を全面改訂した最新決定版。世界に類書なき金字塔 /

アダムスキー

① 第2惑星からの地球訪問者 352頁・定価1980円

UFO 研究者として世界的に著名なジョージ・アダムスキーの、1952年11月20日、米カリフォルニア州の砂漠に着陸した円盤から出てきた金星人との会見から始まる驚異的なコンタクト実録。著者みずから円盤や母船に乗り組み、他の惑星の超絶的大文明の実態を明かにする、本全集の中心の書。写真多数収録。

アダムスキー

② 超能力開発法 (テレパシー、遠隔透視その他) 192頁・定価1300円

世間に氾濫する通俗的な超能力開発法とは根本から異なる宇宙的能力の発現法を説いたもの。目、耳、鼻、口、の四官をコントロールして、肉体内部の宇宙の意識から来るメッセージを感じ、真の意味でのテレパシー、遠隔透視その他の超能力を身につける方法を具体的に詳述。類書皆無の重要文献。

アダムスキー

③ 21世紀/生命の科学 208頁・定価1300円

アダムスキーが他界する前年に出した12冊分の講座を一冊にまとめたもの。アダムスキー宇宙哲学の総括的な一大金字塔。特に人体細胞の実態と真実のテレパシー、及び霊界通信の誤り等を科学的に解説した超能力開発指導書。心霊現象への接近を警告する画期的な理論を明快に説く、第5巻の続編として必読のテキスト。

アダムスキー

④ UFO 問答100 216頁・定価1300円

1958年にアダムスキーは、世界中から来る質問の洪水を分類して質疑応答集を出した。全部で100問のUFO関係の質問に懇切な回答を与えている。現在の混迷した世界のUFO研究界に的確な示唆と回答を示すものとして、内容は今も驚くほど新鮮で有用である。UFO研究者の素晴らしいガイドブック。

アダムスキー

⑤ 金星・土星探訪記 380頁・定価2400円

アダムスキーが母船に乗せられて、想像を絶する進歩をとげた金星と木星を訪れた体験記。特に金星人の少女として生まれかわった亡き妻メリーとの劇的な対面が圧巻。第2部には1958年以來、日本におけるアダムスキーの代理人として啓蒙活動に専念している久保田八郎宛の多数の書簡を収録。

アダムスキー

⑥ UFO の謎 262頁・定価1980円

UFOの推進原理をはじめ、聖書とUFOとの関連などを詳述して様々なミステリーを解明した重要な文献。第2部はアダムスキーの世界講演旅行記で、各国GAP網の活動状況が克明に描写されていて1960年代のUFO研究界の実情と一般人の宇宙観がよく理解できる。第1巻の続編。

アダムスキー

⑦ 21世紀の宇宙哲学 148頁・定価1030円

地球人が真に宇宙的な成長をとげるための基本的思想として、マインド(心)と肉体内部に宿る宇宙の意識との一体化を説いた書。既成のあらゆる宗教や哲学では理解し得なかった人間の意識と万物との関係を説いて21世紀の思想を先取りした。第5巻、6巻と合わせてアダムスキー哲学の三部作をなす。

アダムスキー

⑧ UFO・人間・宇宙 370頁・定価2400円

アダムスキー支持活動団体として世界のトップクラスをゆく日本GAPの機関誌に掲載された、アダムスキーのUFOと宇宙哲学関係の論文、講演録等を編集。他界する直前の最後の講演が圧巻。第2部には訳者・久保田八郎が再三渡来してアダムスキーの今は亡き高弟たちと接したインタビュー記事を収録。

アダムスキー

⑨ UFO の真相 320頁・定価1980円 1991年4月刊 /

アダムスキーの薫陶を受けた人達の論説・講演録等を収録。宇宙の実像と人間味豊かな庶民性をあわせもつ偉人の素顔を多角的に描写。A氏の高弟アリス・ボマロイ、キース・フリットクロフト、ハンズ・ビーターセン、金星文字を解読して画期的な永久モーターを開発したバシル・バン・デン・バーグらの証言が圧巻。「サンビエトロ大寺院の異星人」と題する久保田八郎の体験記も興味深い。

アダムスキー

⑩ 超人ジョージ・アダムスキー 232頁・定価1300円

壮大な新アダムスキー全集の最後をしめくくる完結篇。アダムスキーの宇宙的な活動と深遠な哲学を集約して伝えるとともに、彼の伝記をも加えてこの1日人の人間像を克明に描写。これ1冊でアダムスキー問題の何たるかが理解できる全集のコンパクト版。豊富な写真入り。国際的なアダムスキー研究者・久保田八郎が書き下ろし執筆。

UFO — 宇宙からの完全な証拠 480頁・定価2800円

ダニエル・ロス著 / 久保田八郎訳

アメリカの気鋭UFO研究者ダニエル・ロス氏が全力で展開したUFO問題の真相。月・惑星探査結果に関するNASA(米航空宇宙局)の隠蔽工作を暴露し、アダムスキーの体験の真实性を科学的に実証した画期的な内容の本書は、UFOの研究者のみならず、宇宙科学に関心ある人にもきわめて有益な知識情報の源泉となる。写真多数掲載。



全国書店で絶賛発売中

UFO・遭遇と真実

四六判・264頁
美麗カバー付

★久保田八郎著

¥1,500 送料 250

かつて本誌に掲載された驚異的なUFO事件を8件選び、わが国UFO研究界の第一人者・久保田八郎が新たに書き下ろし読みやすく編纂した本書は、類書がないほどに不可思議な事件に満ちています。実証主義をつらぬく著者が各事件現場を検証、体験者や証人達に直接会って徹底的に調査した結果、真実そのものであると確認した事件のみを流麗な筆致で活写。豊富な写真・イラストとあいまって読者を遙かな惑星群に誘う稀有の保存資料です。

〈内容〉

- ①関東大震災中に人々を救出した円盤（横浜の世にも珍しい大事件）
- ②東京タワーから目撃されたUFOと搭乗員（東京の素晴らしい目撃体験）
- ③超低空に降下した円盤と、手を振る異星人少年（高松市の驚異的事件）
- ④旭川市郊外の夜空に展開した物凄い光景（上富良野の仰天現象）
- ⑤UFOに乗ってエジプトまで飛んだ少年（松山市の物凄い事件）
- ⑥熱烈な願いに応じて出現したUFOを撮影（東京でのテレパシー体験）
- ⑦尾道市に出現したアダムスキー型UFO（尾道市の偶発事件）
- ⑧円盤や母船に乗って別な惑星へ行ってきた！（秋山真人氏の超絶的体験）



■書店で品切れの際は下記へ郵便振替が現金書留で直接ご注文下さい。

中央アート出版社 〒104 東京都中央区京橋3-7-13 三成ビル ☎03-3561-7017 振替・東京8-66324

※上記の書籍は日本GAPでも取扱います。著者の署名捺印入り。ハガキでご注文下されば代金到着後払いで直送します。

英文版「UFO contactee」No.8 発行 日本GAP

B5判/12頁/コート紙使用/¥500 送料¥175/3冊まで¥250

世界のUFO研究界で絶賛をあびている英文版ユーコン誌は、いまや各国の研究団体や個人研究者から注文が殺到、ロシアや南太平洋のフィージーあたりからも問い合わせがあるほどです。これは、小冊子ながら内容はきわめて重要な情報に満ちており、他に類似専門誌がないからです。No.8は「イエスの実像と転生の法則」の英訳、アダムスキーの講演、その他の記事、写真を満載。英語学習用にも最適。ぜひお求め下さい。（ただしNo.1～No.3は品切れです。）

編集後記

▼本号は金星文字解説による反重力モーター1開発特集号としました。むかしパン・デン・バグによって開発されて以来、誰も手をつけていないと思われていた金星文字解説という事実も私たちの身近で行なわれていたという問題は地球の運命を根底から揺るがすほどの大問題を含んでいることがわかります。▼UFOは依然として出現しつづけます。思いがけぬ場所です。一般人によって目撃されているという事実を考えますと、UFOなるものは本来誰にも見られ得る「普通のなもの」と言えますが、本号の各レポートの執筆者をみますと、何か特殊なカルマを持つ人が特によく目撃するようです。形而上的な問題を考えさせられますね。

▼アダムスキーの哲学はまさに宇宙の法則そのものと言えますが、その裏には異星人のテイニングが骨組みをなしているように思われます。四つの感覚器官のコントロールというのは、かつていかなる宗教哲学も言及しなかった理論です。何か素晴らしいメリットが潜んでいるような気がするのですが。▼UFO目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。原稿書きの苦手な方には面談して取材します。ふるってご応募下さい。

▼本誌は多数のヴォランティアにより全国の主要書店に卸されています。この活動に参加希望の方はハガキでお申し込み下さい。説明書をお送りします。

日本GAP機関誌・季刊 秋季号
UFO contactee 122号

編集発行人 久保田八郎

発行所 日本GAP

〒103 東京都江戸川区本一色1-10-511

☎03-3651-0958

振替 東京4-359112

一九九三年七月二十五日発行

定価九二七円（本体九〇〇円）送料210円

※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物

への無断転載を禁じます。

平成5年度

日本GAP全国月例セミナー案内

支部名	日 時	会 場	会 費	プログラム・テキスト
東京本部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※10月は総会のため月例セミナーは中止。	港区芝公園3丁目5-8「機械振興会館」地下3F第2研修室。 ☎03-3434-8216。JR浜松町駅下車。東京タワーの正面前。 浜松町駅から東京タワー行きバスで約8分。 連絡先=日本GAP本部 ☎03-3651-0958 ※日曜日は正面玄関が閉じられているので、右へ回って建物の右側面の入口から入る。	会場費 ¥1000 セミナー 受講料 ¥1500 計¥2500	1:00→1:30 会員による講演。 1:30→3:00 久保田会長による贈義。 テキスト=5月より「生命の科学」 3:10→5:00 超能力開発練習/近況報告/質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JRまたは阪急電車吹田駅下車。 連絡先=平塚和義 ☎06-436-3478 平成4年1~10月=「尼崎市立産業郷土会館」兵庫県尼崎市東大物町1-1-2	¥500	東京月例会における久保田会長の贈義録音テープを公開。 テキストその他=東京本部に同じ。
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟市東万代町9「新潟市青年の家」(万代市民会館と同じ建物) ☎025-246-7711。JR新潟駅より徒歩5分。 連絡先=星 富治夫 ☎02579-2-5562	¥500	同上
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30 ※9月のみ第1会議室に変更。 10月のみ第3日曜日の17日に変更。	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議室。☎052-331-2141(代)。 JR東海・名鉄・地下鉄の金山橋より徒歩5分。 連絡先=林 国宣 ☎0586-45-6468	¥300	同上
仙台支部	毎月第3日曜日 午後1:10→4:20 ※当分の間、月例セミナーは中止。	仙台市青葉区米ヶ袋1-1-35「仙台市片平市民センター」会議室。 ☎022-227-5333。仙台駅からお霊屋橋経由動物公園方面バスで約7~10分。東北大正門前下車、真向かいの建物。 連絡先=笠原弘可 ☎022-284-2910	¥300	同上
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※日時に変更があるため、毎月月例セミナーの前に柴田宛電話で問い合わせること。	山形県天童市老野森1丁目1-1「天童市中央公民館」 ☎0236-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー4分。天童市役所の裏側。 連絡先=柴田光明 ☎0233-25-3261	¥300	同上
札幌支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時・会場は不定につき、高野宛問い合わせること。	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821。 連絡先=高野省志 ☎011-783-6393	¥500	同上
旭川支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	旭川市五条4丁目「旭川ときわ市民ホール」3F 302研修室 ☎0166-23-5577 連絡先=川上三秀 ☎0166-61-0044	¥500	同上
沖縄支部	毎月第4日曜日 午後1:00→4:30	具市川市栄野比1213-1「具市川市野外レクセンター」会議室。 ☎09897-2-7722 連絡先=里 孝人 ☎098-869-9964	¥500	同上
秋田支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377。 連絡先=伊藤正治 ☎0188-62-2831	¥500	同上
横浜支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※8月のみ第2日曜日の日に変更。	横浜市中区万代町2-4-7「横浜市技能文化会館」7F 703号室。 ☎045-681-6511。JR関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩3分。 連絡先=清水 正 ☎03-5951-3518	¥500	同上
茨城支部	毎月第4日曜日 午後1:20→5:00	水戸市梅香1-2「三の丸公民館」小集會室。 ☎0292-24-6600。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先=清水勝一 ☎0292-73-1903	¥300	同上
長野支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	塩尻市大門7番町「塩尻総合文化センター」第1会議室。 ☎0263-54-1253。 連絡先=博田文喜 ☎0263-58-8510	¥500	同上
紀南会	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※日時と会場については小川宛問い合わせること。	和歌山県新宮市新宮6882-1「新宮市福祉センター」1F相談室。 ☎0735-21-2760。JR西日本新宮駅下車、徒歩5分。 連絡先=(副代表)小川隆志 ☎0735-32-2834	¥300	同上
栃木支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	鹿沼市市役所裏「御殿山会館」1F小会議室。 ☎0289-64-4334。JR鹿沼駅から西へ1.5km。東武新鹿沼駅から北へ1.5km。市内行きのバスに乗り天神町下車。徒歩5分。 連絡先=渡辺克明 ☎0289-62-3319	¥500	同上
南九州支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	指宿市東方12000番地「指宿市民会館」 ☎0993-22-4105 連絡先=鶴田清則 ☎0993-25-3252	¥500	同上
高松支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※日時と会場は変更があるため、関高宛問い合わせること。	高松市番町1-8-22「高松市立市民会館」会議室。 ☎0878-39-2888。JR高松駅より徒歩15分。 連絡先=関 高明 ☎0875-72-2698	¥400	同上
伊豆支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時に変更があるため事前に高梨宛電話で問い合わせること。	静岡県三島市一番町20-5「三島市民文化会館」第3会議室。 ☎0559-76-4455。三島駅より徒歩3分。 連絡先=高梨十光 ☎0558-72-7832	¥500	同上



オーソン肖像写真

新アダムスキー全集第1巻に出てくる金星人の肖像。目撃者アリス・ウェルズ女史のスケッチにもとづいて女流画家ゲイ・ベッツが描いた等身大の油絵の写真。10.5cm×17cm。

¥1,000 送料 ¥120



金星のシンボルマーク

中央の眼は万物を見透すパワーをあらわし、周囲の4層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしています。9.3cm×8.8cm。

¥500 送料 ¥62



ESPカード

超能力開発練習用としてアメリカのデューク大学で開発されたカード。5種類の図形カード各5枚ずつ、計25枚1セット。堅牢な厚紙製。重さ40gの軽量。5.7cm×8.9cm。ポケットに入れて携帯するのに便利なので、どこでも気軽に練習できます。

¥1,600 送料 ¥175



テレフォンカード

日本GAP特製テレフォンカードの第6弾。1952年11月20日、米カリフォルニア州デザートセンターでアダムスキーがコンタクトした金星人が、地面に残した靴の跡の不思議な図形を今回は取り入れました。これは今も謎のままになっています。

¥1,500 送料10枚まで ¥62



GAPキーホルダー

多数の方の要望にお応えして制作したオリジナル・キーホルダー。シンボルマークの周囲を「WITH COSMIC CONSCIOUSNESS(宇宙の意識とともに)」の金文字が取り巻く優雅なデザイン。メタル部分は径3.2cm、全長9cm。

¥1,900 送料 ¥120



会員バッジ

金星のシンボルマークが金色に輝く優雅なデザイン。表面の透明樹脂がキズを防ぎ、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏の留め金が心棒ネジ留め式。女性用は安全ピン式。ご注文の際は、いずれかを明記して下さい。実物径1.7cm。

¥2,000 送料4個まで ¥120



ブックカバー

新アダムスキー全集のカヴァー用に作られたものですが、同じ大きさの四六判の書籍ならどれにも利用できます。表側の中央にシンボルマークと「宇宙の意識とともに」という意味の英文が金色で箔押しされた濃紺色の優雅なデザインです。人造皮革製。

¥1,200 送料 ¥175 5枚まで ¥250

GAPシール

シンボルマークを「宇宙の意識とともに」の英文が取り巻く優雅なデザインのシールです。黒地のため黒カバンや黒い物に最適。色物の品物にも似合います。

¥200 送料10枚まで ¥62



新アダムスキー全集★★★★訳・著者 久保田八郎のサイン・捺印入り!!★★★★

中央アート出版社刊の新アダムスキー全集を日本GAPでも取り扱います。各巻とも扉に久保田八郎の直筆サインと捺印を入れてお届けします。全巻注文の割引はありません。送料はご注文内容によって異なりますので、ご注文の際は書籍代のみご注文下さい。書籍発送の際、送料の請求書と振込用紙を同封します。ハガキでご注文下されば代金あと払いでお送りします。(電話によるご注文はご遠慮下さい)

申込先 住所、氏名、電話番号、商品名、種類、個数等をご明記の上、郵便振替または現金書留でお申込下さい。代金後払いのご注文も承ります。ハガキに上記項目をご記入の上、投函して下さい。品物をお送りするときに専用振替用紙を同封しますから、現品到着後、それを用いて郵便局よりご注文下さい。振替によるご注文は当方へ到着す

るまでに約1週間かかります。この欄の商品はすべて消費税は無関係です。

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511
日本GAP 振替・東京4-35912 ☎03-3651-0958

日本GAP能力開発テープ

●日本GAP東京月例セミナー

毎月開催される東京本毎月例セミナーから、久保田会長の「生命の科学」解説講義と質疑応答その他を録音したものを、これを聴けば絶大な信念と勇気がわきあがり、人生の荒波を超えて成功をめざして堂々と前進できます。

●テープ① ¥1500 送料 ¥175

〈内容〉久保田会長による新アダムスキー全集第3巻「生命の科学」の講義。近況報告付

●テープ② ¥1200 送料 ¥175

〈内容〉会員による講演、超能力開発練習。質疑応答。※1990年以前のバックナンバーあり。往復ハガキでお問い合わせ下さい。

●1992年度日本GAP総会 2巻セット ¥2700 送料 ¥250

〈内容〉久保田会長講演「宇宙的な信念と勇気を起こす方法」。質疑応答。

申込先 申込先「品名」「〇年〇月分」「個数」「お名前・ご住所・電話番号」等を明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。
〒133 東京都江戸川区本一色1-24-3-202
松村芳之 振替・東京0-162644 ☎03-3653-9387

日本GAPビデオ

臨場感溢れる画像があなたを会場に引き込み、宇宙的な一体感を起こします。全巻VHS。

●東京本毎月例セミナー 全1巻 ¥4000

〈内容〉久保田会長の解説講義、他、約120分。

●日本GAP総会 全2巻 ¥3000

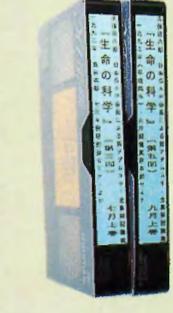
〈内容〉毎年開催される日本GAP総会を完全収録。(1989年度分から在庫あり)

●日本GAP海外研修旅行 全1巻 ¥3000

〈内容〉旅行のハイライトをまとめた楽しいビデオ。

●1992年度デザートセンター調査行 全1巻 ¥3000

〈内容〉1952年11月20日、アダムスキーが金星人とコンタクトした地点その他を調査した記録。送料はビデオ1本 ¥360。2本以上3本まで ¥670。4本以上7本までは距離に応じて変わります。



申込先 ご注文の際は品名、0年0月分、上下巻の区別、個数、住所氏名、電話番号を明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。
〒162 東京都新宿区富久町36-18 富久マンション103
伊東芳和 振替・東京4-13811 ☎03-3351-9526

先着500名様限り
サジェストロニクス
超高速英語学習
ラニング
無料進呈
試用
デモテープ

「短期間に英語をマスターしたい。ほんとうにしゃべれる英語を身につけたい。」
と願って、しかも飽きのこないテープがほしい。そんな方にぜひお勧めします。
BGMとして楽しんでいるだけで「自然に英語を口ずさみ始める」
●BGM感覚で聴き流しているだけで、自然に英語が身につくという、ブルガリア出身のバルザン博士の手になる超高速学習テープ「サジェストロニクス・ラーニングテープ」がアメリカからやってきました。
●実際の効果を試せる「試用デモテープ」を、この広告をご覧の方、先着500名様無料で差し上げます。
●お申込みは今すぐ下記の住所までおハガキ、お電話でどうぞ。

サジェストロニクス・ラーニングテープとは、モーツァルト、バッハ、ピブルグリー等々のクラシック音楽に、ブルガリアで特訓を受けた加達教育ナレーションの専門家が独特の技法を用い、音楽と絶妙のハーモニーをかもし出しながら、3パターンの特レーションを吹き込んだ特殊な超高速学習テープ。
●歌の歌詞を憶えるように自然に頭に入ってゆく。●何度聴いても飽きがこない。●BGM感覚で、心地よく苦痛なしに聴ける。●このテープの特徴。子供が母親から言葉を吸収してゆくように、自然に体が英語を吸収してゆきます。
下記までおハガキ、又は電話で「超高速英語学習デモテープ希望」と明記してお申込み下さい。詳しい案内書と試用デモテープをお送りします。

サブリミナルテープ[®] 無料進呈!
サブリミナルテープ[®]の美しい音楽をBGMとして聴くだけで—
あなたの人生が変わる!

●「記憶力・集中力強化」「魅力的性格」「学力向上」「減量」「心のやすらぎ」「最高の頭脳」等々を努力なしに現実のものにしてくれる、アメリカからやってきた「サブリミナルテープ」がNHK等でも紹介され、話題になっています。
●実際の効果を試せる「試用サンプルテープ」(心身の安らぎ・頭脳の活性化・記憶力の向上に効果あり)を、この広告をご覧の方、先着500名様無料で差し上げます。今すぐおハガキ、お電話でお申込み下さい。
サブリミナルテープとは、ストレスを解消し、気分をさわやかにする特殊な音楽に、「特定の効果をもたらす」耳に聴えない周波数に変換された心理的メッセージを同調させた特殊な音楽テープ。BGMとして聴き流しているだけで、潜在能力が開発されたり、理想的な習慣が身につきます。「試用サンプルテープ」と同時に「能力開発」「心身の健康」「性格の改善」等の各シリーズの案内書をお送りいたします。

1,2,3のいずれかをお選び下さい。

サンプルテープ1 ●テーマ名=リラクゼーション
●効果=心身の安らぎ・ストレスコントロール・脳の活性化。●イライラした時、勉強の前、気分が乗らない時などに聴くと効果的。
サンプルテープ2 ●テーマ名=マッサージ
●効果=心身の安らぎ・疲労回復・大脳、全身の血行促進。●疲れた時、風呂上がり、夜眠れない時等に聴くと効果的。
サンプルテープ3 ●テーマ名=記憶力を高める
●効果=記憶力の向上。頭が冴えない時、勉強の前等に聴くと効果的。●繰り返し聴く事により記憶力が徐々に向上していく。

能力を飛躍的に引き出す最終兵器
クリアなデジタルサウンドで潜在意識をダイレクトに刺激



更なる自己実現 新発売
サブリミナルCD
コンパクト・ディスク

★アメリカでは年間50万本以上の爆発的大ヒット! 全米の研究機関でも実証済み!! ★

知能活性新シリーズとしてCD版登場!
多数のお客様より好評を頂いておりますサブリミナルテープシリーズ、従来はカセットテープのみの販売でしたが「是非ともCD化して欲しい」と数多くのお客様の声を頂き、その要望に応えるべく研究を重ねついにサブリミナルCDの開発に成功致しました。よりクリアなサウンドで音楽としても更に楽しめるだけでなく、潜在意識の層で眠っている自分の本来の能力を引き出します。あなたのサウンド・コレクションの一つに加えて頂ければ幸いです。

知能活性新シリーズであなたも**スーパーマンに!!**
知能活性新シリーズは超人に変身する目的で開発されたサブリミナルCDのことです。超人に変身するとは、従来ほんのわずかしが使用されていなかった能力を自覚めさせ、それを最大限に活かす能力的超人に変身させることです。そのためのCDが次にあげる6枚です。
1 基本知能の自覚め 2 総合知能の向上 3 記憶力の強化 4 脳波(アルファ波)強化 5 思考力を身につける 6 独自才能を自覚させる
ご覧頂いた通り異なる6つの角度から知能の活性化を行いビジュアルで能力開発を更にサポートします。自分の才能を伸ばし活躍された方にとっては、まさにピッタリのテーマです。

特別特典サービス!
サブリミナルビジュアルサポート
ビデオソフト付
■頒布会方式 (5回目の発送時にビデオ1本同封) 商品代金4,800円×6回+送料・梱包代700円
■一括お届け方式 (発送物・CD6枚とビデオ1本) 商品代金25,800円+送料・梱包代700円
(※各方式とも消費税は別)

希望
41 郵便はがき 107
アメリカライブラリー社
東京都港区南青山 2-9-24
1904 係

●住所
●氏名
●電話番号
●年令
●職業

試用サンプルテープ・デモテープ、又はサブリミナルCD購入をご希望の方は、住所・氏名・年令・職業・電話番号を明記の上、「無料サンプルテープ①又は②又は③希望」「超高速英語学習デモテープ希望」、または「サブリミナルCD購入希望」と左記までおハガキか、お電話の方は下記までお申込み下さい。(今回のお申込みでお届けしたテープ・案内書等の返品義務や商品購入の義務は全くありませんので安心してお申込み下さい。)

お電話での申込みは ☎0120-363-002 受付時間AM8~PM23 (日・祝日も受付中)